

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{16m} 1 2 3 4 5

61
139

始



1-256

2

衛生叢書

第六輯

61-139

衛生叢書 第六輯

目次

- 一 都市生活貧困状態ノ研究 (英國)
- 一 現今ニ於ケル飲料水並ニ廢水ノ鑑定ニ對スル化學的分析ノ價值 (獨逸國)
- 一 細菌學上ノ見地ヨリ見タル水ノ鑑定ニ付キテ (獨逸國)
- 一 佛國公共衛生ニ關スル千九百二十二年二月十五日ノ法律
- 一 血清等販賣取締規則 (米國)
- 一 獨逸ニ於ケル結核豫防ノ現況
- 一 阿片取締條例 (米國)
- 一 第三回阿片會議々事錄

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
三二	二一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三二	二九	九二	二〇	〇八	八七	七五	五	五	五
二五	四七	六八	七五	四七	六一	〇一	〇一	〇一	頁

大正
6. 4. 4
寄贈

一 伊太利國勞働者保險制度	自三五三
一 社會的病因ヲ國家ハ如何ニ防衛スルカ (獨逸國)	自五五三
一 公共保護ト個人保護 (獨逸國)	自六六五
一 英國救貧制度摘要	自六六三
一 獨逸帝國救貧制度概要	自七〇〇
一 佛國救助法大要	自七〇六
一 精神病者ニ關スル法律要領 (佛國)	自七一〇
一 紐育州救貧法摘要	自七一七
一 精神病法 (紐育州)	自七二一
一 佛國施療救助法	自七二七

衛生叢書 第六輯

○都市生活貧困狀態の研究

貧困ト衛生程度トノ關係

今マ予カ此編ニ於テ論述セント欲スル事柄ハ、貧困ト衛生程度トノ間ニ最モ親密ナル關係ヲ有スルコト是レナリ、時ニ或ハ當ヨウク市ノ公衆衛生ノ問題ニ論及スルコトアルヘシト雖モ、畢竟スルニ是レ本問題ニ關聯スル事柄ニ過キス、

ヨウク市一般ノ衛生狀態

ヨウク市ノ所在地質ハ河川ノ砂地ニシテ時ニ或ハ泥炭ニ屬スル箇所アリテ全ク一定スル所アラズ、其表面以下ノ地層ハ滲透シ難キ漂石粘土ニシテ其厚サハ六十呎乃至百呎ナルカ、尙ホ其下層ハ新タナル赤色ノ砂石ヨリ成レルモノナリ、地ノ表面ヨリ下ルコト六吋乃至十六吋ニシテ右ノ粘土層ニ達スヘキナリ、去ルカラニ地ノ表面ハ動モスレハ不潔ニナリ易キナリ、當市ノ地盤ハ甚ハタ低クシテ或ル箇所ノ如キハ海拔僅カニ三十呎ニ過キサルモノアリ、且ツ地面極メテ平坦ナルカ故ニ空氣ノ新陳代謝スルコト稀レニシテ不便不利ヲ感スルコト少ナカラサルナリ、試ミニ見ヨ丘陵谿谷起伏シテ地面波狀ヲ呈スル箇所多ケレハ從ツテ空

二
 氣ノ交換作用多カルヘキナリ、然ルニ當市ノ地盤ハ平坦砥ノ如クナルカ故ニ然ルコト能ハサルナリ
 氣象的狀態、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ過去若干年間ニ於ルヨウク市ノ氣象的狀態ヲ、我カ聯合王國內ノ各
 所ニ於ル他ノ市邑ト對照比較シテ示シタルモノ是レナリ

種別	平均温度 (一千八百七十一年ヨリ一千八百九十五年ニ至ルノ間)				年	時	時間	比
	一月ヨリ三月マテ	四月ヨリ六月マテ	七月ヨリ九月マテ	十月ヨリ十二月マテ				
ヨウク	三九〇	五一四	五八四	四二四	四七八	二五九五	一二八〇	二九
倫敦	四〇三	五三九	六一二	四四三	四九九	二四八四	一二四〇	二八
具羅斯哈	三九一	五〇二	五六〇	四二二	四六八	三九六一	一〇九五	二五
ダブリン	四二二	五二二	五八四	四五二	四九五	二七五五	一五一四	三四
マンチエスター	三九二	五一〇	五七六	四二六	四七六	三七八一	—	—
ケムブリツヂ	三九一	五一〇	五七六	四二六	四七六	三七八一	—	—
					四八七	二三三九	一五二二	三五

平均雨量 (一千八百六十六年ヨリ一千八百九十五年ニ至ル)

日光輝ケル晴天ノ時間 (或ル出來得ル期間ノ百分比例)

ヨウク市ニ於ル工場ノ煙突ハ近年大ニ増加シタリト雖モ、尙ホ未タ煙害アル市ト云フヘカラサルナリ、市内ノ空氣ハ全ク純清ニシテ人ノ心氣ヲ爽快ナラシムルマテニハ至ラスト雖モ、割合ニ清潔ナリト云フヘキナリ

三
 下水疏通及衛生狀態ノ事、當市ノ下水工事ハ第一編ニ於テモ既ニ論述シタルカ如ク稍ヤ困難ナル事業ト云フヘキナリ、是レ他ナシ市ノ地盤カ極メテ平坦ナルカ故ニ、下水ノ疏通上自カラ困難ナルヘケレハナリ、然レトモ既ニ提案トナレル下水工事ノ設計ハ、其費用二十萬封度以上ナリシカ、一千八百九十七年ニ至リテ完成ヲ告ケタリ、抑モ此下水工事ノ設計タルヤ市ノ中央部ヨリ殆ンド四哩隔リタル箇所ニ急下設備ヲ爲シ、此所ニ於テ化學作用ヲ以テ下水ヲ適當ニ處分シ、其水分ハオーセ河ヘ落シ、軟泥ハ之ヲ乾燥シテ肥料ニ充ツルコト、セリ

下水工事右ノ如ク改良セラレタリト雖モ尙ホ未タ完全無缺ナリト云フヘカラス、是レ他ナシ舊來ノ不都合ナル下水カ尙ホ依然トシテ其儘棄テ置カレ、且ツ下水ニハ新舊共ニ空氣流通ノ途十分ナラサレハナリ予ハ市内ノ戸別調査ヲ必要ナリト主張シテ調査スル所アリシカ、其調査中家々ノ下水疏通ノ不完全ナルコトニ關シテ注意セシメタルモ、尙ホ未タ之ニ關シテ統計表ヲ作成シ得ヘキ報告ヲ得サリシナリ、然レトモ左記ノ事柄ニ就テハ充分ナル報告ヲ得タリシナリ、曰ク(イ)便所ノ設備、(ロ)給水、(ハ)中庭及敷地ノ衛生狀態、(ニ)棟割長屋ニ關スル多クノ報告等是レナリ、斯クテ此等ノ事柄ヲ綜合シテ審カニ研究シタランニハ、當市ノ衛生狀態ノ全般ヲ知ルニ足ルヘキナリ

便所ノ設備、此設備ニ關スル報告ニ據リテ之ヲ考フルニ便所其モノ而已ノ便利ナルコトヲ主眼トシテ、衛生上ニ適スルト否ラサルトハ毫モ顧リミサリシモノ、如シ、今マ實地ニ就テ調査シタル家屋一萬一千五百

六十軒アリシニ、其内自家専用ノ便所ヲ有セサルモノ三千百三十軒アリ、尙ホ之ヲ換言スレハ調査シタル家屋全數ノ二七%ハ自家専用ノ便所ヲ有セサルモノト謂フヘキナリ、尙ホ當市内ニ於ル家屋全數ノ上ヨリ打算スレハ其二〇%餘ハ自家専用ノ便所ヲ有セサルモノト謂ツテ不可ナカルヘキナリ、僅カニ一ヶ所ノ便所ヲ二戸若クハヨリ以上ニテ共用セルモノ其計三千百三十戸アリ、之ヲ尙ホ細別スレハ左記ノ如クナルヘキナリ

二戸ニテ一便所ヲ共用セルモノ	一千四百九十八戸
三戸ニテ同上	九百二十七戸
四戸ニテ同上	三百五十二戸
五戸ニテ同上	百二十五戸
六戸ニテ同上	百二十六戸
七戸ニテ同上	四十九戸
八戸ニテ同上	十六戸
九戸ニテ同上	九戸
十三戸ニテ同上	十三戸
十五戸ニテ同上	十五戸

三千百三十戸

右ニ掲ケタル表ノ示ス所ニ依レハ百二十六戸以下合計二百二十八戸ニテ夫々共用セル所ノ便所ハ僅カニ三十三ニ過キサルコト知ルヘキナリ

市内ニテ勞働者ノ多ク居住セル方面ノ便所ノ大部分ハ糞便堆積の便所ナリ、今マ衛生醫官ノ報告スル所ニ據レハ一千九百年ノ終末ニ於テヨウク市中此種ノ便所ハ六千四百十八ヲ算セリト云フ、而シテ此種ノ便所ハ灰棄場ヲモ兼ネタルモノナリ、故ニ此等ノ二者ノ堆積セラレ、ハ云フマテモナキコトナリ、公衆衛生上ヨリ之ヲ見レハ其有害ナルコト亦タ疑フヘキ所ナシ、好シ屢々之カ清潔法ヲ行フト雖モ衛生上害アルヲ免カレス、況ンヤ之ヲ行ハサルニ於テヲヤ、殊ニ一千九百一年一月以前ハ此等ノ便所ニ就テ清潔法ヲ行フ度毎ニ市役所ヨリ一仙宛ノ手数料ヲ徴收シタルモノナリ、此等ノ便所ノ所有者ハ斯ル手数料ヲ取ラル、ヲ欲セス、從ツテ汚物ヲ益々多ク堆積シテ顧ミサルヨリ其不潔ナルコト得テ想像スヘキノミ

一千九百年ニ於テ衛生醫官ハ地方廳ノ要求ニ應ジテヨウク市ニ窒扶斯熱ノ流行シタル事ニ就テ報告書ヲ作成シテ差シ出シタルカ、今マ其概要ヲ擧クレハ左ノ如シ『窒扶斯熱ニ罹リタル患者全體ヲ一括シテ之ヲ考フルニ、此疾患ハ概シテ糞便堆積の便所ト最モ親密ナル關係ヲ有スルモノ、如シ、尙ホ之ヲ換言スレハ便所ノ設備甚ハタ不完全ナル所ヨリ、窒扶斯熱大ニ流行シタルモノト謂フヘキナリ、而シテ斯ル便所ノ設備カ如何ニ不完全ナルヤト云フニ、其糞壺ノ内側及下底カ「セメント」叩キニナリテ居ラス、之ニ加フルニ其

内側ノ破レタルモノ許多ナルカ故ニ、隣接地ノ汚物カ自然ニ浸入シ來レルコトハ勢ヒノ免カレサル所ナリ好シ又タ此等ノ便所ノ内側及下底カ「セメント」叩キニ成リ居レリトスルモ、如何ニモ不充分ニシテ隣接地ノ汚物ノ浸入シ來ルヲ防止スルニ足ラス、且ツ其大半ハ内側ニ龜裂ヲ生シ之ヨリ汚物浸入シテ下底ニ溜ルコト數寸、尙ホ之ニ加フルニ糞便堆積シテ「セメント」叩キノ箇所ヨリ以上ニ溢レテ、其不潔ナルコト得テ想像スヘキノミ、便所ノ有様斯クノ如クナルカ故ニ窒扶熱流行ノ媒助タルコトハ亦タ怪シムニ足ラス」現ニ衛生的視察ノ行ハレ居ル時（一千八百九十九年）此等ノ糞便堆積の便所ノ極メテ不潔ナルコト實ニ云フヘカラサル程ナリキ、具羅斯哈市ノ衛生的視察長官カ同市ノ糞便堆積の便所ノ事ニ關シテ記載シタル一書アリ、以ツテヨウク市ノ有様ニ適用シテ見タランニハ全ク同一ノ感ニ打タレスンハアラス、「斯ル便所ノ不潔ナル程度如何ハ此地ノ貧民窟ニ來リテ數日間實地ヲ目撃シタル人ノ外、何人ト雖モ想像シ得ルコト能ハサルヘシ、殊ニ此等ノ便所ノ糞便ヲ掃除人夫ノ汲ミ取ル場合ノ如キハ、其臭氣最モ甚ハタシク何人ト雖モ鼻ヲ蔽ハスンハ耐ルコト能ハサルヘシ、好シ之ヲ攪亂スルコトアラス通常ノ儘ニ打テ棄テアル場合ト雖モソヨトノ風ナク温和ナル天候ナランニハ、何時モ其惡臭極メテ甚ハタシク所謂「臭氣九天ニ聞ユ」トノ諺モ斯クヤト思ハル、ハカリナリ、嗅神經ノ稍ヤ穎敏ナル家妻ナランニハ斯ル便所ト十五呎位隔タリ居ラシモ尙ホ且ツ窓ヲ開カサレハ耐ヘラレサルヘシ」

ヨウク市中貧民窟ノ便所所在地如何ト云フニ、其飲食スル所ト僅カニ厚サ四吋半ノ壁ヲ隔タテタルノミ

其臭氣ノ襲ヒ來ル有様容易ニ想像シ得ラルヘキノミ

給水状態、市内ノ給水ハオーセ河ヲ利用シテ供給セラル、モノ是レナリ、其水源地ハ當市ヨリ一哩隔タリタル上部ニアリ、其水质ハ硬クシテ且ツ純清ナリ、而シテ此水道事業ハ私營ニ係ルモノニシテ其用水費ノ如キハ各戸家賃ノ五%ト定メ、尙ホ其上附加金ナルモノアリ、水淨の便所付ノ家賃ノ家賃ニ比例シテ三志乃至九志八「ダイム」及各浴室ニ就テ九志四「ダイム」ト定メラル、此外市中ニ少數ノ深キ堀井戸アリテ其水ハ主トシテ製造業ニ利用セラル、モノナリ、今回調査ノ結果ニ依リテ之ヲ視ルニ市内二千二百二十九戸ヨリ少ナカラサル數カ各自別箇ノ給水ヲ有セサルコト判明シタリ、即チ勞働會社ニ屬スル家屋全數ノ一九%ニ相當スヘク、且ツ市内ノ家屋全數ノ一五%ニ相當スヘキノナリ

各自一個ノ水道栓ヲ有セス二戸若クハ其以上ニテ僅カニ一個ノ水道栓ヲ共用スルモノヲ表ニシテ示セハ左ノ如シ

二戸ニテ僅カニ一個ノ水道栓ヲ共用スルモノ
 三戸ニテ同上ノモノ
 四戸ニテ同上ノモノ
 五戸ニテ同上ノモノ
 六戸ニテ同上ノモノ

百六十四戸
 百二十六戸
 三百八十戸
 百七十戸
 二百七十六戸

七戸ニテ同上ノモノ	百四十七戸
八戸ニテ同上ノモノ	二百戸
九戸ニテ同上ノモノ	百八戸
十戸ニテ同上ノモノ	百五十戸
十一戸ニテ同上ノモノ	六十六戸
十二戸ニテ同上ノモノ	百八十戸
十三戸ニテ同上ノモノ	五十二戸
十四戸ニテ同上ノモノ	十四戸
十五戸ニテ同上ノモノ	四十五戸
十七戸ニテ同上ノモノ	十七戸
廿一戸ニテ同上ノモノ	四十二戸
廿二戸ニテ同上ノモノ	四十四戸
廿三戸ニテ同上ノモノ	二十三戸
廿五戸ニテ同上ノモノ	二十五戸
計	二千二百二十九戸

右ニ掲ケタル表ニ依リテ之ヲ考フレハ百八十戸以下都合四百四十二戸ニテ共用スル水道栓ハ、僅カニ三十個ニ過キサルノ少數ナルコト知ルヘキノミ

數軒ノ家ニテ僅カニ一個ノ水道栓ヲ共用スル場合ニハ、其内ノ或ル家ハ甚ハタシキ不便アルコト往々免カレサル所ナリ、即チ水道栓ノ所在地カ餘程隔タリタル箇所ニ在リテ僅カノ水量ヲ汲ミ取ランニモ困難ナルコト是レナリ、況ンヤ洗濯其他ノ家事勝手向ニ多量ヲ要スル場合ニ於テヤ、且ツ共用水道栓ノ下邊ノ不潔ナルコト亦タ云フヘカラサルナリ

中庭及後庭 今マ大ナル中庭及後庭ノ事ニ關シテ左ニ詳述スル所アラントス、抑モ此等ノ中庭及後庭等ノ周邊ニハ數多ノ家屋カ建設セラル、モノニシテ、其中庭及後庭等ハ一個人ノ私有ニ屬スルモノニアラス、其周邊ナル數多ノ居住者ノ共用ニ供セラル、モノト知ルヘシ

ヨウク市中ニハ大ナル中庭ノ數殆ント百五ヶ所アリ、概シテ市中ノ貧民窟ト稱セラルヘキ箇所ニ設ケラレタルモノナリ、内全ク敷石ノ設ケラレサルモノ五十七ヶ所、幾分カ敷石ノ設ケアルカ或礫石ヲ敷キタルモノ十ヶ所、全部敷石アルカ若クハ礫石ヲ敷キタルモノ三十八ヶ所アリ、而シテ此等ノ中庭ノ有様如何ト云フニ多クハ是レ不衛生的ニシテ其近邊ニ居住スルモノ、衛生上ニ有害ナルコトハ云フヲ要セサルナリ
今マ左ニ條項ヲ逐フテ記載スル所ノ事柄ハ貧民窟ノ狀況視察員ノ備忘録ヨリ拔萃シタルモノニシテ其狀態如何ヲ詳カニ知ルコトヲ得ヘキナリ、但シ中庭ノ名稱ハ之ヲ省キタルモノト知ルヘシ

第一、中庭ニシテ敷石ナキモノハ極メテ不潔ナルモノナリ、其中庭内ニ塵芥棄場ナルモノアリテ、塵芥山ノ如ク積ミ重ネラレテ其惡臭ノ甚ハタシキ殆ント耐フルコト能ハス、僅カニ一ヶ所ノ便所ヲ五戸ノ共用トス

第二、大ナル中庭ニシテ敷石ナク其中央部ニ格子形ノ下水抜アルモ、種々様々ノ塵芥汚物ノ爲メニ閉塞セラレテ其不潔ナルコト云フヘカラス、僅カニ一ヶ所ノ便所ヲ四戸ノ共用トス

第三、不潔ニシテ敷石ナキ中庭アリ、便所及塵芥棄場ヨリ發スル惡臭殆ント耐フヘカラス、此中庭中ニハ僅カニ一個ノ水道栓ヲ六戸ノ共用トナシ、一ヶ所ノ便所ヲ四戸ノ共用トス

第四、敷石ナキ中庭ニシテ其表面ニ數多ノ穴アリ、塵芥棄場ト一ヶ所ノ便所ヲ四戸ノ共用トス、此中庭ニ隣接セル家屋ニ一ノ蓋被ナキ塵芥棄場アリ、炎天若クハ雨天杯ニ是等ノ箇所ヨリ發スル臭氣ノ甚ハタシキ形容スルコト能ハス

第五、敷石ナキ中庭ニシテ其不潔ナルコト極メテ甚ハタシク、塵芥棄場アルモ塵芥溢ル、ハカリニシテ中庭全部カ殆ント塵芥棄場ト一般ナリシ

第六、中庭敷石ナクシテ其不潔ナルコト亦タ云フヘカラス、中ニ就テ低地ニ屬スル箇所ニ至リテハ暴雨ニ際シ氾濫シテ恰カモ川流ニ異ナラス、其借家人ノ如キ不潔ニシテ酒食ヲ貪リテ飽クコトヲ知ラサル有様ナリシ

第七 中庭ニ敷石ナシト雖モ清潔ニシテ一ヶ所ノ塵芥棄場ヲ六戸ノ共用トナシ、便所ハ二ヶ所ニ過キサルモ甚ハタ清潔ナリシ

第八、中庭ニ敷石ナク塵芥棄場及便所等皆ナシ不潔ナラサルハナク、其内低地ニ一ノ屠畜場アリテ其惡臭ノ甚ハタシクシテ鼻向ケナラス

第九、中庭ニ敷石ナク塵芥棄場及便所等不潔ナルコト極メテ甚ハタシク何トモ手ノ着ケヤウナシ、其甚ハタシキニ至リテハ其便所ノ周邊ヨリ汚物ノ漏出シテ不衛生ノ有様得テ想像スルヘキノミ

第十、中庭ニ敷石ナク塵芥棄場ニ覆蓋ナク、近キ頃マテハ製革及毛皮製造用ニモ兼用サレタリシカ、今日ニ至リテハ斯ル製造業ノ塵芥棄場ハ別ニ設ケラレタリシモ、其惡臭ノ甚ハタシキ亦タ云フヘカラス

第十一 中庭ニ敷石ナク其惡臭ノ厭フヘキ殆ント形容スルコト能ハス、一箇所ノ便所ヲ六戸ノ共用トナシ居レルカ、此中庭ニ隣接シタル家屋ハ斯ル惡臭ノ爲メニ殆ント居住スルコト能ハス

第十二、中庭ハ磊石ヲ以テ敷キ詰メラレ如何ニモ清潔ナリ、又タ毎戸便所ノ設ケアリシ

第十三、中庭ノ幾干ノ敷石ノ設ケアリ又タ幾分ノ磊石ニテ敷キ詰メラレタリ、格子形ノ下水抜ハ其宜シキヲ得タルモノニアラスシテ其惡臭甚ハタシ、此中庭中便所ノ設ケアルモ修理スルコト能ハサル有様ナリシ

第十四、大ナル塵芥棄場ハ覆蓋ナクシテ廢棄場充滿シ、之ヲ荷車ニ積ミタランニハ其半以上ニモ達スヘキナリ概シテ中庭全般カ不潔ナリシ

第十五、中庭ハ磊石ヲ以テ敷キ詰メラレ、二戸毎ニ一箇所ノ便所アリ概シテ清潔ナリト謂フヘシ

第十六、中庭ハ前者ト同様ニシテ便所ハ清潔ニシテ綺麗ナリ、然レトモ此中庭ニ入ラントスルニハ狹少ナル路次ヲ通過セサルヘカラス、而シテ此路次ニハ屠畜場ヨリ流れ來レル二條ノ下水アリテ其惡臭云フハカリナシ

第十七、中庭ニハ敷石アルモ塵芥棄場ニハ覆蓋ナク、二箇所ノ便所アルモ不潔ナリ、二本ノ臭氣抜アルモ其高サ家屋ヨリ一層低キカ故ニ其臭氣ニ堪ヘラレスト居住者ハ不平ヲ鳴ラセリ、尙ホ其他ノ惡臭モ甚ハタシ

第十八、中庭中敷石アル部分ハ可ナルモ其他ノ部分ニ至リテハ甚ハタ不潔ナリ、然レトモ居住民ハ清潔ヲ好ミテ中庭ヲシテ不潔ナラシメサル様注意スル所アリシ

食用肉類供給、ヨーク市中私設屠畜場ノ數九十四ヶ所ヲ下ラス、而シテ此屠畜場ハ人口最モ稠密ナル貧民窟中如何ニモ狹隘ナル路次ニ設ケラレタルコト珍シカラス、之ニ加フルニ種々ノ動物ヲ屠殺シタル鮮血ハ普通ノ下水ニ流レ込ムコト、ナリ、其流レ込メル格子形ノ入口ハ住宅ニ接近シタル場合少ナカラス、然ルニ斯ル地方ノ住民ハ其惡臭ニ慣レタル爲メニヤ、不平ノ聲ノ曾テ起シタルヲ聞カス、又タ此九十四ヶ所ノ

屠畜場ノ構造法如何ト云フニ地方廳ヨリ發布シタル附則ナルモノニ適合シタルモノ一ヶ所トシテ之レアルナシ、實ニ不都合ナリト云ハサルヘカラス

右ノ如ク人家ニ最モ密接シテ屠畜場ノ建設セラレタルハ、獨リ其住民ニ取リテ害アルノミナラス、其箇所ノ數多ナルト其所在地ノ狀況ニ依リテ充分ニ視察スルコト能ハサルノ不便ナクンハアラス

牛乳供給、ヨウク市ニ於テ實際費消セラル、所ノ牛乳ハ皆ナ是レ近隣ノ地方ヨリ供給セラル、モノナリ、而シテ此等ノ近隣ノ地方ト雖モ大仕掛ニ牛乳ヲ製造スル箇所アラス、多クハ是レ僅カニ數頭ノ牝牛ヲ有スル小規模ノ牛乳屋ノ多數ノ手ニ歸セサルヲ得ス、中ニ就テ一頭若クハ二頭ノ牝牛ヲ有スル牛乳屋サヘ之レアリテ、之ヲ飼養シ之ヲ取リ扱フ方法ニ至リテハ甚ハタ不十分ナリト謂ハサルヘカラス、斯クテ此等ノ多數ノ牛乳屋ハ其製出シタル牛乳ヲ一ノ商人ニ賣リ渡シ、此商人ヨリ夫々費消者ヘ配達スルコト、ナリ居レリ、既ニ斯ル次第ナルカ故ニ好シ牛乳ヨリ傳染病ノ導カレ來リタル場合アリトスルモ、果シテ何レノ箇所ヨリ發生シタルヤヲ討尋スルコト甚ハタ困難ナリト謂フヘキナリ、然ルニ一千八百九十九年ノ發布ニ係ル製乳所及牛舎取締規則ノ附則ナルモノガ今日(一千九百一年)實行サレテ、牛舎改良上大ニ見ルヘキモノアリ、然レトモ之ヲ製造スル所及之ヲ配達スル有様等充分ニ視察スルコト甚ハタ困難ナリト思ハル

衛生上有害ナル商業、右ニ述ヘタルカ如ク牛乳製造業ハ衛生上有害ナルモノアリト雖モ、ヨウク市ノ官邊ニ於テ然カク思惟スル模様ナキハ實ニ遺憾ナリト謂フヘキナリ

當市ノ重要ナル統計

今マ左ニ記載スル所ノ統計ハ一千八百九十八年ニ於ルヨウク市ノ出生及死亡比例ヲ他ノ都府ト比較シテ示シタルモノ是レナリ、而シテ斯ル重要ナル統計ノ基礎トナルヘキヨウク市ノ人口調査ハ、一千八百九十八年ニ係ルモノニシテ實ニ正確ナリト謂ツヘキナリ、蓋シ其正確ナルコトハ一千九百一年ニ於ル國勢調査ノ結果ヲ發表セラレタル數字ノ證明スル所ニ外ナラス、又々他ノ都府ニ於ル衛生及死亡比例ハ其基礎ヲ何レニ取リタルヤト云フニ、所謂ル登記所帳簿ニ記載サレタル人口ニ基キテ計算シタルモノ是レナリ、然レトモヨウク市程正確ノモノニアラス、然レトモ他ノ數多ノ都府ノ人口數ハ平均數ヲ取リタルモノナリ、勿論此等ノ都府ノ人口計算中或ハ高キニ失スル場合アルヘク或ハ低キニ失スル場合モアルヘキナリ、人口計算ヲ基礎トシテ調製スル統計表ノ斯ル誤謬アルハ往々免カレサル所ナレハ強イテ咎ムルニ足ラス

種別	每年諸口ノ死因ニ係ル人口毎千人ニ付テノ死亡比例	出生毎一千人ニ付十二月未滿ノ幼兒死亡比例	出生毎一千人ニ付十二月未滿ノ幼兒死亡比例	人口毎一千人ニ付毎年出生比例
ヨウク市	一八・五	一七・六	一七・六	三〇・〇
英吉蘭及威爾斯	一七・六	一六・〇	一六・〇	二九・四
三十三ノ最大都府	一九・〇	一七八	一七八	三〇・三
六十七ノ他ノ大府(ヨウクモ此内ニアリ)	一七・二	一七三	一七三	二九・四
一百以内ノ大府ヲ有スル英吉蘭及威爾斯	一六・七	一一六	一一六	二八・八

(一)ハ更ニ一千八百九十九年及一千九百年ニ於ルヨウク市ノ同一ノ表ヲ左ニ示スモノ

ヨウク市	諸口ノ死因ニ係ル死亡比例	出生毎一千人ニ付十二月未滿ノ幼兒死亡比例	出生	出生比例
一千八百九十九年	一六・六	一五・六	三〇・三	三〇・三
一千九百年	二〇・三	二二・一	二九・三	二九・三

此表中一千九百年ニ於テ死亡比例ノ高キハ重モニ塞扶斯熱及夏季下痢症ノ傳染病熾ンナリシニ因ル右ニ掲ケタル統計表ノ示ス所ニ據リテ之ヲ觀レハ左記ノ如キ事實自カラ明ラカナルヘシ、曰クヨウク市ノ衛生状態ハ他ノ三十三ノ最大都府ト殆ント同一ナルモ、英吉蘭及威爾斯ニ比較スレハ一層劣ル所アリ、又タヨウク市ト同一ノ大サナル他ノ都府ニ於ル衛生状態ノ平均點ニ比較スルモ尙ホ且ツ劣リタル所アクンハアラス、抑モヨウク市ノ死亡比例ヲ他ニ比較シテ稍ヤ高キ所以ノモノハ他ナシ、恐ラクハ衛生状態ノ劣リタル所アルニ歸スヘキナリ、尙ホ之ヲ詳言スレハ市内ノ貧民窟ニ屬スル部分ハ概シテ甚ハタシキ不衛生ノ状態ニテ久シク打チ續キタレハナリ、然レトモ今日ニ至リテハ衛生ノ局ニ當レル官憲カスル貧民窟ノ改良法ニ關シテ多大ノ注意ヲ拂ヒ居レハ、恐ラクハ當市ノ死亡比例ノ減少シ來ルハ左マテ遠キニアラサルヘシ一千九百年ヨリ以前ハ衛生醫官ナルモノ曾テアラサリシナリ、然ルニ同年ヨリ斯ル醫官ナルモノ設ケラレテ專ハラ其身ヲ衛生事務ニ委ヌルコト、ナリタルヨリ、大ニ衛生事業ノ進歩ヲ見ルニ至レリ、此衛生醫官

ノ下ニハ傍ラ私營醫業ニ從事スル醫師モ加ハリテ衛生事業ノ發展ヲ助クルコト、ナレリ
過去數年間ニ於ルヨウク市ノ出生及死亡比例ニ關スル報告ハ一種ノ趣味アルモノト謂ツヘキナリ、今マ其
一例ヲ左ニ掲ケン

『ヨウク市ノ歴史家ドレーク氏ハ都合七ケ年間ノ出生及死亡ノ數ヲ調査シタリ、即チ其期間ハ一千七百
二十八年八月五日ヨリ一千七百三十五年八月五日ニ至レル七ケ年はレナリ、而シテ此期間ニ於テ調査
シタル結果ヲ視ルニ出生數ニ比シテ死亡數ノ超過スルコト平均一ケ年間ニ九十八名ナリシ、而シテ總テ
大都府ト稱セラル、箇所ノ出生數ト死亡數トヲ人口ニ比例シテ見ルニ、二十七名ノ人口ニ就テ一人ノ出
生スル割合ニ當リ、其死亡數ハ二十一名、七七ノ人口ニ就テ一名ノ割合ニ當レリ、即チ之ヲ換言スレハ
年々一萬八百名ノ人口ニ就テ四百九十八名ノ死亡シタルニ相當スルモノナリ、尙ホ此死亡數ハ人口一千
人ニ就テ四十六名、一ノ割合ニ當レルモノト知ルヘシ』

次ニ一ノ報告アリ之レハ一千七百七十七年ヨウク市ノドクトル、ホワキト氏カ欽定倫敦協會ニ差シ出シタ
ル報告ナルモノナリ、此時ニ方リテハ出生比例カ死亡比例ヨリ一層多カリシナリ、ドクトル、ホワキト氏
ハ一千七百七十年ヨリ一千七百七十六年ニ至ル七ケ年間ノヨウク市ノ死亡數ヲドレーク氏ノ表ト比較シタ
リシナリ、ホワキト氏ハ二種ノ異ナレル方法ニ從ツテヨウク市ノ人口ヲ算出シテ一萬二千七百九十八人ト
セリ、但シドレーク氏ノ所說ヲ公表サレシ後若干年間ニ二千人ノ人口増加シタリシナリ、然レトモ年々死亡

平均數ノ減退シタルコト殆ント四十五ニシテ、出生數ノ年々死亡數ニ超過シタルハ二十一ナリシナリ、且
ツ死亡數ヲ試ニ人口ニ比例シテ見シカ、年々人口二十八人・二二ニ對シテ一名ノ死亡スル割合ナリ、尙ホ
之ヲ言ヒ換フレハ死亡比例ハ人口毎一千人ニ就テ年々三十五人・四ニ當レルモノ是レナリ

ドクトル、ホワキト氏ノ說ニ曰ク最近四十五年間ニ死亡率減少シテ出生比例ノ増加シタルハ、畢竟スルニ
左記ノ如キ事實ニ起因セスンハアラス、其一班ハ血清接種法ノ行ハル、ニ至リタル事、醫藥ノ改良進歩ニ
基ケル事、長幼共ニ衛生狀態ノ改良進歩シタル事等是レナリ、又タ他ノ一班ハコノ最近年間ニ市中到ル所
ノ有様ノ大ニ改良セラレタルニ基ツカスンハアラス、今マ同氏ノ著述ニ係ル『市街』ト云ヘル一書ノ記載ス
ル所ニ據レハ、近年市街ノ有様大ニ一變シタリシナリ、今マ其重モナルモノヲ擧ケンカ、第一市街ノ道幅
大ニ廣クナリタル箇所甚ハタ多キニ居レリ、斯ク道路ヲ取り擴ゲルニ就テハ勢ヒ從來ノ家屋ヲ取り拂ハサ
ルヘカラス、從來ノ家屋建築法タルヤ衛生上ニ適スルヤ否ヤノ問題ニハ左マテ重キヲ置カス、從ツテ空氣
ノ流通、日光ノ射入等其宜シキヲ得サリシモノ比々皆ナ是レナリ、道路取廣メニ就テハ斯ル不衛生ノ家屋ヲ
取り拂フタルカ故ニ自カラ其面目ヲ新タニスルコトヲ得タリ、而シテ街路新タニ敷石ヲ敷キ詰メタル箇所
少カラス、下水疏通ヲ善クシ雨水ヲ屋外ヘ誘出スルニハ最新式ヲ用フルカ故ニ土質善ク乾燥シテ清潔ナル
コト得テ想像スヘキナリ、此外當市ノ下邊四哩ヲ隔タリタル箇所ニ水閘ヲ設ケテ下水ノ疏通ヲ便ナラシメ
タリ、是レヨリ先キヨウク市ノ地盤甚ハタ低下セルヨリ下水疏通甚ハタ其宜シキヲ得サルヲ以テ動モスレ

瘵	八〇五	一一六	一一一
氣管支炎、肺結核、肋膜炎	八〇五	一一六	一一一
心臓	七五	一四四	二二四
傷	七	九五	一〇〇
早	四八	一九	二六
衰弱、産後衰弱、元氣沮喪、消耗症	四八	一九	二六
瘰癧	七八	七八	四八
瘰癧 <small>(生齒期ヨリ來ルカ、營養不長等ヨリ生ズル)</small>	七八	七八	四八
結核性腦膜炎、腸間膜削瘦、及諸	四五	四五	四五
ロノ結核病	四五	四五	四五
其他	三四	四二四	四五八
計	五五一	八三五	一、三八六

二〇

窒扶斯熱ハ連年流行シタレハ之ニ關シテ聊カ説明スル所ナクンハアルベカラス、即チ一千八百九十八年ニ於テハ同患者百三十二名アリテ内死亡者十七名、一千八百九十九年ニ於テハ同患者百三十四名アリテ内死亡者二十六名、及一千九百年ニ於テハ同患者二百四十四名アリテ内死亡者三十八名ナリシ、斯クテ一千九百年ニ於テ地方局ハ衛生醫官ニ對シテ特別ニ窒扶斯熱流行ノ原因ヲ調査シテ報告スル様ニトノ訓令ヲ下シタリシニ、衛生醫官ハ其調査ノ結果ヲ左ノ如ク報告シタリ、曰ク窒扶斯熱流行ハ重モニ糞便堆積の便所ノ數多ナルニ起因スルモノ、如シ、蓋シ此種ノ便所ハ其構造多クハ不完全ニシテ其汚物カ外部ニ洩レテ之ニ

隣接セル箇所ヲ不潔ナラシメ、從ツテ該病毒傳播ノ媒助タレハナリ

ヨウク人類別區域ノ生命統計

本論第二十三枚目ノ初メニ掲ケタルヨウクノ死亡比例ノ平均數ヲ示シタルモノナリ、即チ富有好過ノ市民ノ住居セル地域ニ於ル死亡率ノ低キモノト、窮困悲境ノ貧民窟ニ於ル死亡率ノ高キモノト平均數ヲ示シタルモノ是レナリ、今マ余ノ論述セント欲スル所ハ之ヲ貧民窟ニ屬スル勞働社會ニ限ルコト、ナシ、貧困ト貧困ニ伴フ所ノ有様ハ社會ノ衛生上ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキカヲ研究セント欲ス、予ハ斯ク目的ヲ定メテ勞働社會ニ屬スル貧民窟ヲ三區ニ類別シテ以テ論述セント欲ス

- 第一、最低貧民區
- 第二、中等貧民區
- 第三、最高貧民區

右ノ内第一區ニ屬スル分ハ僅カニ一地方ノミヨリ成立テタルモノナレトモ、第二第三ニ至リテハ然ラス、其區域自カラ大ナラスンハアラス

第二、第三ニ屬スル地域ハ夫々數多ノ小部落ヨリ成リ立テタルモノニシテ、其部落ハ必ラスシモ互ニ相隣接シタルモノニアラス、各々一種特殊ノ境遇ニアリテ生活スルモノト知ルヘシ

予ハ夫々衛生上ノ程度如何ヲ講述スルニ先シテ、簡短ニ三區ニ就テ述フル所アラントス

第一號 最低貧民區

最低貧民區ハヨウク市中大ナル地域ヲ占ムルモノナリ、此貧民區中一家ヲ成セルモノ一千六百四十二ニシテ其人口ハ六千八百三人ナリ、即チ平均一家ニ共住スルモノ四人・一四ニ當レリ、尙ホ之ヲ細別センニ内四千七百三十七人即チ全數ノ六九・三%ハ貧困状態ノ生活ヲ爲シ居ルモノナリ、而シテ此最低貧民區ノ出生比例如何ト云フニ毎千人ニ付テ三九・八三%ナリ、之ヲ全市ニ於ル出生比例平均數ト比較センニ一層多キコト毎千人ニ付テ九名ナリシ、又タ此地域中ニハ勞働者ノ總テノ種類之レナキハナク、何タル技術ナク單純ナル勞働ニ服スルモノ最モ多キニ居レリ、或ハ何等カノ手工ニ長シテ一層上等ナル地區ニ居住スヘキモノ幾子カ之レアリト雖モ其平生ノ習慣ニ至リテハ確乎タル所アラス、且ツ此ノ最低貧民區中ニハ愛爾蘭ヨリ流レ來レルモノモ少ナカラサルナリ、夏季中耕耘ニ從事スル婦人多少之レアリト雖モ、少壯者ノ多數ハ男女ヲ問ハス何等カノ工業ニ從事セリ、而シテ此地區ハ市内舊來ノ部分ニ屬シテ市ノ廓壁内ニアリ、又タ廣キ道路カ此地區ノ一部分ヲ貫通シ、家屋店舖ノ相當ナルモノモ或ハ之レアリテ可ナリノ生活状態ヲナシ居レリ、然レトモ横合小路等ニ入りテハ所謂主トシテ貧民窟タラスンハアラス而シテ此等ノ地方ニハ居酒屋ナルモノ三十九戸アリ、之ヲ人口ニ比例シテ見レハ百七十四人毎ニ一軒宛ノ居酒屋アル割合ニ當レリ、内三十四戸ハ正當ニ其筋ノ許可ヲ受ケテ營業シ、他ノ五戸ハ「ビール」店ト謂ツベキモノニシテ、尙ホ之ニ加フルニ營業許可ヲ得ズシテ居酒屋ヲ營メルモノ四戸アリシ

此地方ノ一部分ヲ横斷セル一ノ河流アリ、名ケテフホツス河ト云フ、此河流ハ夏季ニ際シテ多少停滯靜止シテ不潔極マリナシト雖モ、魚類ノ繁殖ニ就テハ更ニ妨ケラル、コトナカルヘシ中庭等ノ大半ハ敷石ナク、塵芥棄場及糞便堆積の便所ハ極メテ稀レニ清潔法ヲ行フニ過キサレハ其不潔ナルコト得テ想像スヘキノミ

一千六百十三人即チ此地方ノ全人口ノ殆ント四分ノ一ハ餘リニ密集シテ棲息シ居レリ、尙ホ之ヲ換言スレハ狭キ一室内ニ二名以上同居セリ、且ツ一千六百十三人ノ内二百名ハ僅カニ狭キ箇所ニ夥タ、シク密集シ居レリ、即チ一室ニ四名以上同居セル有様ナリシ、蓋シ僅カニ此一事ノミヲ以テモ其衛生上ニ有害ナルコトヲ得ルヘキナリ、狭キ場所ニ多人數密集シ居ルハ衛生上ニ害アルコトハ最早言フヲ要セス、尙ホ此外ニモ不衛生ノ顯象ヲ見ルコト最モ多シト云フ

然レトモ不衛生ノ家屋果シテ幾許アルヤヲ確カメ得ンハ實際不可能ノ事ト云フヘキナリ、然レトモ今マ左ニ記載スル所ノ事實ヲ見タランニハ、不衛生ノ程度ノ概要ハ之ヲ窺ヒ知ルニ足ルヘキナリ、抑モ此地方ニハ春中合セノ家屋五百八十四戸アリ、之ヲ同地方全家屋數ニ比例スレハ殆ント其三分ノ一ニ當レリ、又タ一千六百四十二ノ家屋中一個別々ノ便所ヲ有スルモノハ僅カニ七百四十二戸ニ過キス、残り九百戸ハ二戸若クハ二戸以上ニテ一個ノ便所ヲ共有スルモノト謂ツヘキナリ、而シテ此等ノ便所ノ大半ハ最モ不潔ナルコトハ云フヲ要セサルナリ、其他給水ノ事モ甚ハタ不充分ナリト云ハサルヘカラス、家屋全般ノ中ニテ自

家専用ノ水道栓ヲ有スルモノハ其半數ニ足ラサルナリ、或ル箇所ノ如キハ二十戸以上ニテ僅カニ一個ノ水道栓ヲ共用スルモノサヘアリ、斯クノ如キ有様ニテハ衛生上ノ程度如何ハ想像スルニ難カラサルナリ

第二號 中等貧民區

勞働社會中生活ノ狀態中等ニ位スヘキモノ三箇所アリ左ノ如シ

一、クロウヅス地方ノ若干部

二、ナンネリー、ラン地方ノ若干部

三、リーマン、ロウド地方

此地方ニ於テ一ヶ所ノ便所ヲ二戸ニテ共用セルモノ

三百三十四戸

同シク三戸ニテ一箇所ノ便所ヲ共用セルモノ

三百八十一戸

同シク四戸ニテ一箇所ノ便所ヲ共用セルモノ

百四戸

同シク五戸ニテ一箇所ノ便所ヲ共用セルモノ

三十五戸

同シク六戸ニテ一箇所ノ便所ヲ共用セルモノ

三十戸

同シク七戸ニテ一箇所ノ便所ヲ共用セルモノ

七戸

同シク九戸ニテ一箇所ノ便所ヲ共用セルモノ

九戸

此地方ニ於テ二戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ

五十六戸

- 同シク三戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 五十二戸
- 同シク四戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共有セルモノ 百十二戸
- 同シク五戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 八十戸
- 同シク六戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 百五十戸
- 同シク七戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 五十六戸
- 同シク八戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 七十二戸
- 同シク九戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 三十六戸
- 同シク十戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 七十戸
- 同シク十一戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 十一戸
- 同シク十二戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 六十戸
- 同シク廿二戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 二十二戸
- 同シク廿三戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 二十三戸
- 同シク廿五戸ニテ一箇所ノ水道栓ヲ共用セルモノ 二十五戸

此等ノ地方ニ於テ一家族ヲ成セルモノ總計二千五百九十九戸ニシテ其人口ハ九千九百四十五人ナリ、而シテ此人口ヲ平均スレハ一戸ニ就テ四人六五ノ家族ヲ有スルコト、ナレリ、又タ此等ノ人口中三千六百九十九

人即チ人口全數ノ三七%其生活程度「第一等貧民」若クハ「第二等貧民」ト謂ツヘキモノナリ、居酒屋ノ多數ハ此等ノ地方ノ外邊ニアリテ其内部ニアルモノハ僅カニ九軒ニ過サキルナリ、之ヲ其人口ニ比例スレハ一千百五人毎ニ一軒ノ居酒屋アル割合ニ當レルナリ、故ニ第一等貧民區ノ百七十四人毎ニ一軒ノ居酒屋アルニ比スレハ一層少ナキモノト謂ツヘキナリ、而シテ此等ノ九軒ノ居酒屋ノ内七軒ハ其筋ヨリ營業認可ヲ受ケ其他ノ二軒ハ「ビール」店ニ屬スルモノナリ、且ツ其筋ヨリ認可ヲ受ケサルモノ一箇所アリ、其他此等ノ地方ノ出生比例如何ト云フニ、人口毎一千人ニ就テ四〇・三二%ナリシナリ

此等ノ地方ニ居住スル人民ハ勞働者ノ總テノ種類ヲ含マサルハナシ、但シ此等ノ人民ノ中ニハ是レト云フ一定ノ職業ナキ低級ノ勞働者及最高貧民モ幾分カ共住シ居ルモノト知ルヘシ、而シテ此等ノ勞働者ノ居住スル所ノ家屋如何ト云フニ、無造作ノ二階建家屋ニシテヨウク産薄黒キ煉瓦石ヲ以テ疊ミ、屋根ハ石盤葺ニシテ此所彼所ニ小規模ノ店舗アルヲ見ルヘシ、市街ハ概シテ相當ノ幅アリ家屋ハ清潔ト謂ツヘキナリ、然レトモ棟割家屋三十二戸アリ、其他ハ背後全ク密閉セラレテ更ニ入口ナク、彼ノ糞便其他ノ塵芥類ハ居住所ヲ通過セサレハ之ヲ他ニ運ヒ去ルコトヲ得ス、便所ノ如キモ水淨裝置ノモノ或ハ之アリト雖モ概シテ糞便堆積のナリ、且ツ其内三百六十戸即チ家屋全數ノ一六・六七%ハ一箇所ノ便所ヲ二戸若クハヨリ以上ノ共用トセリ

給水ノ事ハ全ク充分ニ行キ届キ居レリ、然レトモ二百四十八戸ハ別個ノ水道栓ヲ有セス共用栓タラサルハ

ナシ

リーマン、ロード地方ニ於ル家屋ハ稍ヤ近時ノ建築ニ係ルモノニシテ、彼ノ給水費ノ如キモ概シテ最も低廉ナリシナリ

第三號 最高等貧民區

既ニ前段ニ於テモ述ヘタル如ク勞働社會中最高等ト云フヘキ部分ハ、當市中ノ或ル部分ニ限ラレタルモノニアラス、因リテ目今調査ノ目的ヲ貫徹センカ爲メニ、各所ニ最高等ノ部分々々ヲ選擇シテ之ヲ述フルコト最も必要ナリト謂ツヘキナリ、乃チ斯ク選擇セラレタル地方ノ戸數ハ總計一千三百四十八、其人口ハ總計五千三百三十六人ニシテ、之ヲ平均スレハ毎戸三名、九六ニ當レルモノ是レナリ、而シテ此等ノ人々ハ僅カニ一人トシテ第一號若ハ第二號ニ屬スル貧民會テ之レナキナリ、所謂ル第三號ニ屬スルモノノミナリ而シテ此等ノ地方ニ於ケル出生比例如何ト云フニ人口毎一千人ニ就テ二十九名ナリシナリ、今マ之ヲ第一號若クハ第二號ニ比較センニヨリ少ナキコト殆ント四分ノ一ナリシ、此第三號ニ屬スル人民ハ凡ソ勞働者ノ如何ナル種類ニテモ皆ナ悉ク網羅セサルハナシ

此地方ニ於テ二戸ニテ一便所ヲ共用セルモノ

二百七十八戸

同シク三戸ニテ同上

六十九戸

同シク四戸ニテ同上

八戸

同シク五戸ニテ同上 五戸

二戸ニテ一水道栓ヲ共用セルモノ 六十戸

三戸ニテ同上 二十一戸

四戸ニテ同上 百八戸

五戸ニテ同上 五戸

六戸ニテ同上 十八戸

八戸ニテ同上 二十四戸

十二戸ニテ同上 十二戸

戸主ニシテ何等ノ技倆モナク單純ナル勞働ニ服シテ收入ノ少ナキモノハ、其子供等ノ勞働ニ依リ其ノ家計ノ幾分ヲ補助セサルヘカラス、夏季ニ際シテヨウク市以外ニ出稼キスルモノハ數日ノ休日ヲ取ルモノ少ナカラス、而シテ此等ノ家屋ハ通例六室乃至八室ヲ有セリ、浴室ヲ有スルモノハ實ニ僅々タルノミ此等ノ地方ニ於テハ人口充溢スルコト曾テアラサルナリ、即チ狹キ家屋内ニ多數ノ人ノ群居スルコトアラサルナリ、棟割家屋更ニ見當ラス、街路ノ如キモ之ヲ第一號及第二號ノ貧民區ニ比スレハ一層廣キナリ、而シテ此地方ノ家屋ニハ概シテ其前面ニ小規模ノ花園アリテ人ノ耳目ヲ喜ハスニ足ルヘキナリ、又タ此區域内ニハ決シテ居酒屋アラサルナリ、但シ極メテ接近シタル他ノ區域内ニハ之レアルヲ見ルヘシ

概シテ之ヲ言ヘハ此區内ニ居住スル所ノ人民ハ其生活狀態衛生的ニシテ、甚ハタ愉快ニ其日々ヲ送ルモノト謂ツヘキナリ
以上三種ノ貧民區ノ有様ヲ叙述シ來リタルカ、請フ是レヨリ此等ノ貧困狀態ト衛生トノ關係ニ就テ聊カ述ル所アラントス、吾人カ以上掲ケタル所ノ統計表ハ衛生醫官ノ國勢調査ニ基ケルモノニアラス、予カ今回ノ調査研究ノ材料ニ爲サンカ爲メ特ニ收拾シタル國勢調査ニ基ツケルモノナレハ、最モ正確ナリト自カラ信スル所ナリ

一般ノ死亡比例 (一)

死亡比例ナルモノハ人民ノ身體ノ健康狀態如何ナルヤヲ知ルニ足ルヘキ目標ト云ツヘキナリ

(一) 貧民三區ニ於ケル死亡比例ヲ實際極メテ精密ニ比較シテ其差異ヲ知ラント欲セハ、勢ヒ斯ル各區

ニ於ル人口ノ年齢別ヲ精密ニ知ラサルヘカラス、取り分け各區ニ於ル年齢五歳以下及以上ノ數ヲ

精密ニ知ランコト最モ肝要ナリ、好シ此等ノ事實ニ就テ報告ヲ得ルコト甚ハタ難シト雖モ、右ニ

掲ケタル統計表ニ基キタル結論ヲ動カスヘキ事實ハ決シテナカルヘキナリ

三 貧民區ノ死亡比例調査ノ結果トシテ左記ノ如キ事實ヲ得タリ

第一號 貧民區ニ於テハ人口每一千人ニ就キテ毎年ノ死亡比例 二七・七八

第二號 貧民區ニ於テハ同様ノ死亡比例 二〇・七一

第三號 貧民區ニ於テハ同様ノ死亡比例

ヨウク市全般ニ於テハ同様ノ死亡比例

一三・四九
一八・五

右ノ表ノ示ス所ニ依リテ之ヲ考フレハ左ノ如キ事實ハ自カラ明ラカナルヘキナリ、曰ク貧民區中第一號貧民區ノ死亡數ノ最モ多キコト、第三號貧民區ニ比スレハ二倍以上ニ當レルコト知ルヘキノミ
是レニ由リテ此ヲ觀レハ死亡率ノ甚ハタ高キ箇所ハ一般ノ衛生程度甚ハタ低ク、且ツ登記セラレサル疾病等ノ甚ハタ多キ所ニ外ナラサルナリ、故老德ブレフアキア一氏ハ曾テ曰ク登記セラレタル死亡數ナルモノハ其實數中ノ僅カニ一部分ニ過キサルナリ、今マ之ヲ譬ヘテ言ハ、彼ノ難破船ノ海岸ニ漂着セルモノハ決シテ難破シタル船舶ノ實數ニアラサルト一般ナルノミ、疾病達和ノ激浪怒濤ニ捲キ込マレ或ハ暗礁ニ乗リ上ケテ軀命ヲ損シタルモノ甚ハタ多キ中ニ、登記所ノ臺帳ト云フ海岸ヘ打ケラレタルモノハ實ニ僅々タリト云ハサルヘカラス

年齢五歳以下ノ幼童死亡數

吾人ハ今マ三貧民區中死亡シタルモノヲ年齢五歳未滿ノ幼童ノミニ限リテ調査シタル結果左記ノ如キ死亡數ヲ得タリ

- 第一號ノ貧民區ニ於テハ總テノ年齢別中每一千人ニ就キテ毎年ノ死亡數 一三・九六
- 第二號ノ貧民區ニ就テハ同上 一〇・五〇

第三號ノ貧民區ニ於テハ同上

ヨウク市全般ニ於テハ同上

六〇〇
七・三七

現在ノ研究調査上ヨリ之カ觀察ヲ下サンニ以上掲ケタル統計表ニ基キテ此レト彼レトノ事實ヲ對照比較セントスル場合、左記ノ如キ事柄ハ之ヲ人々ノ心頭ニ留メ置カサルヘカラス、曰ク第一號及第二號ノ貧民區ニ於ル出生比例ハ每一千人ニ就テ四十人ノ割合ナリシニ、第三號ノ貧民區ニ至リテハ僅カニ二十九人ニ過キサルナリ、蓋シ斯ル事實ハ年齢五歳未滿ノ幼童ノ死亡比例ニ關スル統計表ニ影響ヲ及ホスヘキモノト謂ハサルヘカラス、今マ假リニ第三號ノ貧民區ニ於ル出生比例ヲシテ人口每一千人ニ就テ四十人タラシメタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ恐クハ年齢五歳未滿ノ幼童ノ死亡幾分カ高クナリタルニ相違ナカルヘキナリ

十二ヶ月未滿ノ幼童ノ死亡數

吾人カ生後十二ヶ月未滿ノ幼童ノ死亡數ヲ調査シタラン場合ニモ亦タ是レ前者ト同様ノ事實ヲ見出スヘキナリ、即チ甚ハタシキ貧困者ノ居住セル部落ニ其死亡數ノ極メテ多キヲ知ルニ足ルヘキナリ、以上掲ケタル三貧民區ノ外更ニ一階級ヲ加ヘテ幼童死亡數ノ統計ヲ示サント欲ス、其加フヘキ階級トハ奉公人ヲ召使フ程度ノモノ是レナリ、其統計左ノ如シ

- 第一號貧民區ニ於ル出生每一千人ニ就キ 二百四十七人 生後十二ヶ月未滿
- 第二號貧民區ニ於テ同上 百八十四人

第三號貧民區ニ於テ同上

百七十三人

ニシテ死

奉公人使用ノ階級ニ於テ同上

九十四人

亡シタル

ヨウク市全般ニ於テ同上

百七十六人

モノ

右ニ掲ケタル表ノ示ス所ニ據レハ貧困最モ甚ハタシキ第一號區ニ於テハ生後十二ヶ月未滿ニシテ死亡シタルモノ、出生毎四名ニ就キテ一名ノ割合ニ當レリ、均シク此貧民區中ニテモ一ノ教區ニ屬スル部分ハ生後一ケ年未滿ニシテ死亡スルモノ出生毎三名ニ就テ一名ノ割合ニ當レリ、斯ク死亡數ノ甚ハタ多キハ畢竟スルニ衛生状態ノ甚タ不良ナルニ歸セスンハアラス

時トシテハ一種ノ異論ヲ立ツルモノアリ、曰ク幼兒ノ死亡數甚ハタ高キハ個人々々ニ取リテ固ヨリ悲酸ナル事ニ相違ナシト雖モ、他ノ一面ヨリ之ヲ觀レハ大ニ慰藉スヘキ現象タラスンハアラス、即チ羸弱ナルモノ皆ナ悉ク剪除セラレテ強健ナルモノノミ生キ殘ルコト、ナルヘケレハナリト、然レトモ是レ架空ノ想像說ニシテ實際決シテ然ルヘキモノニアラス、成程或ハ例外トシテ生キ殘リタルモノ、内ニテ甚ハタ強健ナルモノモ之レアラン、斯クノ如キハ全ク例外ニ屬スヘキモノニシテ、生キ殘リタルモノ、大半ハ其體軀甚ハタ貧弱ナルニ過キサルノミ

第三號ノ貧民區ノ幼兒死亡數ハ之ヲ奉公人召使ノ階級ニ比較シテ甚ハタ高キハ果シテ如何ノ理由アルカ、必ラス相當ノ理由アルニ相違ナカルヘキナリ、此貧民區中家屋ノ構造法ハ割合ニ完全ナルモノト謂フヘキ

ナリ、サレハ幼兒死亡數ノ甚ハタ高キ原因ハ果シテ何ノ邊ニアルヤト云フニ、重モニ子供ノ養育保護法其宜シキヲ得サリシニ歸セサルヘカラス、子供等カ一日ノ中最モ多クノ時間ヲ費スヘキ室内ハ全ク密閉セラレテ、空氣ノ流通其宜シキヲ得サルカ如キハ蓋シ其一ナリ、サレハ貧民窟中最モ上等ナル部分ニテモ尙ホ且ツ衛生上大ニ注意ヲ要スル點ナクンハアラス

第一號ノ貧民區ニ於テ幼兒死亡數ノ甚ハタ高キハ恐ラクハ左記ノ事柄ニ基クモノナラント云フモ決シテ妨ケナカルヘシ、曰ク此貧民區ニ於テ一般ノ死亡比例甚ハタ高キハ、主トシテ幼兒ノ養育保護法其宜シキヲ得サリシニ基ツクモノナラン、貧困カ原因トナリテ幼兒ヲ死ニ至ラシムルモノ一ニシテ足ラスト雖モ、其死因中ノ主ナルモノハ其養育保護法其宜シキヲ得サリシコトナルヘシ、然レトモ死亡比例ノ高キコト全ク幼兒ノミニモ限ラレサルナリ、今年齡五歳未滿ノ幼兒ノ死亡ヲ全ク除外トシテ、五歳以上ノ死亡數ニ限リテ之レカ統計表ヲ擧クレハ左ノ如シ

人口每一千人ニ就キ五歳以上ノ者ノ死亡比例

第一號貧民區ニ於テ人口每一千人ニ就キ毎年ノ死亡比例

一三・八

第二號貧民區ニ於テ同上

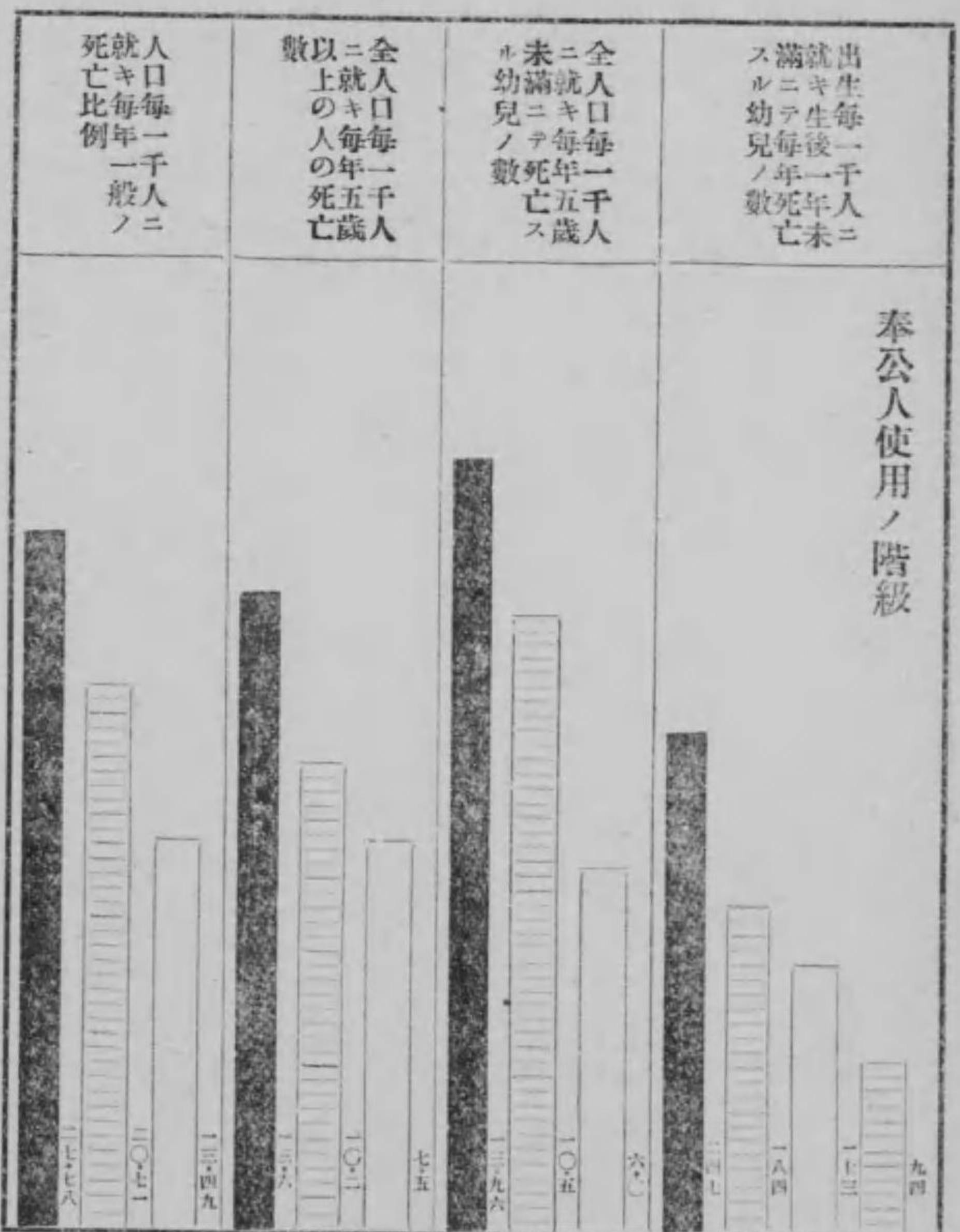
一〇・二

第三號貧民區ニ於テ同上

七・五

ヨウク市全部ニ於テ同上

一一・一



一號貧民區
 二號貧民區
 三號貧民區

右ニ掲ケタル表ノ示ス所ニ據リテ之ヲ觀レハ、第一號貧民區ノ死亡比例ハ好シ五歳未満ノ幼童ノ死亡數ヲ除外スルモ、第三號貧民區ノ死亡比例ニ比スレハ、殆ント二倍高キコトヲ知ルニ足ルヘキナリ
 學童ノ體軀狀態ノ事

本書第五編ニ於テ貧民ノ體軀甚ハタ低劣ナルコトヲ論述シタリ、蓋シ甚ハタシキ貧民ニ至リテハ體力ヲ維持スルニ足ルヘキ食料ヲ取ルコト能ハサレハナリ、予ハ今マ此等ノ論點ノ實證ヲ示サンカ爲メニ彼ノ勞働社會ニ貧民區ノ學童ノ多數ニ就キテ、直接ニ其體軀狀態ヲ調査シ以テ其結果ヲ人命統計ニ作成シテ讀者ニ見エント欲ス、蓋シ三貧區ノ區分ハ矢張り前述シタルモノト全ク同一ナルモノト知ルヘシ

第一區ノ幼童、貧困最モ甚ハタシキ階級

第二區ノ幼童、貧民中等ニ位スル階級

第三區ノ幼童、同シク最上等ニ位スル階級

調査シタル幼童ノ全數ハ一千九百十九名ニシテ之ヲ男女ニ分テハ男生一千十四名女生九百五名ナリトス、内三百八十四名ノ男生ト二百八十七名ノ女生ハ第一區ニ屬シ、三百九十三名ノ男生ト三百九十七名ノ女生ハ第二區ニ屬シ、二百三十七名ノ男生ト二百二十一名ノ女生ハ第三區ニ屬スルモノト知ルヘシ、斯クテ全數一千九百十九名ノ幼童ハ一々其體重ト身長トヲ測リ、且ツ兩生ノ年齢等ヲモ確カメ得タリ、之ニ加フルニ各幼童ノ體軀狀態ノ全般ヲ示スコト、セリ

吾人カ今マ茲ニ此等ノ幼童ノ體重及身長ヲ或ル國民ノ衛生程度ト比較シ得タランニハ一種ノ興味アルヘキナリ、然レトモ主論ノ關係上斯ル比較ヲ爲スノ必要之レナキナリ、體重及身長ノ平均程度ハ國中ヲ通シテ一概ニ論スヘキモノニアラサルナリ、國中到ル所ニ於テ其平均程度ニ於テ互ニ變動スル所ナクンハアラス去ルカラニニケ所ニ於ル調査結果ノ比較ハ畢竟スルニ人種ノ差異アルニ歸スヘク、人ノ榮養及體軀狀態ニ歸スヘキモノニアラス、且ツ體重調査ノ結果タルヤ其調査ヲ爲スヘキ季節ニモ關係スル所ナクンハアルヘカラス、此事ニ就キテハ博士カール、ピアーン氏ヨリ本書ノ記者タル予ニ對シテ一書ヲ寄セラレタルコトアリ、左ノ如シ、『予ノ親シク調査シタル結果ヨリ之ヲ考フレハ成人ノ體重ナルモノハ冬季ト夏季トニ於テ其着類ノ重サニ多少ノ相違アルハ毫モ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス、一定ノ循環的變動ノ生スルモノナリ、然レトモ幼童ニ至リテハ其體重カ此循環的變動ヲ示スノ度合成人ニ比スレハ甚ハタ輕少ナルモノナリ、但シ幼童ニ至リテハ一方ニ於テ生成發達ノ度合強キカ故ニ成人ト同一視スヘカラサルナリ』、然レトモヨウク市調査ノ結果ト或ル國民ノ調査結果トヲ對照比較センハ不可能ナリト雖モ、彼ノ三貧民區ノ幼童ノ體重ト身長トヲ調査シテ互ニ之ヲ比較センコトハ爲シ得ラルヘク又タ信憑スルニ足ルヘキモノナリ、斯クテ此調査ハ各所ノ學校皆ナ同時ニ實行セラレタリ、即チ一千九百年十月ニ實行セラレタルモノ是レナリ、但シヨウク市中ニ在ル小學校全般ニ亘レルモノナルカ、内市中愛爾蘭人ノ多ク居住セル方面ヨリ入學スル學校ハ之カ調査ヲ爲サ、リシナリ、故ニ此等ノ三貧民區ノ間ニ於テ其體重ト身長トニ差異アルハ畢竟スル

ニ其幼童若クハ其兩親等ノ生活狀態如何ニ歸スルモノト謂ツテ妨ケナカルヘシ、既ニシテ斯ル調査ノ結果ハ之ヲ三項ニ分チテ叙述スヘシ、身長、體重及體軀ノ概況是レナリ
身長、三貧民區ニ於ル各年齢別ニ就テ幼童ノ身長平均點ヲ舉レハ左ノ如シ

年齢別	男生ノ身長(平均)			女生ノ身長(平均)		
	第一區(極貧)	第二區(中等)	第三區(最上等)	第一區(極貧)	第二區(中等)	第三區(最上等)
三歳ヨリ四歳ニ至ル	三六一	三九三	三九三	三七	三九	三八
五	四〇	四一	四二	四〇	四二	四一
六	四二	四三	四五	四一	四三	四三
七	四五	四六	四五	四四	四五	四六
八	四七	四七	四七	四六	四七	四八
九	四八	四九	五〇	四八	四九	四九
十	四七	五一	五二	五〇	五一	五一
十一	五三	五三	五四	五一	五三	五三
十二	五三	五五	五六	五三	五五	五五
十三	五五	五六	五八	五六	五七	五八
右綜合平均	四五	四八	四九	四七	四八	四八

今マ左ニ掲クル所ノ表式ヲ一見シタランニハ恐ラクハ右ニ示シタル表ハ一層容易ク了解セラル、ニ相違

カルヘキナリ

右ニ掲ケタル表ニ據リテ之ヲ考フレハ左ノ如キ事實ハ自カラ明ラカナルヘキナリ、曰ク極貧部落即チ第一區ニ於ル男生及女生ノ平均身長ハ各年齢別ヲ通シテ、第三區ニ於ル幼童ノ身長ニ比スレハ一層低キモノナリ、然ルニ第二區ニ於ル幼童ノ平均身長ハ他ノ二區ノ身長ノ中間ニ位セリ、又タ男生十三歳ニシテ學業ヲ終了シテ退學スルノ際極貧部落ニ屬スルモノ、身長ハ第三區ニ屬スルモノ、身長ニ比シテ三吋半低クカリシナリ、

體重 身長ノ方ニテハ身體ノ發育其宜シキヲ得サルモ甚ハタ高キモノ往々ニシテ之レアリ、然レトモ體重ノ方ニ至リテハ然ラス、必ラス發育如何ニ伴ハスンハアラス、今マ左ニ掲ケタル所ノ表ハ三貧民區ニ於ル幼童ノ體重ヲ示シタルモノ是レナリ

年 齡 別	男生ノ體重(平均)			女生ノ體重(平均)		
	第一區(極貧)	第二區(中等)	第三區(最上等)	第一區(極貧)	第二區(中等)	第三區(最上等)
三歳ヨリ四歳ニ至ル	三三.三	三五.一	三七.三	三三.三	三四.三	三四.一
五 歳	三八.一	四〇.一	四四.一	三八.一	三九.一	三八.一
六 歳	四二.一	四六.一	四六.一	四〇.一	四二.一	四二.一
七 歳	四六.一	四七.一	四七.一	四五.一	四七.一	四六.一
八 歳	五〇.一	五〇.一	五三.一	四八.一	四九.一	五一.一

年 齡 別	男生ノ體重(平均)			女生ノ體重(平均)		
	第一區(極貧)	第二區(中等)	第三區(最上等)	第一區(極貧)	第二區(中等)	第三區(最上等)
九 歳	五三.一	五六.一	五七.一	五〇.一	五六.一	五六.一
十 歳	五四.一	六〇.一	六五.一	五七.一	六〇.一	五九.一
十 歳	六六.一	六四.一	六九.一	六一.一	六五.一	六九.一
十 歳	六八.一	七二.一	七五.一	六九.一	七三.一	七五.一
十 歳	七三.一	八〇.一	八四.一	七九.一	八四.一	八三.一
右 綜合平均	五二.一	五五.一	五八.一	五二.一	五五.一	五五.一

此等ノ表ハ左ニ掲ケタル所ノ表ニ依リテ尙ホ明瞭ナルヘシ

又タ以上ノ表ニ依リテ之ヲ觀レハ人ノ體軀狀態ノ劣等ナルハ貧困ニ伴ヒ來レルコトヲ充分ニ證明スルニ足ルヘキナリ

又タ左記ノ如キ事柄モ自カラ明ラカナルヘシ、曰ク最下等貧民區ニ於ル男生ノ體重ハ皆ナ悉ク第三區ニ於ル男生ノ體重ヨリ大ニ劣ラスンハアラス、殊ニ其年齢カ十三歳ニ達シテ小學ヨリ退キテ何等カノ業務ニ從事セントスルノ場合ニ於テ、二者ノ間ニ體重ノ差アルコト十一封度ヲ下ラサルナリ、而シテ此際左記ノ如キ事柄ハ人々ノ念頭ニ留メ置カレンコトヲ要ス、曰ク第一貧民區ニ於ル幼童ト第三貧民區ニ於ル幼童トヲ比較セン場合ニハ、其名ノ如ク均シク貧民中ノ幼童ノミヲ比較シタルニ過キサルナリ、決シテ勞働社會ニ屬スル幼童ト一層上等ニシテ奉公人ヲ使用スル階級ニ屬スル幼童トヲ比較シタルモノニアラサルナリ、體重ニ斯クノ如キ差アルハ獨リ男生ノミニ限リタルモノニアラス、女生ニ至リテモ尙ホ且ツ同様ニ若干ノ差

ナクンハアラス、但シ其差ハ男生ホト甚ハタシカラサルノミ
 概括體軀狀態ノ事、總テノ幼童ノ體軀狀態ヲ最モ完全ニ検査センコトハ到底不可能ノ事ト云ハサルヘカラ
 ス、然レトモ幼童ノ身長及體重等ヲ調査シタル場合ニ於テ、其體軀狀態如何ニ從ツテ之ヲ四等ニ類別シテ
 以テ其概況ヲ知ラシムルコトヲ得ルハ、調査當局者ノ最モ喜フ所ナリ、好シ此類別法ハ粗雜タルコトヲ免
 カレスト雖モ、該當局者ノ平生經驗セル伎倆ヲ以テ調査シタルコトナレハ、信憑スルニ足ルヘキモノナリ、
 即チ四等ノ類別トハ『最優等』『優等』『普通』及『不良』是レナリ、『最優等』トハ幼童ノ體軀最モ善ク發達
 シテ一見以テ著シク健康狀態ナルコトヲ知ルニ足ルヘキモノ是レナリ
 『優等』トハ幼童ノ身體各部平均點ヨリ稍ヤ高シト見ラルヘキモノ是レナリ
 『普通』トハ幼童ノ健康狀態カ辛フシテ平均點ニ達シ、辛フシテ不良區域ヲ脱シタルカ如ク見ユルモノ是レ
 ナリ

『不良』トハ幼童ノ體軀が一見直チニ榮養不良ニシテ諸事不注意ニ生活セルコトヲ知ルニ足ルヘキモノ是レ
 ナリ

右類別ヲ表ニ作リテ示セハ左ノ如シ

男 生

第 一 區	最 優 等	優	等	普	通	不	良
二 區	二・八	一四・六	三一・〇	五二・六	百分比例		
三 區	七・四	二〇・一	五三・七	一八・八			
	二七・四	三三・八	二七・四	一一・四			

女 生

第 一 區	最 優 等	優	等	普	通	不	良
二 區	二・一	一四・六	三一・〇	五二・三	百分比例		
三 區	七・五	二一・二	五〇・四	二〇・九			
	二七・二	三八・〇	二三・一	一一・七			

右ニ掲ケタル表ニ據リテ之ヲ觀レハ左記ノ如キ事實ハ自カラ明ラカナルヘシ、曰ク第三區ニ於テ『最優等』
 ト定メラレタル幼童ノ比例數ハ之ヲ第一區ニ比スレハ殆ント十倍ノ多キニ居レリ、而シテ第一區ニ於テ『不
 良』ト定メラレタル幼童ノ比例數ハ半數以上ノ多キニ上レリ、『不良』幼童トハ果シテ如何ナルモノナルヤ
 ト云フニ、其外觀如何ニモ悲哀ノ情ヲ起サシムヘキモノニシテ、困難ナル生活狀態ト苦闘シ居ルコトヲ證
 スルニ足ルヘキナリ、其體軀ハ瘦癯纖弱ニシテ不潔ヲ極メ、其衣服ハ往々其身體ヲ蔽ヒ纏フニ足ラス、其
 眼球ハ注意常ニ怠リ勝チナルヨリ甚タシキ嫉妬ヲ起ス場合少ナカラス、其頭部ハ塵埃ニ塗ミレ、腰部ノ疾

病其他腺病等ニ浸サレタルモノ少ナカラサルナリ、一言以テ之ヲ蔽ヘハ衛生上ノ事ハ全ク之ヲ度外ニ置キ寸毫モ意ヲ注カサリシコトヲ知ルニ足ルヘキナリ、而シテ第二貧民區(中等勞働社會)ニ於ル幼童ノ狀態ハ第一區ト第三區トノ中間ニ位スルモノト謂ツヘキナリ、且ツ以上掲ケタル表ニ據リテ之ヲ考フルニ各幼童ノ健康狀態ヲ判定スルニ就テ絕對的標準ナルモノハ決シテ之レナキコトヲ人々ノ念頭ニ置カサルヘカラス然レトモ三貧民區ノ間ニ概觀的對照比較ヲ爲スニ至リテハ毫モ不都合ノ點ナカルヘキナリ、又右ニ掲ケタル表ノ示ス所ニ據レハ社會中最下等貧民區ノ中ニハ、體軀ノ甚ハタシキ劣惡ナルモノアルコトヲ證スルニ足ルヘシ

不完全ナル幼童、茲ニヨウク小學校監理局ノ調査ニ係ル不完全ナル幼童五十五名アリ、内三十八名ハ勞働社會中貧困最モ甚ハタシキ地方ヨリ來レルモノ、十名ハ同シク中等地方ヨリ來リ、七名ハ同シク最上等地方ヨリ來レルモノ是レナリ、然レトモ若シ不完全ナル幼童總計五十五名ヲ見スシテ前段ニ述ヘタル三貧民區ノミニ就テ不完全ナル幼童ヲ計上シタランニハ、第一區(貧民最モ甚ハタシキモノ)ニハ十八名、第二區(勞働社會中ノ中等)ニハ一人モ之レナク、第三區(勞働社會中ノ最上等)ニハ二名ナリシナリ、而シテ今マ此等ノ三貧民區ノ全人口ニ對シテ不完全ナル幼童ノ比例數ヲ舉レハ左ノ如シ

- 第一區
- 第二區

人口每一千人ニ就キテ

二〇八

皆無

第三區

同上

一〇三

吾人ハ今マ左ニ掲ケタル所ノ事項ニ據リテヨウク市ニ於ル勞働社會各區ノ衛生程度如何ヲ知ルニ足ルヘキナリ

(イ) 一般ノ死亡比例

(ロ) 幼兒中ノ死亡比例

(ハ) 幼童ノ體軀狀態ニ關スル精密ナル調査

右ニ掲ケタル調査ノ結果ハ貧民窟ニ居住スルモノ、衛生上ノ程度甚ハタ低キヲ證スルニ足ルヘキナリ、然レトモ現行ノ公衆衛生條例ヲ適用シタランニハ、此等ノ非衛生狀態ノ幾干ハ之ヲ除却スルニ足ルヘキナリサレハ此等ノ條例ノ勵行セラレンコトヲ主張スルハ社會公衆ニ取リテ最モ重要ナリト云フヘキナリ、好シ此等ノ條例カ實行セララル、ト雖モ尙ホ且ツ非衛生ノ事實ガ全ク排除セララルヘキモノニアラサルナリ、即チ全人口ノ殆ント三〇%ハ尙ホ貧困ニシテ衣食住ノ三者皆ナ衛生上ニ適セサルナリ、社會ノ事態今日ノ儘ニ經過シタランニハ賃銀取ノ勞働社會中ニ體軀狀態ノ劣等ナルハ亦タ情勢ノ避クヘカラサル所ナリ、徵兵適齡者ノ體軀狀態、勞働社會中ニ體軀狀態ノ著シク劣レルコトハ徵兵検査ニ關スル統計表ニ據リテ知ラルヘキナリ、即チ徵兵検査ノ際體格不合格ナリトテ列ネラル、モノ勞働社會ニ屬スルモノ居多ナリシコト是レナリ、記者ハ徵兵検査ニ關スル特種ノ報告ナルモノヲ得タリ、即チ一千八百九十七年ヨリ一千九百

一年ニ至ルノ期間、ヨウク、ソーズ及セツフヒールドニ於テ徵兵適齡者三千六百人ヲ掛醫官ノ検査シタル結果是レナリ、而シテ其合格不合格ノ比例ヲ舉レハ左ノ如シ

検査ノ箇所	期 間	受檢者人員	合格者	不合格者	不合格者ノ百分比例
ヨウク、ソーズ及セツフヒールド	一千八百九十七年ヨリ一千九百一年ニ至ル	三、六〇〇	二、六五〇	九五〇	二六・一

右ノ表中合格者ノ中七百六十名即チ總數ノ二九%ハ當初「特種」トシテ取ラレタルモノナリ、蓋シ「特種」トハ左記ノ如キモノヲ云フ、曰ク検査當時ニ於テハ合格セサル所アリト雖モ數ヶ月間軍人生活ヲ爲サシメタランニハ、終ニ合格シ得ヘキ見込アルヲ以テ試ミニ合格者ト見做シテ取リタルモノ是レナリ、所謂軍人生活トハ常ニ良好ニシテ十分ナル食餌ヲ取り、操練ヲ爲シ且ツ規則立チタル進退舉措ヲ取ラシムルコト是レナリ、検査當時多少不合格ノ所アリト雖モ斯クノ如キ生活ニ入ラシメタランニハ、數ヶ月ノ後全ク合格スヘキ見込アルモノヲ稱シテ「特種」トハ云フナリ、永キ經驗アル士官ノ證言スル所ヲ聞クニ當初「特種」トシテ取リシ者ノ數ヶ月後合格者トナルハ決シテ珍ラシカラサルナリト云フ

徵兵検査ヲ爲スニ方リテ合格ト不合格トノ比例數ヲ知ラント欲セハ、彼ノ「特種」ニ屬スル數ハ勢ヒ之ヲ不合格ノ部ニ算入セサルヘカラス、故ニ受檢人總數三千六百人ノ内一千七百十人即チ四七・一%ハ不合格者ト見做サ、ルヘカラス、而シテ國家ノ情勢トシテ兵數ハ漸次増加セサルヘカラス、兵數ヲ増サント欲セハ

從來不合格トシテ除外シタル者ヲモ合格者トシテ取ラサレハ其必要ニ應スルコト能ハス、此ニ於テカ徵兵検査執行ノ際受檢者ノ健康及體軀狀態ノ程度カ幾回トナク低下セラレタリ、是レ勢ヒノ然ラシムル所ト云ハサルヘカラス、徵兵適齡者スラ尙ホ且ツ然リ況ンヤ其他ヲヤ

右ニ掲ケタル表中不合格者トシテ除外セラレタルモノ九百五十名ハ、如何ナル原因ニテ不合格トナリシヤト云フニ概ネ左ノ如シ

視 力	聽 力	發 達 不 完 全 (胸圍、體重、身長等)	智 力	缺 損 多 數	四 肢 中 疾	諸 疾	計
不 完 全	不 完 全	不 完 全	遲 鈍	多 數	中 疾	疾	計
一四九	二	二九七	三	九九	一一〇	二九〇	九五〇
一五・七	〇・二	三七・一	〇・三	一〇・五	一一・六	三〇・六	一〇〇・四

右表中ノ(一)ヲ詳述スレハ左ノ如シ

心 臟 病

七三

四五

四四

血管病	六四
脱腸病	三三
診定シ難キ疾病	三二
肺病(結核病ヲモ含ム)	二〇
神經衰弱及神經系ノ疾病	一四
痔疾	一四
花柳病	一一
衰弱症	八
皮膚病	八
泌尿器病	四
心悸動症	三
耳鼻病	二
鼻口病	二
眼病	二
計	二九〇

ヨウク、ソーズ及セツフヒールトノ三徴兵検査所ニ於テ検査ノ結果體格不合格ノ故ヲ以テ除外セラレタル者ノ比例(全數ノ二六・一²%)ハ甚タ高キカ如シト雖モ、聯合王國ノ平均數ニ比スレハ尙ホ低シト謂ツハキナリ

今マ左ニ掲タル所ノ表ハ一千九百年ニ於ル徴兵検査掛長ヨリ發シタル年報中ヨリ拔萃シタルモノニシテ、聯合王國ノ全般ニ亘レルモノ是レナリ、而シテ此年報中ニハ過去五ケ年ニ亘リテ醫師ノ爲シタル徴兵検査人員及不合格ニテ除外セラレタルモノ、數、且ツ除外セラレタルモノ、百分比例是レナリ

種別	一八九六年	一八九七年	一八九八年	一八九九年	一九〇〇年
醫師ノ爲シタル検査總數(一)	五四、五七四	五九、九八六	六六、五〇一	六八、〇五九	八八、四〇二
除外サレタル數	二、二五一	三、六三〇	一三、九六三	一三、五〇一	一三、七八八
諸ロノ疾病ノ爲メ體格不良ノ爲メ	一一、七八一	一〇、一八三	九、三一八	八、八九二	九、三一七
除外者總數	二三、〇三二	二二、八一三	二三、二八七	二二、三九三	二三、一〇五
除外者ノ百分比例	二〇・六六	二一・〇〇	二一・〇〇	一九・八	一六・九
諸ロノ疾病ノ爲メ體格不良ノ爲メ	二一・六六	一七・〇〇	一四・〇〇	一三・一	一一・一
計	四二・二	三八・〇	三五・〇	三二・九	二八・〇

右表中ノ(一)ハ左ノ如キ事實ヲ示スモノト知ルヘシ、曰ク一千九百年ニ於テ検査サレタル新兵總數ノ中
九〇%ハ勞働社會ニ屬シ、同シク七%ハ店舗ノ番頭手代ニ屬シ、同シク三%ハ十七未滿ノ少年ニ屬シ
雇人召使ノ團體ニ屬スルモノハ僅カニ一%アリシノミ

右ニ掲ケタル表ニ據リテ之ヲ考フレハ左ノ如キ事實ハ自カラ明カナルヘシ、曰ク一千九百年ニ於ル徵兵檢
査ニテ不合格ノ故ヲ以テ除外セラレタルモノ、百分比例ハ甚ハタ高キモノ、如シ、然レトモ之ヲ全般ノ平
均數ニ比スレハ著シク低キコト知ルヘキノミ、而シテ此等ノ事情ニ關スル説明ハ既ニ前段ニ掲ケタル報告
ニテ知了セラルヘキナリ、乃チ其報告ノ概要ニ曰ク徵兵検査掛官ハ皆ナ醫師ノ検査ニ及第スヘキ十分ノ見
込アルニアラスンハ、新兵トナルヘキモノヲ検査所ニ送致セシムルナカレトノ訓令ヲ下シタリ、此ニ於テ
カ徵兵検査ノ結果不合格トシテ除外セラル、モノノ比例著シク減少スルニ至リタリ、即チ一千八百九十六
年ニ於テハ不合格ノ數四二%ナリシカ、一千九百年ニ於テハ其數減シテ二八%トナリタリ、著シキ成功ト
謂ツヘキナリ、蓋シ斯ク不合格者ノ減少シタルハ半ハ合格程度ノ標準カ從來ニ比シテ一層低下セルト半
ハ戰時ニ際シテ身體一層健全ナル新兵カ受檢者トシテ出頭スルコト、ナリタレハナリ

均シク是レ合格者タリト雖モ最初「特種」トシテ取ラレタルモノカ終ニ合格者トシテ採ラル、ニ至ルモノア
リ、而シテ斯ル合格者ノ比例如何ニ就キテハ何タル格段ナル報告モ之レナキナリ、然レトモ聯合王國ニ於
ル此等ノ比例數ヲヨウク、リーツ及セツフヒールドノ三検査所ト全ク同一ナリト假定センカ、一千九百年

ニ於テハ英國陸軍ノ要求スル新兵ノ半數ノ健康及體格狀態ハ陸軍當局所定ノ最下標準ヨリ比較的尙ホ低シ
ト謂ツヘキナリ、且ツ是レトモ尙ホ左記ノ如キ事實ハ之ヲ讀者ノ腦裡ニ置カサルヘカラス、曰ク既ニ前
述シタルカ如ク勞働社會中ニテ徵兵適齡者ニシテ検査ヲ受ケント欲スル場合ニハ、陸軍々醫ノ検査ニ合格
スヘキモノ、ミヲ選擇シテ検査所ニ送致セシムル次第ナルカ故ニ、割合ニ體格ノ好キモノト云ハサルヘカ
ラス、然ルニ聯合王國ノ徵兵適齡者ノ半數ノ體格カ陸軍當局所定ノ最下標準ヨリ尙ホ低シト云ヘル點ヨリ
之ヲ考フレハ、實際勞働社會ノ體格狀態ハ之レヨリ尙ホ一層低シト見做シテ更ニ妨ケナカルヘキナリ

熟ラ社會ニ於ル工業界ノ將來ヲ慮カルニ之ヲ發達増進セシムヘキ動力ハ體力ノ強健ナルコト是レナリ、今
マ左ニ掲クル所ノ論說ヲ以テ之ヲ證明スルニ足ルヘキモノナリ

「抑モ人ノ體力ノ強健ナルコトカ工業ヲ發達増進セシムヘキ動力タルコトハ亦タ爭フヘカラサル事實ナ
リ、即チ人ノ體力ノ強健ナルカ爲メ商業活動ノ中心點カ他ニ移リ、工業的競争力ヲ一層織ンナラシム
ヘキナリ、是レ自然ニ生スル所ノ變化ニ外ナラサルナリ、凡ソ商業界ノ事タル時日ノ推移スルト共ニ
何等カノ變動ヲ來スヘキモノナリ、今マ其レ體力強健ナランカ其變動ハ所謂ル進歩發達ノ謂ヒニ外ナ
ラサルナリ、英國勞働者ノ體力強健ノ程度ハ從來餘程高カリシカ、今ヤ他ノ國民モ英國ニ倣フテ其體力
強健ノ程度ヲ高フシテ殆ント同一ナラシメタレハ、最早ヤ英國ノ獨占スヘキモノニアラス、ベシジヤ
ミン、キツド氏ノ所論ニ曰ク商工業上競争國ノ多數ハ、概シテ自國ノ利益カ他ヨリ幾分カ多カリシモ、

其利益モ尙ホ且ツ減少シ行クヘキ傾向ナクンハアラス、最近三十年間ニ日耳曼、白耳義及露西亞スラ經濟上ニ最モ多大ノ注意ヲ拂フニ至リタリ、殊ニ日耳曼、白耳義兩國ノ如キハ工業上ノ發達最モ大ニシテ世界ノ市場ニ於テ重要視セラル、コト、ナレリ、又タ我英國ノ如キハ合衆國ト相對シテ未曾有ノ競争ヲ爲シ居レリ、斯クノ如キ有様ニテ工業上ノ狀態ハ全ク一變スルニ至リタリ、即チ身心二者ノ精力問題カ最モ重要ナル問題ノ一トナレリ

今日我英國ノ競争者トシテ最モ善ク整頓シテ最モ恐ルヘキモノハ、太平洋ノ彼方ナル吾人ノ同族タル米國人是レナリ、蓋シ米國人ノ恐ルヘキ所以ノモノハ他ナシ、商業上ノ勁敵ナルコト是レナリ、米國ハ獨リ諸ロノ事業計畫熾ンニシテ其財源ノ豊富ナルコト無盡藏ナルカ爲メノミナラス、近コロノ調査ノ結果ニ據レハ米國ノ勞働者ハ其榮養一層善ク其勢力比較的一層強ケレハナリ

吾人カ今マリ假ニ心身ノ痛苦ヲ全ク度外ニ置キ、最モ嚴密ニ經濟上及一國ノ形勢上ノミニ限リテ本問題ヲ講究スルトスルモ、本編ニ於テ叙述シタル事實ハ勿々、看過スヘカラサル重大問題ト云ハサルヘカラス

○現今ニ於ケル飲料水並ニ廢水ノ鑑定ニ對スル化學的分析ノ價值

「ウニストファールン、ミュンステル」ニテ ヨット、キョーニヒ

凡ソ十五年前迄ハ化學的分析ハ飲料水並ニ廢水ヲ鑑定スル唯一ノ方法ナリキ。然ルニ細菌學ノ勃興及ヒ飲料水ハ場合ニヨリ傳染病ノ原因トナル事アリトノ事實確メラルルニツレ、飲料水ノ細菌學の検査ハ愈々重大視セラルルニ至レリ。コノ新傾向ノ著名ナル代表者ノ一人トモ言フ可キゲー、フリユツゲ氏ハ一八九五年ニ次ノ主旨ヲ開陳セリ

- 一、從來採用シ來レル水ノ衛生學の鑑定ハタ、單ニ化學的、細菌學の及ヒ顯微鏡的検査ニ基キテ行ハレタルカコハ殆ト總テノ場合排ス可キ事ナリ
- 二、衛生學上飲料水又ハ使用水トシテ適當ナルヤ否ヤヲ驗スルニハ一回ハソノ水ヲ汲ミ取リシ場所並ニソノ設備ヲ特ニ視察シ且ツ専門的ニ検査セサル可カラズ、斯カル試験ハ夫レノミニテモ既ニ水ノ良否ヲ決スル場合アリ。多クノ場合其ノ上ニ含鐵量及ヒ硬度測定ニヨリ大體ノ試験ヲ合セ行フ事ヲ望マシキ事ナリ。稀ニハ精密ナル化學的、細菌學の或ハ顯微鏡検査ニヨリテ結果ヲ確定スル必要アリ
- 三、給水ヲ絶エス監査スルニハ細菌學の時ニハ又化學的分析ヲ手落ちナク行フヲ宜シトス、分析ニヨリ

テ得タル活目スヘキ成績ノ衛生學上ノ價值ハ給水設備ヲ反復視察検査シテ後始メテ認メラル可キモノナリ

斯カル主旨カ九年前當市公衆衛生組合第廿回集會ノ席上ニ於テ開陳セラレ、討論セラレタリ、余カ今日當市ニ於テ此ノ主旨ノ到底維持スヘカラサル事、竝ニソレニ連關シ水ノ鑑定ニ對スル化學的分析ノ價值ニ就イテ論述スルハ眞ニ偶然ノ事ニシテ余ハコノ壇上ニ立ツテ胸中何ラノ不安ナク寧ロ化學ノ多方面ニ應用スヘキ事、及ヒ吾人ノ立場ノ正當ナルヲ自認スルモノナリ。然レトモゲーフリツゲ氏ノ意見カ夫レ以來可ナリ多數ノ人ノ信スル所トナリタルハ遺憾トスル所ナリ、一九〇一年三月廿三日ニ發布セラレタルプロイセンノ郡醫ニ對スル職務上ノ訓令第三條ニハ次ノ事項アリ

郡醫ハ現存ノ飲料給水ヲ監査ス可シ、而シテソノ性状ニ就キテハ機會アル毎ニ其調査ヲ怠ル可カラス、ソノ際ハ化學的及ヒ細菌學的検査ヨリモ土地ノ状態ノ視察ニ重キヲオク可ク、且ツ絶エス勉メテ各自ニ、其郡内各所ノ飲料水ニ就キテ状態ヲ調査シオキ機會ヲ待チテ健康上有害ナル事項ノ排除ニ對シ適當ナル考案ヲ提出ス可シ

醫師トシテノ知能アリテ而モ化學的検査ト同シク、細菌學的検査モ價值ナシト公言セルハ注意スヘキコトナリ。土地ノ

視察ニヨリテ事ヲ決セントスルハ恰モ望診ニ依リテ診斷ヲ確定スルト同一ニシテ柏林ノ一内科教授ノ持説

ノ如ク醫師ノ責任ハ疾病ノ何タルカヲ識別スルニアラスシテ、コレヲ治スルニアリトノ説ニ從フモノト言フ可シ。然レトモ細菌學的及ヒ化學的検査ヲ爲サシテ飲料水給水源ノ不純ヲ確定スルニハ如何ニスルヤ。コレ専門科學者ノ解釋ニ苦シム所ナリ。給水源ノ位置宜シキヲ得サルカ、或ハソノ設備ノ不完全ナルタメ不純物ノ流入スル事明カナリトセハ、敢テ郡醫ノ力ヲ、マツテ要セス、衆俗、學校教師、警察員ト雖トモ水ノ不純ナルヲ確定シ得ルナリ、然リト雖モ給水源ノ設備全ク完全ナルニ拘ハス、唯單ニ地上ニ現ハレタル外見ノミニヨリテハ確定ス可カラサル土壤ノ地質學的關係、リ不純物ノ流入スル事甚タ屢々ナリ。而シテ醫師ニシテコノ不純ヲ識別スル特別ノ能力、天賦アリト信スルモノアリトモンハ恐ラク臨床ニ於ケル望診ト同シキモノニシテ疾病ハ治シ得タルモ疾病ノ何タリシカ、終ニ識別セラレサルナリ

他ノ多クノ衛生學者カ化學的及ヒ細菌學的検査ノ價值ニ對シテ抱ケル見解ニ至リテハ尙ホ甚ハタシキモノアリ

(I) ウェー、クルーゼ氏ハ「水ノ衛生學的鑑定ニ對スル批評的並ニ實驗的増補」ナル彼ノ論文中ニ次ノ如ク論述セリ

(I) Zeitschrift f. Hygiene und Infektionskrankheiten 1894, 17, 1.

(一) 飲料トスヘキ水ヲ感覺(視覺、嗅覺、味覺、溫度ノ感覺)ニヨリ試験シ得タル結果ハ衛生學上輕視スヘカラヌル價值アリ

(二) 化學的検査ハ斷シテソノ價值僅少ナリ而シテ實地衛生學上殆ト必要ナシ、但シ硬度測定ノミハ有利

ナリ、コレ水ノ土類鹽含量ハ健康上無害ト言フ可カラス且ツソノ水ノ經濟上ノ關係ヨリ間接ニ衛生學ニ影響アルヲ以テナリ、特ニ疑ハシキ場合ニハ化學的(金屬性)毒物ニ對スル試驗必要ナリ、此レニ反シテ水中ノ有機性物質ハ無害ナルモノト見做シテ可ナリ

上述セルモノニ類スル事ハナホ屢々發表セラレタルモ斯カル見解ハ少シク教育アル専門家ニハ小シモ辯駁スルノ要ナシ、然レトモ之ニ限リテ見レハ飲料水ノ鑑定問題カ今ヤアル僻見ニ到達セル所以ヲ知ル可シ

(II) ウー、クルーゼ教授ハ一八九四年例ヘハ上記論文中ニ出來得ル限リ凡テノ細菌少ナクトモ病源トナルモノヲ廢水中ヨリ排除スヘキヲ唱ヘナカラ、一九〇二年ニハ次ノ如キ事ヲ言ヘリ、(Centralbl. f. allgem. Gesundheitspflege 1902, 21, 24)

廢水中ヨリ病源トナル細菌ヲ排除スル事ヲ吾人ハ現今ニテハ細菌學勃興時代ホト重大視セスコレ河水ハ不純ナルマ、ニテ飲料ハ供セラルルニ非ラスト假定スルハ正當ナルヲ以テナリ、航水者ニハ飲料ヲ整ヘル特別ニ機會アリ、河水沐浴ニヨリ感染スル事ハ如何ナル場合ニモ極メテ稀ナリ、而シテ都市ノ沐浴場設立ハ、益々河水沐浴ノ要ナカラシム、酵母ハ十分注意シテ純粹ナラシムヘシ

コノ事ニ付キテハ最近ミューンステルノ郡醫補ドクトル、ハーゲマン氏カブロイセンニ於ケル若キ醫師間ノ風潮ノ反映トモ見ル可キ「近似的化學的檢水法」ナル彼ノ論文中ニ證據ヲ擧ケタリ (Zeitschr. f. Medizinal

beamte 1904, no. 9 醫務局官吏雜誌一九〇四年九號) 余ハコレヲノ見解ノ不可ナルヲ嘗ツテステニ證明セシヲ以テ此處ニハ之ヲ討論スルヲ思ヒ止マラン(同雜誌、一九〇四年十一號)

余ハ飲料水鑑定法ニ對スル意見カ如何ニ區々紛々タルカヲ示スタメニコノ序言ヲ述フル事ノ徒ラナラサルヲ信ス、抑々當問題ノ論セントスルハ細菌學隆盛トナリ多少ニ拘ラス水中ニ細菌ヲ發見スルニ至リ細菌的検査ハ水ノ性狀ヲ鑑別スル唯一ノ方法ト見做レシカ程ナクコノ說ノ存立スヘカラサル事ヲ證セラレテヨリ後ハ「湯水ト共ニ赤兒ヲモ一所ニ流シ棄テル」ノ譬ニ違ハス化學的分折ヲサヘ鑑定ニ價值ナキモノト爲スニ至レル事實ナリ、即チコノ矛盾ヲ辯駁スルハ余ノ任務ナルナリ

余ノ述ヘントスル問題ハ「飲料水及ヒ廢水鑑定ノ現在ノ狀態」ト題スルモノナレトモ廢水ニ關シテハ單ニコレニヨリテ飲料水ノ不純ヲ來ス場合ニ限リテ論スヘシ、コレ特種ノ化學的無機或有機成分カ不純物トシテ存在スル廢水——(人類動物ノ排泄物ヲ含ムモノニ至ルマテアラニル種類ノ廢水ヲ總括シテ言フ)ノ鑑定ハ化學分折ヲ唯一トハ稱スヘカラサルモ特ニ特色アル検査法トスヘク實際ソハ長ク標準のタルヲ失ハサルハ恐ラク最モ熱心ナル細菌學派ノ人々モ否定セサル可ケレハナリ、醫師ハ人類或ハ動物ノ排泄物ニヨリ不純トナリタル飯料水ニアラサレハ鑑定(シカモンノ鑑定タルヤ單純ナル外面ヨリノ視察ナリ)スルノ必要ナシト信セリ。又彼等ハ濾過シテ清淨トナセル水ノ鑑定ニハ細菌學的検査ヲ唯一ノ標準の方法ナリト解セリ、第一ノ考ハ全然不可ナリ、第二ノ考モ至當ナリト言フヘカラス、以下ソノ理由トスル所ヲ述

フヘシ。

(一) 先ツ第一ニ通俗ニ純粹ナリト稱セラルル自然ノ水ハ何レモ細菌學の検査以外ニ化學的検査ヲ施ス必要アリ、コレ給水ニ用ヒラルル水ハタ、單ニ飲料トシテノミナラス炊事、洗濯ソノ他アラユル實業上ノ目的ニ使用セラレ、コレヲ利用ノ目的例ヘハ食物料理麥酒醸造、漂白等ニハ細菌ノ有無ヲ知ルト共ニ「アルカリ」土類、「アルカリ」鹽類、鐵化合物ノ痕跡、硅酸、及ヒ有機性物質ノ含量ヲ知ル事必要ニシテ多少ニ拘ラス此等ノ化合物ヲ含ムトキハ事業ニ影響スル事大ナルヤ明カナルヲ以テナリ、即チ炭酸「カルシウム」炭酸、「マグネシウム」並ニ硫酸「カルシウム」及ヒ硅酸ハ汽罐ニ垢殻成生シ、極微量ノ鐵化合物、及ヒ比較的多量ノ有機性物質ノ醸造、漂白、若シクハ其他乳清製造、屠牛等概シテ甚タシク清潔ヲ主トナス事業ニ影響スル事大ナリ、カカル水ハ場合ニヨリテハ細菌學上ヨリ見テ細菌ノ發育ニ適セル事アリ

一般ニハ所謂含鐵細菌(クレノトリッキス、ボリスボート)ノ發生ハ水中ニ極微量ノ炭酸亞酸化鐵或ハウルミン酸亞酸化鐵ノ含有セララルル爲メナリトセリ。ロバイティエン、ヘムベル、クラフト諸氏ハコノ菌ハ水中ニ「マンガン」化合物ノ痕跡ヲ存スルノミニテモ盛ニ發生スルヲ證明セリ、此菌ハ給水工場ニ害ヲ及ホス事アルモノニシテ既ニ斯カル前例アリ

斯カル理由ニ基キテ余ハアラユル種類ノ飲料水殊ニ純粹ト見做サルルモノモ、豫メ精密ナル化學的検査ヲ施ス可キ事ヲ唱道スルモノナリ

(I) Zeitschr. Unters. Natur. Genussm. 1904, 7, 215,

(二) 然シ不純トナル事稀ナル泉水、或ハ地下水、或ハ又絶エス清淨トナサルル地表ノ水ト雖モ細菌學的検査以外ニ常ニ化學的検査ヲ行フ事ハ甚タ重要ナリ

泉水カ必スシモ全然純粹ナルモノニ非サル事ハナー、ゲルトネル氏カ始メテ幾多ノ例ニ就キテ確證セル所ナリ、(アー、ゲルトネル著泉水ノ地下水及ヒ「チフス」菌ニ對スル關係一九〇二年、イエナ)

泉水カ遠近ヨリ相集マリテ十分濾過作用(即チ清淨作用)アル地層ヲ通過シ或ハ罅隙ヲ急速ニ流レ出ツルニツレテ多少清淨トナルモ、ソノ間ニハ多少漏過シ來レル地層ノ成分混シ、時ニハ又雨量ニ從ツテソノ性狀ニ變化ヲ來タスハ常ナリ、ソノ變化タルヤ多量ノ雨ノ流入セシ際ニハ混濁セルヲ見テモ既ニ知ル可ク、コノ一事スラ大ニ顧慮スヘキ事ナリ、混濁ハ主ニ粘土若シクハ細砂、炭酸「カルシウム」ニヨリテ起ルモ乾燥時ニアリテハ殆ト細菌ヲ認メサリシ泉水カ混濁セル場合ニハソノ中ニ同時ニ細菌ノ増殖ヲ來セル事稀ナラス、アーゲルトネル氏ノ調査ニヨレハ泉水一立方「センチメートル」中ニ存スル「ミクロフオートン」ノ芽胞數ハ

泉	フランカフールト ノ 玄武岩ヨリナル アーゲルスベルヒ	ズエスト ノ 灰泥石	モセユ、ミヨルツ ノ 泉 俵羅総	ドッ河カントム ノ 中 鐵 層
乾燥時	3-4	20-275	115-150	72
雨 後	45-60	1500-2800	1115-8000	1960-2380

泉 カラエロフエロフノ イエチ、サエレンカルクノ
 ナーメンカエレン
 (三疊層)
 乾燥時 殆クナシ 0—90.
 雨後 470 18000迄

斯ル泉水ハ殆ト給水用トシテ適セス、コレ場合ニヨリテハ病的芽胞ヲ齎ラス事シハノナレハナリ、コノ種ノ泉水給水用トシテ使用スルニハ地表ノ水ヲ用ユル場合ト同シク少ナクモ濾過スルヲ宜シトス

地下水トハ浸潤セル雨水又ハ地表ノ水カ不滲透性ナル地層上ニ集マレルモノナルカコノ地下水ニアリテハ地表ニアラハレサル限リカカル急激ナル變化ヲ見ス、泉水ト異ナル點ハ人工的ニ汲ミ出ササレハ下部ノ地層ニ溜滞スルカ否ラサルモ極メテ徐々ニ流動スルニ過キサリニアリ、サレハソノ性質(温度、化學的組成等)ハ泉水ニ比スレハ遙カニ浸潤シ來レル地層ニ順應シタルモノナリ。同シク地下水ト名ケラルルモノノ間ニ種々ナル相違アルハ次ノ分析ノ示スカ如シ、分析ハ數回ノ試験ノ平均ナリ

即チ例ヘハ一立方突ニ付キ

地下水ノアリシ層

蒸發 酸 石	殘 ニ 要 セ シ 酸 素 mg.	渣 mg.	灰 mg.	灰 泥 石 層 砂 及 礫 砂 利 砂 礫 質 板 石
	392.1	1.8	131.2	157.5
				2.6
				53.7
				64.5
				2.7
				11.5

イ ン ダ ル 酸 石	カ ル シ ウ ム	チ ウ ム	フ ス ル 酸 mg.	チ ウ ム 酸 mg.	チ ウ ム 酸 mg.	チ ウ ム 酸 mg.	チ ウ ム 酸 mg.
	15.2	5.4	36.6	10.7	22.9	38.9	4.1
	51.3	22.9	38.4	0.	0.	0.	0.
	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.
	22.	105.					2000—200000

中ノミカロフイーチンノ芽胞

コノ三地下水ハ化學集成相違殊ニ第一ノ水ハ他ノ二水ニ比シテ礦物質次イテ石灰含量ノ多キハ其通過スル地層(灰泥石土壤、砂ノ土壤、板石土壤)ノ異ナル結果ナルハ明カナリ、「ミクロフイートン」芽胞ノ數ノ差ハ此等ノ地層ノ濾過力ノ異ナルルタメナリ(比較的密ナル灰泥石土壤及ヒ砂層ト列辨アル板石土壤トハ濾過力ヲ異ニス)

ソノ他地下水ハ地層ニ浸潤スルトキ泥炭ノ如キ有機物ノ殘滓ヲ含ム事アリ又地層カ硫酸「カルシウム」(或ハ硫酸「マグネシウム」)ヲ多量ニ含ム場合ニハ地下水ハ硫酸鹽類ニ富ミ、灰泥石及ヒ石灰石ノ堆積セル如キ地層ハ多量ノ鹽化物ヲ含有スルヲ以テ地下水モコノ場合ニハ鹽化物ニ富ム

地下水中ニハ亞酸化鐵化合物若シクハ亞酸化「マンガン」化合物(重炭酸化合物或ハ「ウルミン」酸化化合物)ノ含有セラルル事往々ニシテ此等ノ化合物(少ナクトモ亞酸化鐵化合物)ハ水ヲ空中ニ放置スレハ酸化シ

テ酸化物トナリテ沈澱ス

又游離炭酸及ヒ往々游離硝酸ノアラハルル事稀ナラス恐ラク水ノ蒸散繼續セル結果雨水中ヨリ集マリテ發生セシモノナルヘシ

地層密ニシテ、濾過作用即チ清淨作用十分ナルトキハ地下水中ノ「ミクロフイ」ハ極メテ少數ナリ、カカル地層ハ地下四乃至五米突ニ至レハ病的芽胞ハ既ニ生存セス故ニ地下水鑑定ニハ化學的分析ハ細菌學的検査ニ比シテ遙カニ確實ナルハ明カナリ、然レトモ精密ナル検査ニアラサレハ不可ナリ、例ヘハ鉛ヲ溶解スル性質アリテ一般給水ニトリ甚タ危険ナル事アル游離硝酸ノ存在ハ定性反應ニヨリテハ知ル事能ハス勿論地下水ト雖モ亦時ニ危険ナル細菌ヲ含ム事アリ即チ濾過作用ヲ營ム地層カ瓦礫或ハ粗キ砂利若シクハ砂ヨリ形成セラルル場合ナリ、カカル場合ニハ細菌ハ四方ニ廣カリ或ハ地下深キ所迄流れ入ル事アリカクノ如キ地下水ハ前述ノ如ク濾過シテ清淨トナスヲ要ス

濾過作用等ニテ清淨トセル瓦礫層ノ水、地下水或ハ地表水ノ鑑定ニハ兎ニ角細菌學的検査ハ化學的検査ヨリ優レリ、此レ清淨ニナサレタル水中ノ細菌數ハ其ノ清淨作用ノ經過如何、濾過層ノ粗密又ハ完全ナルヤ否ヤヲ確然ト示スモノナレハナリ、然レトモ更ニ考フルニコノ數ニヨリテ給水ニ用ヒラルル水ノ化學的變化ヲ知ルハ全然不可能ナリ、ソノ化學的變化タルヤ諸所ヨリ流入作用アルトキ殊ニ注意スヘキ事ニシテカカル流入作用ハ多クハ水ヲ不純ナラシムルモノナリ、カクノ如キ場合ニハ清淨トナレル水ヲ下層、中層、

上層ノ各水ニ付キテ精密ニ化學的ニ検査スルハ細菌學的検査ニ比スレハ狀態ノ變化ヲ知ル上ニ有効ナリ、而シテ、コハ多クノ工業的事業ニトリテ價値ナシトセス、然シ又濾過及ヒソノ他ノ清淨裝置ノ作用ハ過「マ」ンガン「酸」カリウム」ニヨル定量試験ノ場合ニヨリ亞酸化鐵ノ測定或ハ一般性狀ノ凡ソノ變化鹽素ノ定量又ハ其他検査セントスル水ノ特有成分ノ定量ニヨリテ判定スルヲ得、而シテ此試験ハ短時間ニテ清淨裝置ノ缺點ヲ知り得ル點ニ於テ細菌學的検査ニ優レリ、細菌學的検査ニ至リテハ數日ヲ要シソノ間ニハ、早クモ種々ナル健康上有害ナル影響ヲ及ホス事アリ

(三) 化學的検査ハ廢水或ハ汚水ノ不純ヲ鑑定スルニハ完全ナルモノナリ、廢水或ハ汚水トシテ第一ニ考フ可キハ人家ヨリ來ルモノ、動物或ハ人類ノ排泄物ヲ含ムモノ洗濯水及ヒ灑水ナリ、コレヲノ廢水ト同程度ノモノハ屠殺場、乳清製造所、麥酒釀造所、澱粉製造所、砂糖製造所其ノ他一般ニ動物質及ヒ植物質ノ材料ヲ取扱フ工場ヨリ來ル水ナリ、若シ此等ノ廢水ニシテ直接使用中ニ流入スルニ於テハ特ニ精密ナル化學的或ハ細菌學的検査ヲ行フノ要ナシ、カカル不純水ハ直チニ飲料水及ヒ人家ニテノ使用水トシテ用ユヘカラス、サレト外面ニ現ハレサル不純作用ハ甚タ屢々アル事ニシテ、コハ精密ナル、特ニ化學的検査ニ依ラスンハ證明シ得ス、最モ多クミラルル例ハ所々ノ人家或ハ鄉村ヨリ來ル廢水カ直接井戸ニ流入スルニ非スシテ先ツソノ周圍ノ土壤ニ浸潤シ地中ニテ其性分ハ幾分カ分解シテ後始メテ地下水若シクハ井水中ニ達スルナリ、(余ノ著、人類ノ食物及ヒ嗜好品ノ化學、四版、伯林、一九〇四年第二卷一、三七四頁)

窒素ヲ含有スル有機性腐敗物質或ハ有機性腐敗性物質ノ一部ハ地中ニ滯マリ其處ニ生存スル細菌及ヒ次テ入り來レル空中ノ酸素ノ力ニ依リ酸化セラレ水、炭酸及ヒ硫酸並ニ硝酸ニ分解シ、一部ハ腐敗物質ニ對スル土壤ノ酸化力及ヒ吸收力等一定限度ノ土壤ノ理學的性狀ニ從ヒ、浸潤スル雨水或ハ上昇シツツアル地下水ニ依リテ早晚漸次深層ニ入り終ニ井水中ニ達スルナリ

成生セラレタル炭酸ノ多量ハ石灰ヲ溶解シテ重碳酸「カルシウム」ト爲シ有機物質中ノ硫黄ハ一部酸化セラレテ硫酸トナリ硫酸鹽類成生ノ原因ヲ爲ス(主ニ硫酸「カルシウム」ナルカ硫酸「マグネシウム」硫酸「アルカリ」モ亦成生セラル)又一部ハ硫化水素ノ状態ニテ最初ノ腐敗產物トシテ殘留ス

腐敗物質ノ窒素ヲ含有スル成分ハ「アムモニア」ニ分解シ適當ナル事情ニ相遇スレハ全部酸化セラレテ硝酸トナルモ場合ニ依リテハ酸素ノ供給不十分ナルタメ一部ハ「アムモニア」トシテ存シ或ハ酸化作用ニ依リテ亞硝酸トナルニ過キス。硝酸鹽類ハ細菌ノ力ニ依リ還元セラレ亞硝酸鹽類若シクハ遊離窒素トナリ、ソノ際遊離セル酸素ハ其處ニ存在スル有機性ノ物質(含水炭素等)ニ作用シ、コレヲ炭酸及ヒ水ニ分解スルカ或ハ單ニ有機酸(ウルミン酸或ハソレニ類スルモノ)ニ變化ス

斯カル不純ナル井水ハ總計非常ニ多量ノ乾燥殘渣ヲ示ス、即チ炭酸「カルシウム」、炭酸「マグネシウム」、硫酸「カルシウム」硫酸「マグネシウム」、並ニ「アルカリ」鹽類等ニシテ加里モ亦カカル不純水中ニハ多量ニ

存ス、又多量ノ硝酸及ヒ通常有機物質ヲモ含ミ、屢々「アムモニア」及ヒ未タ分解ヲ受ケサル窒素化合物亞硝酸及ヒ時ニハ硫化水素ヲ含有ス、其ノ他動物質廢物ハ何レモ鹽化「ナトリウム」ニ富ムヲ以テ斯カル井水ハ全部土壤ニ吸收セラレサル鹽化物ヲ含有ス、通常土壤ノ酸化力ハ甚タ強度ニシテ有機物質ハ殆ト完全ニ酸化サレ、爲メニ井水若シクハ地下水中ニハ成生セラレタル他ノ成分炭酸鹽類硫酸鹽類硝酸鹽類及ヒ鹽化物ハ甚タシク増加セルニ反シ有機物質ハ增量セス、且ツ又斯カル不純ナル井水ハ、土壤ノ濾過力十分ナル結果「ミクロフイーテン」芽胞ヲ含ム事比較的唯少數ナル事屢々見ラルル所ナリ

スカ、例ハウニストフアレン及ヒ隣州ノ井水ノ精密ナル検査ニ依リテ明カナル可シ(表ヲ參照スヘシ)此等ノ數ハ種々ノ點ヨリ參考スル價值アリ、是ニ依リテ見ルニ土壤ノ状態ノ觀察即チ天然地下水ノ觀察ニ當リテ井水ノ不純ハ硝酸、硫酸、鹽素、曹達、加里、石灰等何レモ増加シ通常ハ又有有機物質ノ含量モ増加セル事ニヨリ識別シ得ルヲ知ル。要スルニ不純程度ハ上述セル物質ノ增量ト正比例スルモノニシテ、コハ人類、動物若シクハ植物ノ廢物ニ依ル不純作用ニシテ吾人ノ考ヘ得ル事實ニ外ナラス。然レトモ「アムモニア」及ヒ亞硝酸ヲ含有セサル不純水ハ清澄ニシテ、而モ同所ニアル純水ヨリモ細菌芽胞ヲ含ム事少ナク且ツ美味ナル事アリ、又不純作用ハ必スシモ便所或ハ肥料小屋ノ甚タ近キ爲メニ起ルモノトハ限ラス、コレ多クノ場合便所等ヨリ數「メートル」距リタル井水ハ便所等ニ近キモノニ比シテ不純ノ程度遙カニ高キ事アルヲ以テナリ、此等ノ關係ハ全然水ノ通過スル地層ニヨリテ定メサル可カラサルハ勿論ナリ、サレト地

層ハ井戸及ヒ不純ナル泉ノ周圍ノ土地ヲ精シク鑽開セサレハ確定スルヲ得サルヲ以テ官醫カ單ニ土地ヲ視察シ外見及ヒ味ニ依リテ水ヲ試驗スル事ハ幾何ノ利アルヤハ人々ノ怪ミ問フ所ナル可ク、コレニ對シテハ何ラ益ナシト答ヘンノミ、實ニ彼等ノ採用セル方法、並ニ僅カノ定性反應ヲ以テ唯一ノ標準ト爲スニ足レリトセハ多クノ場合甚タシキ誤ニ墜ルハ必然ナリ、斯カル試驗ハ設備不完全ナル爲メ外面ヨリ見テモ不純物ノ流入明カニ、從フテ水カ外見上惡シト見做サル可キ場合ニ限リテ用ユ可キモノナリ、否ラサル場合ニハ土地ノ視察及ヒ外面ヨリノ検査ノミニテハ何ラノ價值ナシ例ヘハ單ニ「アムモニア」亞硝酸、有機物質ニ對スル簡單ナル反應ハ上述セシ如ク何ラ益ナシ、「ミクロフーテン」芽胞數ノ算定スラモ徒勞ニスキス、コレ例ヘハ少量ノ「アムモニア」ハ少量ノ鐵、多量ノ有機質、並ニ極メテ少數ノ細菌芽胞ヲ含有スル深キ井戸中ニ現バル、場合アルヲ以テナリ、コノ時「アムモニア」ハ腐敗產物トシテ存スルニアラス、硝酸ノ還元作用ニ依リ成生セラレタルモノニシテ無害ト見做シテ可ナリ

(同ジク時ニ硫酸鹽類ヨリ還元作用ニ依リテ硫化水素カ地下水中心ニ成生セラル、事アリ斯カル場合硫化水素ノ含量過量ナラサレハ唯不快ナルノミニテ少シノ害モ無シ)

又硫酸鹽類或ハ鹽化物ノ少量ハ水ノ純不純ヲ定ムルモノニ非ラス、コレ上述セル如ク此等ノ化合物ハ天然ノ地層中ニテモ成生セラル、事アレハナリ、通常多量ノ硝酸鹽類、並ニ亞硝酸鹽類ノ含有セラル、時ハ危險ナリ、トセラル、ハ、此等ノ化合物カ常ニ不純ナル地層中ノ有機窒素又ハ窒化「アムモニア」ハ硝化

* 1/100 過マンガン酸ナトリウムカリウム溶液ノ使用立方センチメートル数ニ 15.8 を乗シテ計算ス。

番 號	井 場 ノ 所 及 類	水 層 ノ 種 類	井 戸 ノ 深 サ m.	便 所 ヨリ 距 離 m.	外 見	土 地 ノ 人 ノ 言 フ 味	一 立 中 (mg.)											一 立 方 セ ン チ メ ー トル 中 ノ 細 菌			
							蒸 散 殘 渣	有 機 物 質	石 灰	マ グ ネ シ ア	加 里	曹 達	鹽 素	硝 酸	硫 酸	硅 酸 及 其 の 鹽	亞 硝 酸		ア ム モ ニ ア		
1	レシエ ーテ	噴水井 純	16.0	14	混濁少シ	無味	94.4	23.7	17.0	4.3	9.7	15.2	21.3	3.0	17.0	6.0	0	0	無 數		
2			凹地ニアル井 不純	5.6	25	—	—	528.0	88.5	131.0	2.8	91.9	40.9	53.2	28.9	55.3	20.0	0	0	10410	
3	ザルツベルゲン 凹地ニアル井	純 砂	5.6	25	少シ混濁	美	147.2	39.5	26.0	2.3	10.0	18.0	19.4	21.3	28.8	6.0	0	0	46410		
4			滑車付凹地ニアル井	4.2	10	同シ	—	168.0	61.6	25.0	7.6	6.2	20.2	24.8	33.7	16.0	6.0	0	0	19080	
5			—	3.3	12	綿層	—	176.6	52.1	30.0	3.0	9.5	20.1	28.4	27.4	21.3	10.0	0	0	36100	
6			—	3.9	12	同シ	—	400.0	88.5	47.5	12.6	12.9	34.1	51.5	78.5	67.4	4.0	0	0	無 數	
7			不純ノ度少 シナレド明 カナリ	2.1	9.5	淡黄濁	—	430.0	355.5	87.5	9.9	18.1	35.1	53.2	(18.9)	38.6	10.8	0	0	204000	
8				—	3.2	18	白濁	—	564.0	224.4	129.5	24.9	15.1	43.4	63.9	81.5	61.7	10.0	0	0	無 數
9			砂及粘土 粘 土 砂及粘土 同 様	5.0	25	綿層	—	625.2	50.6	191.0	20.7	30.9	41.3	74.5	39.3	132.1	10.0	0	0	53856	
10				3.1	10	—	—	1156.0	72.7	296.0	27.6	19.9	157.1	184.6	107.2	160.0	12.0	0	0	352800	
11				2.0	9.5	少シ混濁	—	610.0	278.1	86.5	16.2	31.5	48.8	60.3	121.6	59.9	16.8	0	0	28175	
12				4.7	8	綿層	—	686.0	61.6	155.0	22.5	22.4	54.3	81.6	179.7	73.1	16.0	0	0	73950	
13				4.5	8	—	—	743.6	120.1	127.5	13.5	55.0	95.3	131.3	111.7	76.5	4.0	0	0	無 數	
14				4.6	10	—	—	814.0	73.3	177.5	24.3	35.6	70.7	110.0	204.0	85.5	18.0	0	0	11710	
15				2.1	8	—	—	1068.0	132.7	215.0	25.8	29.6	96.5	106.5	162.6	195.3	10.0	0	0	10450	
16				3.1	10	黄色ナ ア	—	1140.0	192.8	211.5	19.8	83.7	146.9	209.5	253.6	164.2	12.0	0	0	114000	
17				3.4	7	綿層	—	1862.0	145.4	377.5	45.6	121.8	250.1	379.8	289.9	258.3	14.0	0	0	無 數	
18			ステー ン フ エル ド	純 汲井 不 純ノ 度 甚 シ	1.0	10.5	綿層	美 可 ナ リ	66.0	65.6	17.5	2.7	2.0	8.4	8.9	10.7	9.7	2.0	0	0	33600
19					2.5	6	帯黄色	—	662.0	72.1	83.5	31.0	25.1	49.4	78.1	101.8	62.1	22.0	0	0	60145
20	3.0	1.7			—	—	1120.0	189.6	206.0	27.9	49.1	218.4	244.9	238.6	96.3	24.0	0	0	—		
21	イ ー ル ホ ー ウ エ	手 用 ポン プ 純 少 シ 不 純 同 様 不 純	—	—	少シ白濁	—	67.2	20.7	20.0	3.6	1.7	4.9	7.1	15.1	10.6	8.0	0	0	—		
22			—	—	—	—	72.8	27.7	22.5	4.0	1.4	4.7	7.1	13.6	10.3	4.6	痕跡	痕跡	16950		
23			2.0	—	黄濁	土 ノ 味	252.0	131.1	45.0	9.3	7.2	14.9	21.3	38.0	31.2	14.0	0	0	10350		
24			2.6	8	同シ様	—	218.0	232.3	34.0	11.2	8.1	10.4	17.7	33.2	27.4	10.0	0	0	23250		
25			3.3	50	白濁	—	440.0	189.6	95.0	6.3	22.2	60.4	88.7	30.2	98.5	28.0	0	0	24450		
26	メル シ ユ	純 吊桶付汲井 不 純	2.7	16	綿層	美 飲 ム 可 カ ラ ズ	341.2	85.3	135.0	16.8	3.7	18.6	17.7	5.9	26.2	11.2	0	0	35840		
27			2.8	13	同シ様	—	218.0	71.1	170.0	19.8	6.4	14.9	10.6	3.0	51.8	2.0	0	0	18240		
28			3.3	5	透澄	—	368.0	23.7	130.0	5.4	20.7	28.7	24.7	2.9	43.4	16.0	0	0	12800		
29			2.6	16	—	—	956.0	102.7	153.5	26.1	83.2	97.6	117.1	51.5	197.3	36.0	0	0	—		
30			3.3	26	綿層	—	1072.0	123.2	175.0	27.5	80.1	96.5	124.2	55.9	214.8	41.2	0	0	—		
31	メ ー ア	純 同シヤウ	5.0	17.5	綿層	—	274.0	47.4	60.0	11.7	17.8	19.0	21.3	32.4	64.7	2.0	0	0	8000		
32			3.0	14	同様	—	280.0	67.9	55.0	7.2	23.0	26.3	46.1	28.0	32.1	16.0	0	0	27951		

24	凹地ノ井	純	2.6	8	同シ様	美	218.0	232.3	34.0	11.2	8.1	10.4	17.7	33.2	27.4	10.0	0	0	10350.							
25	木製手用ポンプ	不純	3.3	50.	白濁	美	440.0	189.6	95.0	6.3	22.2	60.4	88.7	30.2	98.5	28.0	0	0	24450.							
26	吊桶付汲井	純	2.7	16	綿屑	美	341.2	85.3	135.0	16.8	3.7	18.6	17.7	5.9	26.3	11.2	0	0	35840.							
27							同シ様	飲ム可 カラス	218.0	71.1	170.0	19.8	6.4	14.9	10.6	3.0	51.8	2.0	0	0	18240.					
28							透澄	美	365.0	23.7	130.0	5.4	20.7	28.7	24.7	2.9	43.4	16.0	0	0	12800.					
29							不純	美	956.0	102.7	153.5	26.1	83.2	97.6	117.1	51.5	197.3	36.0	0	0	—					
30							綿屑	美	1072.0	123.2	175.0	27.5	80.1	96.5	124.2	55.9	214.8	41.2	0	0	—					
31	凹地ノ井	純	5.0	17.5	綿屑	—	274.0	47.4	60.0	11.7	17.8	19.0	21.3	32.4	64.7	2.0	0	0	8000.							
32							同シ様	—	280.0	67.9	55.0	7.2	23.0	26.3	46.1	28.0	32.1	16.0	0	0	27951.					
33							不純	—	806.0	96.4	105.0	16.2	58.8	114.9	142.0	95.8	122.2	18.0	0	0	135800.					
34	手用ポンプ付凹地ノ井	不純	3.3	13.	少シ白濁	—	218.0	31.6	47.5	8.1	5.6	12.0	17.7	13.8	30.5	2.0	0	0	14060.							
35							綿屑	—	404.0	172.2	56.5	21.3	13.9	21.7	39.0	69.2	60.4	6.0	0	0	28800.					
36							透澄	—	542.4	37.9	163.5	12.6	13.7	20.4	39.0	41.3	103.3	23.6	0	0	130240.					
37							不純	—	477.2	39.5	137.5	8.1	9.8	26.4	39.0	50.1	69.9	16.8	0	0	34440.					
38							透澄	—	670.0	102.7	197.5	18.0	8.6	37.5	53.2	81.1	120.5	24.0	0	0	13870.					
39							透澄	—	845.0	83.7	212.5	22.0	13.0	62.6	74.5	98.8	100.9	9.2	0	0	2187.					
40							綿屑	—	824.8	82.2	180.0	23.4	55.4	106.5	156.2	109.1	102.5	8.4	0	0	12118.					
41							透澄	—	976.0	72.7	267.5	32.4	24.6	61.9	74.5	102.4	148.6	22.0	0	0	21840.					
42							不純	—	1086.0	102.7	267.5	44.0	34.8	64.2	39.1	122.3	318.4	24.0	0	0	60450.					
43							綿屑	—	1182.8	218.0	177.5	43.2	87.3	192.3	252.0	41.3	329.7	28.4	0	0	3840.					
44	聖マウリツツミユルンステル	汲井	3.5	10.	透澄	美	622.5	60.0	225.0	16.2	3.5	17.2	53.2	31.6	80.9	13.5	0	0	—							
45							不純	—	570.0	174.8	112.5	25.2	14.5	41.0	74.5	20.6	63.8	10.0	0	0	痕跡	29580.				
46							少シ黄色	—	727.5	230.7	185.0	13.5	29.8	59.3	71.0	75.7	145.5	15.0	0	0	0	32400.				
47							不純	—	1120.0	238.6	220.0	29.7	124.5	134.9	220.1	93.6	92.7	12.0	0	0	0	58725.				
48	ヒルトルツツ	凹地ノ井	純	2.8	4	透澄	美	784.0	194.3	261.5	14.1	20.5	(16.7)	39.0	128.0	60.4	痕跡	0	0	1960.						
49								噴水井	不純	5.2	9	帯黄色	ブルシ	2140.0	478.7	433.5	24.0	175.2	190.1	301.7	165.1	223.1	12.0	存ス	存ス	850.
50	カツテンウエンネ	手用ポンプ付	純	5.7	10	黄濁	美	410.0	129.6	82.0	20.7	8.1	18.7	49.9	27.1	106.1	20.0	0	0	14650.						
51								凹地ノ井	不純	3.1	8	余滓ナシ	美	706.0	142.2	138.0	23.9	28.3	45.2	99.4	150.2	62.7	14.0	0	0	1530.
52	ライネ	手用ポンプ付	純	5.5	30	少シ白濁	美	25.40	61.6	65.0	9.0	16.8	31.0	39.0	44.0	48.7	4.0	0	0	9444.						
53								凹地ノ井	不純	4.1	12	透澄	美	706.0	66.4	230.0	13.2	17.8	103.8	124.3	57.8	155.5	3.2	0	0	480.
54								不純	2.9	20	透澄	美	1016.0	74.3	277.5	49.0	51.9	63.5	63.9	67.4	262.5	2.0	0	0	460.	

マーブルヒ試験場ニテハ不純ナル井水ノ化學的組成ニ付キ同様な關係ヲ見タリ即チ例ヲ擧グレバ

井ノ場所及ビ種類	蒸發殘渣	有機物質	加里	曹達	鹽素	硝	酸	單位ハmgニテ一立ニ付キテカ、ゲ
ギンゼルドルフ	410.0	(4.2)	12.9	24.6	49.7	39.7		
グロースアウハイム	436.0	(4.0)	17.2	28.4	53.1	87.6		
ノイスタツト	345.0	(7.9)	17.7	20.5	31.9	70.5		
マールブルヒ	610.0	(10.0)	79.8	63.8	74.5	109.3		
マールブルヒ	—	(6.0)	248.4	155.8	213.5	396.0		
ロムメルスハウセン	1125.0	(13.3)	200.7	83.8	152.6	165.5		
ウエツテル	1572.0	(6.1)	523.4	99.4	215.9	172.0		
ゲルスフェルド	1432.0	(24.1)	287.0	164.0	200.0	200.0		

水田附近ニテハ町ノ廢水ノタメ往々コレニ類シタル地下水又ハ井水ノ不純ヲ來タス、ア、ミツレル氏ハ巴里ゲンノウイヨエノ甚ダシクカカル廢水ノ影響ヲ受クル井水ヲ分析シテ次ノ成績ヲ得タリ、(マールブルヒ試験所長大學講師、ドクトル、エ、ハーセルホッフ氏報告ニヨル) 即チ一立ニ付キテ言ヘバ。

蒸發殘渣	(熱灼ノタメ漏泄量) 有機物質	石	灰	マグネシア	加里	曹達	鹽素	硝	酸	硫	酸	亞硝	酸
778.0	242.0	63.0	30.0	34.0	93.0	86.0	125.0	317.0	139.0				

用ニ依リ成生セラレタルモノニシテ無害ト見做シテ可ナリ
(同ジク時ニ硫酸鹽類ヨリ還元作用ニ依リテ硫化水素カ地下水ニ成生セラル、事アリ斯カル場合硫化水素ノ含量過量ナラザレハ唯不快ナルノミニテ少シノ害モ無シ)
又硫酸鹽類或ハ鹽化物ノ少量ハ水ノ純不純ヲ定ムルモノニ非ラス、コレ上述セル如ク此等ノ化合物ハ天然ノ地層中ニテモ成生セラル、事アレハナリ、通常多量ノ硝酸鹽類、並ニ亞硝酸鹽類ノ含有セラル、時ハ危険ナリ、トセラル、ハ、此等ノ化合物カ常ニ不純ナル地層中ノ有機窒素又ハ窒化「アムモニア」ハ硝化

作用（若シクハソノ反對ノ作用、即チ或種ノ地層中細菌ニ依リ硝酸鹽ヨリ窒素ヲ生成スル作用）ニ依リテ
生成セラレタルモノニシテ、硝石ニ富ム土壤ヨリ來ルモノニアラサレハナリ

（天然ノ硝石堆積ハ熱帯ノ降雨ナキ一地方ニ限リテ存ス（例ヘハ南米）然レトモソノ起原ヲ尋ヌレハ依然有
機性ノモノナリ）

サレド硝酸ノ定性證明ハ不純ナル事ヲ識別スルニ十分ナラス、常ニ定量的ニ測定セサル可カラス而シテ井
水ノ不純ハ硝酸ノ含量ト同時ニ、特ニ鹽化物及ヒ硫酸鹽ノ增量アリテハシメテ確定スルモノナリ、サレハ
水ノ精密ナル定量的化學検査ノ結果ヲ同シ地層中ノ純水ト比較シテ後ハシメテソノ水ノ純不純ニ對スル眞
ニ確固タル主要點ヲ得ルナリ

サテ斯ル不純井水或ハ地下水カ健康上有害ナリヤ否ヤハ別問題ナリ、濾過作用十分ナル地層ニテハ四乃
至五突米ノ深サニ達スレハ殆ト病的芽胞ハ生存セサルヲ以テ腐敗物質或ハ變敗性物質カ完全ニ酸化サン、
硝酸鹽類、鹽化物及ヒ硫酸鹽類カ過量ナラサル場合ニハソノ水ヲ飲用スルモ概シテ健康上直接ニ有害ナル
作用ナシ、サレト時折土壤ノ酸化作用行ハレサル事アリ（絶エス不純物質カ土壤ニ浸潤スル場合ハ殊ニ
然リ）。コノ時ハ不純ノ明カナル事上述ノ如キ井水或ハ給水源泉ハ凡テ使用セサルヲ宜シトス、殊ニカクノ
如キ水ハ急性的ナラストスルモ慢性的ニ健康ヲ害スルヲ以テナリ

（四） 特別ナル化學的性分ヲ取り扱フ實業上ノ事業ニヨリ地表ノ水、地下水或ハ井水ノ不純ヲ來ス場合ニ

ハ化學的分析ノ價值アル事ハ毫モ疑ヒヲ容ル、餘地ナシ。而モカ、ル場合ハ甚々屢々ナリ
 次例ハ明カニコノ事實ヲ説明スルモノナルヘシ

番 號	種 類	一 立 方 中 (mg.)									
		蒸 發 殘 渣	有 機 物 實 質	石 灰	マ グ ネ シ ア	加 里	曹 達	鹽 素	硝 酸	炭 酸	
1	洗 濯 工 場 非 水 不 純 ナ ラ	722,0	383,4	29,0	4,5	254,5	49,0	149,1	142,5	108,0	
2	瓦 新 製 所 (1) 井 戸 ヨ リ 七 米 深 ク 掘 リ 上 リ テ 得 ル 水 ノ 試 験 所 ノ 水	—	41(8,4) 2832,0 { セ シ 酸 化 ニ 要 ス ル 量 }	906,1	138,2	81,6	300,0	440,2	2,2	991,6	
3	鐵 鑛 殘 渣	780,4	—	179,0	45,7	337,0	0	51,2	—	220,2	
4	亞 鉛	1345,6	—	215,0	48,2	0	23,4	204,1	—	347,2	
5	曹 達 及 ビ 硫 酸 殘 渣 (111)	906	2,4—8,5	(186,3)	—	—	—	43,7	55,7	154,5	
	製 造 所 ノ 殘 渣	380,0	—	—	—	—	—	269,8	190,5	1567,0	

(I) F. Fischer, Gingler's Polytchn. Journ. 1974, 114, 85

(II) 酸化ニ要セシ酸素ハ一立方ニ付キ七四四、〇ミリグラム

(III) ミュンヘン市衛生試験所ノ第一回及ヒ第二回報告、ミュンヘン、一八八二、五三

洗濯工場附近ニテ使用スル石鹼溶液(洗濯水)ノ地中ニ浸潤スルトキ、就中石灰石鹼及ヒ「マクネシア」石鹼ハ地下水及ヒ地中ノ水ニ多量ノ加里ヲ含マシム

化學工場附近ニテ硫酸或ハ鹽酸カ地中ニ浸ミ込ム場合ニハ井水ハ甚々多量ナル硫酸鹽及ヒ鹽化物、並ニ終ニハ游離酸ヲ含有スルニ至ル、如此例ハ硫化鐵及び硫化亞鉛ヲ含ム黃鐵鑛殘渣ヲ灰汁ニテ浸出スル際ノ成生物カ井戸中ニ浸入スル場合ニ見ラル、黃鐵鑛殘渣ヨリ成生セラル、硫酸鹽類ハ地中ニテ炭酸土類ト共ニ分解シ、アルカリ土類ノ硫酸鹽及ビ酸化金屬ノ炭酸鹽成生セラル、サレトコノ作用ハ地中ニ炭酸土類ノ存在スル間行ハル、ニ過キスシテ、此ノモノカ全部化合シ盡クサレタル時ハ金屬ノ硫酸鹽類ハ分解セスシテ、其儘ニテ井水中ニ浸入スルナリ

廢水カ多量ノ食鹽ヲ含有スル場合、例ヘハ鹽坑、鹽水鑛泉炭坑等ノ附近ニテハ井水中ニ多量ノ鹽化物ノ見ラル、事稀ナラス

曹達及ヒ硫酸製造所ノ殘滓置場ハ數年後ニ至ルモ尙ホ井水或ハ地下水ニ不純作用ヲ及ホス事屢々ナリ

ア、バステリック氏ハ「クレヲソート」昇汞等ヲ木材ニ注入スル工場ヨリ十七「メートル」ノ距離ニアル

井水一立方中ニ〇、二五八六瓦ノ水銀(110、三五〇瓦ノ鹽化水銀)ヲ證シ得タルカ廢水ノ蒸發殘渣二、七
一二瓦中鹽化水銀ハ〇、九一〇瓦ナリキト

(Zeitschr. Unters. Natur. Genusm. 1899, 2, 137.)

此等ノ例證ニ依ルニ甚タシク輕視セラレ居タル水ノ化學的分析ハ漸ク數年來衛生學者及ヒ官醫ノ認メン
トスルニ至リシ程薄弱ナルモノニ非サルハ明白ナリ

勿論水ノ化學的検査ハ其ノ成績ヲ正確ニ且ツ精密ニ報告シ加之化學及ヒ地質學ノ十分ナル知見ニ依リテ
コレニ正當ナル解決ヲ下スニ至ツテ始メテ價値アルナリ

要スルニ余ハ前述セル陳述及ヒ數年來ノ經驗ニ基キテ次ノ主旨ヲ開陳シ得ルヲ信ス

- (一) 水ノ化學的分析ハ從來ノ如ク將來モ十分價値アリ、コハ先ツ第一ニ一般給水ニ使用スル水(泉水、地
下水地表ノ水)ニ對シテ適合ス、コレ一般給水ノ目的トシテハ飲料水ヲ供給スルノミナラス、實業
的事業ニ使用スル水ヲモ供給セサル可カラヌ而シテ後ノ場合ニハ化學的検査ハ細菌學の検査ヨリ重
要ナレハナリ、但シ水ノ化學的組成ヲ知ル事ハ飲料水ノ鑑定ニモ大ナル價値アリ
- (二) 水ノ清淨設備(殊ニ濾過ニ依ルモノ)ノ作用又ハ突然ノ雨水流入或ハ其他ノ異變ニ依ル給水源ノ不純
ヲ鑑定スルニハ細菌學の検査ハ化學的検査ニ優レルモ後者トテモ輕視ス可カラサル鑑定法タルハ疑
フ可カラス

(三) 給水源ノ不純作用カ外面ヨリ明カニ見ラル、場合ニハコレヲ防止ス可キハ勿論ノ事ナリ、然レトモ
外面ニ現ハレスシテ地下ニ於ケル流入ノ爲メニ水ノ不純ヲ來タス場合ニハ化學的分析ハ

- (a) 人家或ハ鄉村及ヒ工業的の事業ニ依リテ生スル窒素含有ノ有機性腐敗物、或ハ腐敗性物質ニ依リ不
純作用カ深サ、四乃至五「メートル」或ハ夫レ以上ノ地層ニ於テ營マル、場合ニシテ地下水或ハ井
水カ通常相境シテ連ナル土地ニアル時ハ細菌學の検査ヨリ確實ナリ

(b) 不純ノ原因カ主ニ鑛物質ノモノ或ハ特種ノ化學的成分ナル時ハ唯一ノ方法ナリ

(四) 又給水源ハ正シク適當ニ整頓スル様注意シ、不完全ナル設備ヲ避ク可キハ勿論ナルカ確實ニコレ
ヲ行ヒ、外面上明白ナル不純作用アルヤ否ヤヲ知ルニハ土壤ノ視察ニ依ラサル可カラス、地中ニテ
起ル不純作用ハ外面ヨリノ視察ノミニ依リテ知ルヲ得ス、サレハトテ又單ニ細菌芽胞數ノ調査、僅
カノ定性反應ニヨルモ十分ナラスカ、ル場合ニハ唯ヒトリ精密ナル化學的定量分析ニヨラサル可カ
ラス、水ノ鑑定ニ際シ化學的及ヒ細菌學の検査ヨリモ土地ノ視察ニ重キヲ置クヘシトナセル告示(例
ヘハ一九〇一年三月廿三日發布ノプロイセン郡醫ニ對スル職務上ノ訓令第三條ノ如キ)ハ何レモ遵
守スヘカラサルモノナリ

(五) 給水源泉ノ土地ノ情況ヲ視察スルハ時ニ望マシキ事ニシテ殊ニ重要ナル場合ニハ常ニ必要ナリ、サ
レトコレヲナスニ醫師ハ化學者或ハ水道工學者ニ比シテ特ニ卓越セル伎倆ヲ有セサルハ明カナリ、

但シ人類カ傳染病ニ感染シタル場合ノ檢水ニ當リ或ハ斯ル疑アル場合ハコノ限リニアラス然レトモカ、ル場合ヲ計算ニ入レル事ハ現今人々ノ考フル程屢々ナラス、要スルニ土地ノ視察及ヒ、試験ヲ行フ者ハ標準ト爲スヘキ精密ナル検査ヲモ爲シ得ルモノナラサル可カラス

(六) 水ノ化學的分析ノ結果時々問題トナル成分ハ何レモコノ方法ヲ用ヒテ調査シテ結果ニ價值アル適當ノ解決ヲ下スニ至リテ初メテ眞ニ十分ノ價值アルナリ

○細菌學上ノ見地ヨリ見タル水ノ鑑定ニ付キテ

ミュンヘン市、ドクトル、エル、エムメリヒ

一一八〇年ミュンヘン市ハマングスファル谷ヨリ市ニ給水スル事ヲ決議シ、水ノ性質分量共ニ理想的ノモノニシテ全世界ノ羨望ノ的トナレル大規模ノ水道ヲ敷設セリ

コノ水ノ選擇ハ水道工學者サルバツハ、ティーム兩氏、地質學者フォン、ギムベル氏、及ヒ化學者ニシテ衛生學者タルフォン、ベッテンコッフエル氏ノ共力ニヨルモノナリ

水ノ細菌學的検査ハ當時未タ人ノ知ラサリシ所ニテソノ後二年ヲ經テローベルト、コッフ氏ヲ以テ嚆矢トナス

ミュンヘン市ノ給水事業ニヨリ、細菌學的検査ノ助ヲカラストモ、一地方ノ給水ニ使用シ得ヘキ多クノ水源中ヨリ最モ純粹ニシテ最モ適當ナルモノヲ選擇シタル事證明セラレタリ、コレミュンヘン市ノマングスファル水ハ一立方「センチメートル」中二乃至十(稀ナル場合ニシテ二〇)ノ芽胞ヲ含ミノ種類モ僅ニ二種或ハ三種ニ過キササルヲ以テタ、ニ物理學上、化學上ノミナラス細菌學上ヨリ見テモ完全ニ純粹ナリト云フヲ得ヘキヲ以テナリ、ソノ他ニマングスファル水中ニハ後ニ述フルカ如ク水ノ衛生警察官トモ稱スヘキ二種ノ鞭毛滴蟲(ボド、ザルタンズ及ヒボド、オワーツス)ヲ含メリ、コノ純粹ニシテ美味ナル水中ノ生

活體ハ以上列舉セシモノノミニシテ、而モコノ水ノ選擇ハ、タ、水道工學的、地質學的及ヒ化學的検査ニヨリテナサレシモノニテ細菌學的検査ハ少シモ關スル所アラサリキ

サレト諸君、アラユル化學者或ハ衛生學者カ必スシモベッテンコッフ氏ノ如キ人物ニアラス、而シテ同氏及ヒ氏ノ先輩タル多クノ専門家ハ常ニ水ノ性狀ヲ説明シ得ル検査法ハ何レモコレヲ引用セシ如ク吾人モ亦重要ナル場合ニハ從來使用シ來レル検査法ヲ悉ク用ヒ、而シテ多クノ場合細菌學的検査法ヲ水ノ鑑定ニ非常ニ價植アル補助法トシテ利用セントス、如何ナル検査法カ最モ價植アルカノ問題、即チ物理學的カ化學的カ、細菌學的カ、ハタ外面ヨリノ視察試驗カ、カ、ル疑問ハ、元來一ツ一ツニ付キテノ論ニシテ吾人ハコレヲノ検査法ノ中何レヲ最モ根本的ニ價植アルモノトセサル可カラサルカヲ確定セントスルハ無駄ナル事ト言フヘシ

キョトニッヒ教授ハ、今日、水ノ商業及ヒ工業上ノ使用ニ關スル問題ノ解決ニハ多クノ場合化學的検査ハ重キヲナスモノニシテタ、コレノミニヨリテ決定スヘキ場合モ往々アルコトヲ判然ト示サレタリ、

サレト一面ニハ物理學的、化學的及ヒ顯微鏡検査モ不必要ナルニハアラサルモ、細菌學的検査ニヨリテ解答スルノ甚タ必要ナル問題アリ、水源ヲ傳染病或ハ流行病ノ根源地ナリトスル場合ノ如キ明カニコノ例ナリ、コノ細菌學上竝ニ衛生學上ノ主要問題ハ今日ナホ詳細ニ論スヘシ而シテ當問題ノ評價ニ當リテ觸接傳染論者及ヒ飲料水論者ト傳染病土地論者、即チコッフホ學派トベッテンコッフ學派トハ各々見解ヲ異ニ

シ兩學派間ニ軋轢アルナリ、然レトモ余ハ先ツ主要原則ヲ定義シ次ノ命題ヲ述ヘサル可カラス

一市、或ハ一地方或ハ兩者ヲ一區劃トシテコレニ給水スル場合、水ノ鑑定ニハ必要ナル水道工學的、地質學的及ヒ物理學的検査(外面ヨリノ視察モ包括ス)竝ニ化學的、細菌學的及ヒ顯微鏡的検査ヲ行ノヘク、性質上、及ヒ數量上少シニテモ確實ナラサル點アラハコレヲ確定スルニ必要ナル丈ケ此等ノ検査ヲ反覆セサル可カラス

余ハ今日ハ唯細菌學的及ヒ顯微鏡的検査ノミニ關シテ論スルヲ以テ公衆ノ健康上ニ重要ナル水ノ検査ニハ細菌學的及ヒ顯微鏡的検査モ化學的検査ト同等ノ價植アルモノナル事ヲ論スルニ止メン

細菌學的検査ヲ爲スニ際シテハ化學的分析ノ場合ニ比シ、ヨリ十分ナル練習、及ヒ經驗ヲ必要トスルハ何人モ否定シ得ハサル前提ナリ、遺憾ナカラ人家ノ廢水、便所、及ヒ肥料壺中ニ現ハル、細菌ノ種類ニ付キテハ未タ十分ナル研究ナシ、人類或ハ動物ノ排泄物ヲ含ム水ノ不純ハソノ地方ノ常水ノ化學的性狀ヲ比較シ食鹽硝酸等ノ含量ヨリ確然ト察知シ得ルモ細菌學的検査ニヨリテハ、確然タル主要點ヲ得ス、コレ水中ニ如何ニ多數ノ結腸「バクテリア」カ存在スルトモ、コレヲ以テ直チニ人類或ハ動物ノ排泄物カ濾過作用不十分ナルタメ、土壤ノ水路ヲ通シテ水中ニ達セシモノトノ確定ニ資スルニ足ラス此ヲ確定スルニハ尙ホ他ニ十分注意スヘキ點アルヲ以テナリ、即チ吾人ハ外面ヨリノ視察及ヒ化學的検査ノ助ヲモカリテ、初メテ、確定シ得ルナリ、コノ點ハ經驗ニ乏シキ細菌學者ノ誤ル所ニシテ、爲メニ市ハ多大ノ出費及ヒ困難ニ

遭遇スルコト屢々ナリ、余ハカ、ル一例ヲ知レリ、即チ一細菌學者カ一立方センチメートルノ水中ニ結腸「バクテリア」ノ聚落四乃至五發育セリトノ理由ニ基キ全ク純粹ニシテ化學的検査ニ因レハ少シモ異論ナキ水ハ使用ヲ斷然反對セリ

コ、ニ於テ其ノ市ハ新ニ土地ヲ穿開セシカ、新ニ穿テル水中ニハ依然トシテ結腸「バクテリア」ト思ハル、モノヲ發見セリ、然レトモコハ設計ヲ委託サレタル水道工學者ノ力ニハ及ヒ難キ所ナリキ、況ンヤ地下水ハ四乃至五メートルノ清淨ナル砂及ヒ細キ砂利ノ密層ノ下ニ存セシニ於テオヤ、余ハ丁度ソノ水ノ検査ヲ委託サレテ、ソノ水ヲ浸シタル「ゼラチン」板上ニ結腸「バクテリア」ニ類似シタル聚落ノ發育ヲ見タルカ然シソハ三十七度ノ肉汁中ニ移シタルニ少シモ發育セサルヲ確定シ得タリ、コレニ由テ見レハソハ恐ラク結腸「バクテリア」ニアラスシテ「ゼラチン」板上ニ之レニ似タル聚落ヲ作ル、空中、地中等ニ甚タシハ「生存スル、結腸」バクテリア」ト同種ナル多クノ細菌中ノ一種ナリ、コノ事ハナホ精密ナル検査ニヨリテ實際ニ確定セラレタリ

サレハ、濫ニ、水中ニ結腸「バクテリア」ノ生存スルヲ證明シタリト報告シテ益ナク却ツテ害ヲ及ホセル事、マコトニ屢ナリ

井水中ノ結腸「バクテリア」ノ状態ハ、誤リ記サレタルモノ甚タ多クソノ結果水カ人類或ハ動物ノ排泄物ニヨリ不純トナリタルモノト推斷セラレタリ

斯ル場合常ニ此種ノ細菌ナリシヤ否ヤハ甚タ疑ハシ（水中、地中、空中等ニハ結腸「バクテリア」一甚タ類似シタル細菌ノ種類多シ然レトモ此等ハ結腸「バクテリア」ト同一物ナラス、結腸「バクテリア」カ地中ヲ通りテシハ「井水中ニ達スル事アリト言フハ一般ニ信スヘカラス、コレニハ便所ト井水間ニ自由ニ細菌ノ通り得ル水路アルカ或ハ地下水ノ周圍ノ地中ニコノ細菌カ多數生存スル事ヲ假定セサルヘカラス。シカモカ、ル場合ハ極メテ稀ナルハ明カナリ、コノ種ノ細菌ハ井戸ノ圍ヒカ不完全ナルトキニハ比較的容易ニ水中ニ達スル事アリ、結腸「バクテリア」ノ確定ハ容易ノ業ニアラス、コレヲ決スルニハ「チフス」菌ノ確定ト同シク數多ノ検査ヲナスヲ必要トス、而シテ凝集試験ノ結果モ陽性ナラサル以上決シテソノ證明ヲ得タルモノト見做スヲ得ス、現今ノ知識程度ニテ臨床上ノ價值アル證明ヲ得タル細菌ノ種類ハ今日迄ノ所唯少數ナリ、サレトカ、ル種類ノ細菌ハ一度種々ナル廢水及ヒ汚水ノ細菌植物ヲ精密ニ検査スレハナホ増加スヘク水ノ細菌學的検査ノ價值ハコレニヨリテ認めラル可シ

曾テ或種ノ傳染病、殊ニ腸「チフス」「コレラ」「マラリア」ノ病因ヲ解明セントスルニ方リ水ノ細菌學的検査ハ大ナル期待ヲ以テ迎ヘラレタリキ、現今吾人ハ「マラリア」カ飲料水ニヨリテ蔓延スルモノナラサルヲ確知セリ、意外ニモ「マラリア」寄生蟲ハ「アノフェレス」ノ種類ニヨリ傳染セラル、事明カトナレリ吾人ハ敢テ豫言者タラストモ「コレラ」及ヒ「チフス」モ亦「マラリア」ト同シクソノ發生及ヒ蔓延ハ水ト何ラノ關係ナキヲ細菌學上ヨリ證明スルニ至ルハ遠カララスト言フヲ得ヘシ

ベッテンコッフエル氏ハ既ニ長キ間コノ説ヲ固持シテ動カサリシハ人ノ知ル所ナルカ彼ハ、多クノ重キ「チフス」及ヒ「コレラ」病殊ニミューンヘン市ニ於ケルモノハ絶對ニ飲料水ニ起因スルモノナラサルヲ示セリベッテンコッフエル氏ノ證據ハ甚ダ數多ク、且ツ當ヲ得タルモノニシテ今日ニ至ル迄依然トシテ動カスヘカラサルモノナリ、サレハコノ仕事ヲ識ル人ニハ、既ニ「チフス」及ヒ「コレラ」ノ發生ト水トハ少シモ關係ナキ事、傳染病學上ヨリ證明セラレタリ

然ルニベッテンコッフエル氏ノ意見ノ代表者ノ二三ノモノカハンブルグ市ニ於ケル最近ノ「コレラ」流行病ノ際コッフホ及ヒ其ノ學徒カハンブルグ市ノ流行病ハ水ニ原因セシモノナリト主張スルヲ聞キテ大ニ狼狽セルハ不思議ナリ、コッフホ氏等ノ理由トスル所ハマルトナ市トノ境界ニ至リテ「コレラ」ハ全ク蔓延ヲ停止シ、爲メニ或ル街、例ヘハシユルテラブラット街ニテハハンブルグ市ニ屬スル側ニ流行猖獗ヲ極メタルニ反シ向ヒ側ノアルトナニ屬スル側ハ殆トソノ厄ヲ免レタリト言フニアリ、諸君然レトモハンブルグ市ノ側トアルトナノ側トハ家屋ノ状態ニ著シキ逕庭アルハ盲者スラ知レル事ナリ、即チハンブルグ市ノ側ニアリテハ凡テノ家屋ニハ悉ク地下室アリ殊ニ多クノ食料品店ハコノ地下室中ニアリハンブルグ市民ハ地下室住民ナリ、アルトナ市民ハ否ラスアルトナ市ノ側ニハ全然地下室ナシ

加之土壤ノ状態モアルトナトハンブルグニテハ根本的ニ異ナレリ、ハンブルグニテハ多クノ市區殊ニ聖パウリ、ノルド及ヒジュード、ハムメルブローク等ニハ「コレラ」菌ノ發育ニ適應セル土壤アルニ反シ「ア

ルトナ」ノ土壤ハ大部分、ベッテンコッフエル氏カ明カニ「コレラ」免疫性ナリトセシ粘土ナリ

ハンブルグ市ノ「コレラ」ハソノ原因、水ニアラスシテ土壤ノ性質ニ起因セシヲ會得セント欲スルノ士ハドクトル、フリードリヒウオルテル氏著、一八三一年ヨリ一八九三年ニ亘ルハンブルグ市ニ於ケル「コレラ」發生ハ一八九二年ニ於ケル本流行病ノ特別觀察(ミュンヘン市、一八九八年、ヨット、エフ、レーマン發行)ヲ讀マルヘシ

ウオルテル氏ノコノ仕事ハ、初メ氏ハ、ハンブルグ市ノ「コレラ」病カ飲料水ニ起因スルヲ證明スヘキ依頼ヲ受ケテ着手セシモノナルヲ以テ一層大ナル價值アリ、然ルニウオルテル氏ハ全然客觀的ナル根本的検査ニヨリ正反對ノ結果ニ到達シベッテンコッフエル氏ニ同一ナル見地ノ上ニ立ツニ至レリ、而モ之レマテニ兩氏間ニハ個人的關係モナク書面ノ往復モナカリシナリ。今日ナホ性格ノ立派ナル人物アルハ慶スヘシ、カ、ル人々ニハ眞理ハ無價ノモノニシテソノ人々ノ力ニヨリテ眞理ハ最後ノ勝利ヲ得ルナリ

余ハ今日「チフス」及ヒ「コレラ」病ノ發生ハ井水或ハ河水ニ因ルモノナラサル事ヲ細菌學上ヨリ證明シ得ルヲ信ス

過去廿年間ニ「チフス」病發生ノ度毎ニミューンヘン市衛生學研究所ニテ該病ノ原因タル可キ筈ノ井水ヲ百回細菌學上ヨリ検査セシニ一回トシテソノ疑ハシキ水中ニ「チフス」菌ヲ發見スル事能ハサリキ、二三ノ細菌學者ハ近來カ、ル水中ニ「チフス」菌ヲ發見セシ事二三回アリト稱シ居レト吾人ハコノ陽性ナル檢出

ニ對シテ大ナル疑問ヲ懷カサルヲ得ス、コレ「チフス」菌ノ確定ハ至難ノ事ニシテ凝集試験ニヨル證明ノ報告スラ猶ホ之レヲ駁論シ疑フ可キ正當ノ理由アルヲ以テナリ

次ノ理由ヨリシテモ「チフス」菌及ヒ「コレラ」菌カ四十八時間以上モ井水中ニ生存スル事ハ殆ト全ク信スヘカラス、縱令「チフス」便カ全部井戸中ニ流入スルトスルモ（斯カル事ハ文明ナル獨逸國ニテハ考フ可カラサル事ナルカ）信ス可カラス、即チ、比較的多數ノ「チフス」菌ヲ河水水道或ハ井水中ニ入レルニ菌ノ大多數ハ忽チニシテ撲滅セラル

- 一立方「センチメートル」ノルール水ハ「チフス」菌ノ加入後
 - 即刻ニハ 「チフス」菌二一六〇〇〇〇〇
 - 四十四時間後 同 七二〇〇〇〇〇
 - 六十六時間後 同 一一八五七一
 - 百五時間後 同 ナシ
- 一立方「センチメートル」ノマングスファール水ハ加入後（一九〇三年十二月廿三日）
 - 即刻ニハ 「チフス」菌一〇五四三〇〇〇
 - 廿四時間後 同 一八〇〇〇〇〇
 - 四十八時間後 同 ナシ

甚タ多數ノ原蟲殊ニ鞭毛滴蟲並ニ滴蟲類及ヒ「チクロビータン」ヲ含ム衛生學研究所ノ水、一立方「センチメートル」中ニハ

（一九〇四年五月二日）

- 加入後即刻ニハ 「チフス」菌二四三〇〇〇〇〇
- 廿一度ニシテ廿四時間放置後 同 二八八五七一
- 「チフス」菌ヲ加入スルニ先タチ一時間蒸氣ヲ通シテ熱灼シ水ヲ殺菌スレハ水中ノ「チフス」菌ノ状態ハ全然一變ス、殺菌シタル河水、水道ノ水及ヒ井水中ニテハ加入シタル「チフス」菌ノ數ハ五日以内ニテハ増減ナシ或ハ減少スル事アリテモ甚タ僅カナリ。
- 一立方「センチメートル」ノ殺菌シタルルール水ハ「チフス」菌ヲ加入後
 - 即刻ニハ 「チフス」菌一四一五〇〇〇〇
 - 廿四時間後 同 一四一五〇〇〇〇
 - 四十八時間後 同 一四一五〇〇〇〇
 - 百廿時間（五日）後 同 一四一五〇〇〇〇
- 一立方「センチメートル」ノマングスファール水ハ
 - 即刻ニハ チフス菌 一三〇〇〇〇〇〇〇

廿四時間後

同

一三〇〇〇〇〇〇

四十八時間後

九〇〇〇〇〇〇

モントグラス街卅一號ノ殺菌シタル井水一立方「センチメートル」中ニ

即刻ニハ

「チフス」菌一五〇〇〇〇〇

廿四時間後

一一五〇〇〇〇〇

四十八時間後

一一〇〇〇〇〇〇

之レニ依テ見レハ殺菌シタル水中ニテハ「チフス」菌ハ撲滅セラレスシテ少ナクモ數日間ハ、始メニ加入シタル丈ケハ生存シ發育シ得ルナリ即チ之レヲ約言スレハ殺菌シタル水中ニハ「チフス」菌ノ増減ナシ

サレハ井水或ハ河水中ニアリテ殺菌前「チフス」菌ノ撲滅力ヲ有セシアル成分ハ殺菌作用（蒸氣ヲ流シテ熱灼スル）ノ爲メ破壊セラレルナリ

(I) (勿論、浮游物質ニ圍マレタル「チフス」菌ハ比較的長時間水中ニ殘存ス、サレト「コレラ」ノ原子ニハ又原蟲ノ附着セルアリテ圍ヲ脱セシ細菌ヲ凡テ食ヒ盡スナリ、余ハ他ノ研究ヨリ一或ハ二三ノ「チフス」菌ハ水ニ稀釋シテ「ホメヲバチー」的トナシ此レヲ飲ミ込ムモ傳染力ナキヲ知レリ而シテ斯クスレハ如何ナル傳染病モ發生シ得サルハ確カナリ)

サテ井水或ハ河水中ニ散布セラレタル非常ニ多數ノ「チフス」菌ハ何ニヨリテ撲滅セラレルカ、コレ諸君ノ聞ントスル所ナルヘシ、天然水中ニ人類ノ病源トナル細菌ノ蔓延スルヲ防キ飲料水傳染病ノ發生ヲ不可能ナラシムル不思議ナル作用ノ原因ハ何者ナルカ

現今ノ科學ハ此ノ疑問ニ對シテ全然誤レル解答ヲ下サス、細菌學者ハ主張シテ曰ク一立方「センチメートル」ノ水中ニ幾百萬トナク生存スル「チフス」菌カ廿四時間以内ニ撲滅セラレルハ通常ノ水中「バクテリア」ト「チフス」菌トノ競争ノ結果常ニ前者カ勝利者タルヲ以テナリト

コハ正シカラス、例ヘハマングフアル水ノ如キ一立方「センチメートル」中僅カニ四乃至十ノ芽胞ヲ含メル純水ヲ芽胞ノナクナルマテ放置スルモ其ノ水ハ同シク廿四時間以内ニ一立方「センチメートル」中十萬ヲ算スル「チフス」菌ヲ撲滅スルヲ以テナリ、サレハ「チフス」菌カ斯ク短時間ノ内ニ滅亡スルハ水中「バクテリア」ニ因ルニアラス、然ルニ通常ノ水中「バクテリア」ノ生存セサルマングフアル水ヲ顯微鏡下ニ窺カヘハ二種ノ鞭毛滴蟲「ボド、ザルタンズ」及ヒ「ボド、オヴーツス」以外ニ生活セル有機物ハ一ツモ存セサル事ハ余ノ上述セシ所ナリ、コノ二種ノ鞭毛滴蟲ハ非常ニ活潑ニ水中ヲ泳キマワリテ「チフス」菌ヲ捕ヘ食ヒ之レヲ消化スルモノナルヲ余ハドクトル、ゲミュート氏ト共ニ確メタリ

「チフス」菌ヲ移シ入レタルマングフアル水中ヨリ得タルコレラノ鞭毛滴蟲ハ「チフス」菌ヲ飽食シ居タリキ、何レモ數匹ヲ食ヒ、五、六、七、八、十、廿、猶ホ夫レ以上ノモノモアリキ而シテ「チフス」菌ハ鞭

毛滴蟲ノ體內ニテ溶解セルヲ明カニ觀察シ得タリ、中ニハ多少「チフス」菌ノ形ヲ存セルモノ、又僅カニ核ノ殘餘、及ヒ頽敗物ヲ殘セルモノアルヲ見タリ、コレニヨリテ見レハ「チフス」菌ハ鞭毛滴蟲ノ體內ニテ溶解即チ消化セララルモノナリ(附圖第一圖及ヒ第二圖參照)

(II) (鞭毛滴蟲ヲ多數ニ得ントスルニハ「チフス」菌ヲ水中ニ移シ入ル可シ(水百立方「センチメートル」ニ付キ寒天培養ノモノヲ小白金耳ニ一ツノ割合)二三日後遠心機ニカケ一度殺菌シテ後「チフス」菌ヲ移シタル水中ニハ分割播種ニヨリ異種類ノ純粹培養ヲ試ミルヘシ)

自然ハ最モ簡單ナレトモ最モ美シキ、歎賞ス可キ有機物ノ一ツナルコノ鞭毛滴蟲ニヨリテ凡テノ水中ニ病的細菌ノ蔓延スルヲ防止スルナリ、然モコノ防衛法タルヤ獨逸官醫ノ給水場監視ニ比スレハ無限ニ有効ニシテ且ツ確實ナルモノナリ

巴里ノメチュニコッフ教授ハ既ニ三十年以上モ前ニ人類及ヒ動物ノ血液竝ニソノ全有機體中ニモ亦コレト全ク類似シタル作用アリテ病的細菌ニヨル傳染ヲ防衛スル事ヲ證明セリ、氏ハ白血球(食蟲細胞)カ血液中ニ入り込ミシ病的細菌ヲ捕ヘテ消化スル様ハ水中ノ食蟲細胞即チ鞭毛滴蟲カ水中ニ入り來リシ病的細菌ヲトラヘテ消化スルト全ク同一ナル事ヲ示セリ

諸君若シメチュニコッフ氏ノ描ケル病的細菌ヲ飽食セル血液中ノ食蟲細胞(白血球)ヲ示シタル附圖ヲ參照セハ形狀ト類似作用ノ異同ハ一見シテ明瞭ナルヘシ

然ルニ飲料水論者ハ之レヲ聞クヤ直チニ説イテ曰ク

血液中ノ食蟲細胞ハ多數ナルニ拘ラス血液循環系ニ病的細菌漲溢シ爲メニ致命的疾病ヲ惹起スル事甚タ屢々ナルト全ク同シク多クノ病的細菌ニシテソノ追跡者即チ鞭毛滴蟲ノ手ヲ逃カレテ傳染作用ヲナシ得ル以上コノ相似タル現象コン却ツテ飲料水ニ因ル流行病ノ發生ハ自然ノ處置ニヨリテ防止スヘカラサル事ヲ證明スルモノナリト

サテ諸君斯クノ如キ比較ハ愚モ亦甚タシキ事ニシテカカル異論ノ反駁ハ易々タリ

人類及ヒ動物體內ニ於ケル病的細菌ノ増殖ハ血液中ニテ短時間ニ一芽胞ヨリ數百萬ノ細菌ヲ生スル程急激ナル爲メ血液中ノ食蟲細胞ノ數ハ之レヲ全部撲滅スルニ足ラサルナリ、之レ此ノ反對論ヲ取ルニ足ラストナス主ナル理由ナリ

然レトモ水中ニテハ之レト全ク反對ノ現象ヲ見ル、即チ水中ニテハ鞭毛滴蟲及ヒ滴蟲類ハ絶エズ増殖スルニ反シ病的細菌ハ増殖力ナキナリ

一井戸ノ全水量中ニハ鞭毛滴蟲カ撲滅スル「チフス」菌ノ數ヲ計算スルニ豫想外ニ大ナルモノニシテ實ニ法外ノ數ナリ

ミュンヘン市ノ衛生學研究所ノ井水一立方「センチメートル」ハ廿四時間内ニ二一四一四二八六ノ「チフス」菌ヲ撲滅スル事ハ既ニ述ヘタリ

此レニ依リテ見レハコノ水一立方中ノ鞭毛滴蟲ハ廿四時間内ニ二一四一四二八六〇〇〇「チフス」菌ヲ撲滅ス

百立方以下ノ水量ノ井戸ハ稀ナリ、コノ僅カ百立方ノ最低量ヲ以テ算スルモ、コノ井戸ノ全水量ニテ廿四時間内ニ二一四一四二八六〇〇〇〇ノ「チフス」菌ヲ撲滅シ得ルナリ

實際ニハ極メテ稀ナル事ナルカ一立方「センチメートル」ノ「チフス」便通中ニ「チフス」菌一〇〇〇〇〇〇〇アリトスレハ一回ノ「チフス」便通ノ全量ヲ二立方「センチメートル」トシテソノ中ニ「チフス」菌二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇アリ、千ノ「チフス」便通ハ二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇ノ「チフス」菌ヲ含ム故ニ井水全量ニテ廿四時間内ニ撲滅シ得ルヨリ少數ナリ

驚ク勿レ、依之觀是日々一千ノ「チフス」便通ヲ衛生學研究所ノ井戸中ニ投入スルモ差支ナシ、水中ノ「チフス」菌ハ翌日マテニハ全部消滅スルナル可シ

實際カカル數ヲ見ナカラ猶ホ「チフス」病ハ飲料水ニ起因スルヲ信スルモノハ、盲目ナル飲料水狂信者ト言ハサル可カラス

然レトモ何人ニテモ自カラ計算シテ考ヘナハ、ヨシ如何ニ執拗ナル飲料水論者ト雖モ、此等ノ事實ヲ見テ必スヤ井水ニヨル「チフス」病ノ發生不可能ナルヲ告白スヘシ

一般ニ井戸ハ不純ナレハ不純ナル丈ケ、即チ原蟲ヲ含ム事多ケレハ多イ丈ケ「チフス」菌ノ撲滅サルル數

モ多シ(1)

(1)小ナル町ニハ鄉村ノ井戸ハ多クハ原蟲ヲ含ム事甚タ多キヲ以テ「チフス」病ノ發生ニシテ市衛生學研究所ノ井水ト同シク「チフス」菌撲滅ニ大ナル効力アルナリ

全ク純粹ナル水ノ殺菌力ハコレニ比シテ僅少ナリ、サレト清淨ナル土壤ニ源ヲ發スルマンダラ水道スラ廿四時間ニ一立方「センチメートル」ニ付キ少ナクモ二〇〇〇〇ノ「チフス」菌ヲ撲滅スルヲ以テ此水百立方ヲ滿タス井戸ハ兎ニ角一日中ニ「チフス」患者ノ一便通中ニ含マルル「チフス」菌ヲ撲滅スヘシ、撲滅力之レ以下ノ井戸ハ少ナシ、故ニ吾人ハ飲料水ニヨル「チフス」病ノ發生ハ全然不可能ナリト斷言スルヲ憚ラス

鞭毛滴蟲ハ源ヲ去ル三百メートルニ足ラサルアラユル自然水中ニ生存ス、余ハ山中及ヒ森林中ノ泉ニモ發見セリ、清淨ナル地ヨリ涌キ出テ潺々トシテ森泉ヲ流ルル泉、氷河ヲ後ニシテ怒號シツツ懸崖ヲ直下スル連山ノ小川、井戸、川、湖水等一ツトシテ、傳染病原タル細菌ノ蔓延ヲ防衛スヘキ衛生學上ノ守衛兵即チ鞭毛滴蟲ノ多數ニ存在セサルハナシ

欽仰ノ念ヲ以テ、コノ無窮ナル空間ヲ電光ノ如ク去來スル幾億幾兆ト數限リナキ星辰、太陽及ヒ世界ノ遠大ナル目的ニ對セシ吾人ハ、コノ無數ノ極メテ小ナル生物、即チ原蟲、滴蟲類等ノ崇高ナル人類ノ平安ニサヘ斯ク迄ノ意味アル司令ヲ知ルニ及ンテ更ラニ驚歎ノ叫ヒヲ發セスンハアル可カラス

余ハ「コレヲ免疫」ニヨリテ以前ヨリ傳染病土地論者ノ仰キ見ルステツツガルト市ニテ、始メテ、コノ研

究ヲ發表スルヲ喜フモノナリ、余トドクトル、ゲミュート氏ノ共同ノ仕事ナルステツガルトノ「コレラ」免疫性ノ原因ニ關スル新シキ研究ニヨリ土地論者ノ欽仰ノ地ハ不落ノ堅壘トナレリ、塔ノ頂ニハ「飲料水論ヲ打破セヨ」トノ銘アル眞理ノ旗ハ翻トシテ風ニ翻ルナリ、實ハ飲料水論ノ到底維持スヘカラサル事ヲ證明シ得タル曉ハ大ナル祝福ノ日ナルヘク萬人ノ幸來ルノ日ナル可シ、好狡ナル敵ト戦ヒツツ、悪性ナル傳染病「チフス」ノ爲メニ倒レシ西アフリカノ雄々シキ同胞ヲ憶ヘ、飲料水ハ原因ナリトノ誤レル考ヲ信シコノ地ニテモ、傳染病土地論者ノ希望スルコノ有効ナル唯一ノ方策ヲ實施スル事ヲナサス、斯クテ災禍ニ亞クニ災禍ヲ以テスルナリ

余ノ論セシコノ問題ハ諸君即チ化學者特ニ食物化學者ニ多大ノ關係ナルモノナリ、即チ「チフス」及ヒ「コレラ」病カ眞ニ飲料水ニ起因スルモノニアラストセハ醫師及ヒ衛生學者ハ將來水ノ細菌學的検査ヲ獨專シテ其ノ實施及ヒ鑑定ヲ獨リ己レノモノトナスノ權利ナシ、斯クナレハ水ハ將來單ニ人類ノ一食料品又ハ飲料トシテ其ノ純粹ナルヲ検査スヘシ、而シテコレニ必要ナル土地ノ視察、化學的細菌學的、竝ニ顯微鏡的検査ハ、醫師及ヒ衛生學者ト同シク、淡水ノ動植物及ヒ細菌學ヲ研究セル化學者ノ手ニヨリテモ行ハルルナリ、唯極メテ稀ナル場合、即チ鉛、昇汞ソノ他ノ如キ眞ノ毒物カ水中ニ檢出セラルル場合ニハ衛生學者ノ力ニ待タサル可カラス、但シ其ノ存在カ健康上有害ナル事明カニシテ殆ト疑フ可カラサル場合ハ此ノ限リニアラス

佛國公共衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律

第一編 一般衛生

第一章 一般衛生上ノ措置

第一條 市町村長ハ衛生上市町村會ノ意見ヲ徵シ衛生規則ニ關スル市町村長ノ命令ヲ以テ左ニ掲クル事項ヲ規定スルコトヲ要ス

第一 千八百八十四年四月五日ノ法律第九十七條ヲ施行シ以テ本法第四條ニ規定セル傳染病ヲ豫防若クハ撲滅セシメンカ爲メ殊ニ消毒法若クハ患者ノ使用ニ供シタル物品又ハ汚物及ヒ概シテ惡疫傳染ノ媒介物ノ消毒若クハ破毀ヲ爲ス事

第二 居宅、其附屬物、其極端ニ於ケル圍障ノ存否ヲ問ハス總テ私道、造作附貸室及ヒ其性質ノ如何ヲ問ハス總テ人類ノ聚合セル場所ノ保健就中飲用水ノ供給若クハ汚水ノ排泄ニ關スル命令

第二條 市町村ノ衛生規則ハ千八百八十四年四月三日ノ法律第九十九條ニ由リテ知事ニ附與シタル權利ト相抵觸スルモノニ非ス

衛生ニ關スル市町村長ノ規定ハ縣衛生會議ノ意見ニ徵シテ知事之ヲ認メス本法頒布後一箇年ノ期間内ニ市町村カ衛生上ノ規定ヲ爲サ、ル時ハ知事ハ職權ヲ以テ縣衛生會議ノ意見ヲ徵シ命令ニ由リテ之ヲ命

數多ノ市町村カ千八百九十年三月二十二日ノ法律ニ由リ衛生上ノ措置實行ノ爲メ其結合ノ意思ヲ表示シタル場合ニ於テ此ノ數多ノ市町村ハ本法ニ規定セル形式ニ由リテ其ノ適用ヲ命セラレタル同一ノ規定ヲ採用スルコトヲ得

第三條 知事ハ緊急ノ場合即チ傳染病ノ流行若クハ自餘衛生上重大ナル危險ニ際シ總テ其留保セル權利、本法第一條ニ規定セル衛生上ノ規定ニ基ケル措置ノ即時施行ヲ命スルコトヲ得其緊急ノ事項ハ市町村長之ヲ決定シ市町村長ナキ時ハ知事之ヲ決定ス然シテ此決定ハ其市町村住民ノ一人若クハ數人又ハ全員ニ對シテ之ヲ適用ス

第四條 本法ノ規定ヲ適用スヘキ病名ハ本法頒布後六箇月内ニ醫師會及ヒ佛國衛生諮問會議ノ意見ヲ徵シ内務大臣ノ報告ニ基キテ發シタル共和大統領令ヲ以テ之ヲ定ム千九百七年四月五日ノ大統領令參照

第五條 醫師、衛生吏員又ハ產婆ニシテ本法第四條ニ列舉シタル疾患ヲ發見シタル者ハ之ヲ當該公廳ニ届出ルコトヲ要ス其届出ノ方法ハ醫師會及ヒ佛國衛生諮問會議ノ意見ヲ徵シテ内務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 種痘ハ生後一年内ニ之ヲ行ヒ再種痘ハ十一歳及ヒ二十一歳ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス父母若クハ後見人ハ自ら此義務實行ノ責ヲ負フ

本法第一條ノ適用ニ必要ナル措置ハ醫師會及ヒ佛國衛生諮問會議ノ意見ヲ徵シ行政規則ヲ以テ之ヲ定ム
第七條 本法第四條ニ列舉セル疾患ハ總テ消毒ノ義務ヲ有ス消毒ノ方法ハ佛國衛生諮問會議ノ意見ヲ徵シテ内務大臣之ヲ認可ス

人口二萬以上ノ都會ニ於テハ知事ノ認可ヲ經タル市町村長ノ命令ニ由リ市町村廳ノ注意ニ由リ、二萬以下ノ市町村ニ於テハ縣廳ノ注意ニ由リテ其消毒ヲ行フ

千八百五十六年七月二十一日ノ法律及ヒ本法ノ規定ニ基キテ發シタル後來ノ大統領令及ヒ命令ハ之ヲ消毒ノ機具ニ適用ス

消毒用機具ノ有効上具備セサルヘカラサル條件ハ佛國衛生諮問會議ノ意見ヲ徵シテ發シタル行政規則ヲ以テ之ヲ定ム千九百十三年七月十六日ノ法律ヲ以テ此規定ヲ補足セリ

第八條 傳染病カ佛蘭西共和國ノ全部若クハ一部分ニ發生若クハ蔓延シタル場合ニ於テ其當該地方ノ防疫方法カ不十分ナリト認めラレタルトキハ佛國衛生諮問會議ノ意見ヲ徵シ大統領令ヲ以テ其豫防方法ヲ定ム

防疫方法實行ノ責ニ任セル公吏及ヒ公廳ノ權限、組織及ヒ管轄モ亦大統領令ヲ以テ之ヲ規定シ防疫方法ノ實行、其吏員及ヒ材料ノ經費ハ政府之ヲ負擔ス

防疫方法ノ適用ニ關スル大統領令及ヒ自餘行政文書ハ官報ニ登載後二十四時間ヲ經テ執行力ヲ生ス

第九條 三年間繼續シテ一市町村ニ於ケル死亡數カ全國ノ平均死亡率ヲ超過シタル場合ニ於テ知事ハ縣衛生會議ニ對シ會議自體又ハ其管轄區域内ノ衛生委員會ニ山リテ其市町村ノ衛生狀態ヲ調査セシムルコトヲ要ス

調査ノ結果其市町村ノ衛生狀態カ清潔工事就中良質若クハ多量ノ飲用水ノ缺乏若クハ汚水ノ停滯ヲ發見シタル場合ニ於テ知事ハ其市町村ヲ遲滯ニ附シ其効果ナキトキハ縣衛生會議ニ對シテ必要ヲ認メタル工事ノ議決ヲ命シ市町村長ヲシテ其意見ヲ縣衛生會議ニ提出セシム

縣衛生會議ノ意見カ工事施行若クハ市町村ノ要求ニ反對セル場合ニ於テ知事ハ縣衛生會議ノ議決ヲ內務大臣ニ移送シ內務大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ之ヲ佛國衛生諮問會議ニ附議シ佛國衛生諮問會議ハ其調査後其結果ヲ其市町村内ニ揭示ス

知事ハ縣衛生會議及ヒ佛國衛生諮問會議ノ意見ニ基キテ防疫工事設計案ノ調製及ヒ施行ヲ命シ爾後三箇月内ニ市町村會カ之ヲ實行セサルカ又ハ三箇月内ニ工事施行ノ爲メ何等ノ手段ヲ執ラサルトキハ參事院ノ諮詢ヲ經タル大統領令ヲ以テ其工事ノ施行ヲ命ス其施行ノ條件ハ亦大統領令ヲ以テ之ヲ定ム其經費ハ法律ニ由ルニ非サレハ之ヲ其市町村ノ負擔ト爲スコトヲ得ス

縣會ハ千八百七十一年八月十日ノ法律第四十六條ニ規定セル條件ニ由リテ上掲工事ノ經費ニ對スル縣ノ分擔ヲ定ム

第十條 市町村住民ノ共用ノ爲メ水源ノ占領ヲ公益ト宣言スル命令ヲ以テ同時ニ完全ナル所有權ヲ以テ取得スヘキ地域即チ其水源ノ汚濁ニ對スル保護圈ヲ劃定シ其圈内ニ包含セラレタル地域内ニ糞便ヲ投棄シ且ツ知事ノ許可アルニ非サレハ鑽井ヲ掘鑿スルコトヲ得ス其地域ノ所有者ニ對スル賠償ハ完全ナル所有權ヲ以テ取得セル土地ニ關スル場合ノ如ク公用徵收ニ關スル千八百四十一年五月三日ノ法律ニ規定セル手續ニ因リテ之ヲ定ム

此規定ハ之ヲ鑽井若クハ地下ノ水脈ニ由リテ飲用水ヲ供給スル隧道ニ適用ス

飲用水ノ泉源使用權ハ其所有市町村ノ爲メ其浚渫被蓋及ヒ總テ汚濁ノ原因ニ對シテ之ヲ保護スルノ權利ヲ含ム但シ樋管若クハ溝渠ニ因リテ其水流ノ迂回スルノ權利ヲ有セス水源ノ使用權ハ行使ノ條件ハ行政規則ヲ以テ之ヲ定ム

水源所在市町村カ其水源ノ一部分ヲ取得セント欲スル場合ニ於テ其水量カ一秒二リートルヲ超過セサルトキハ知事ノ決定ニ因リテ之ヲ公益ト宣言スルコトヲ得

此決定ハ市町村會ノ請求ニ基キ縣衛生會議ノ意見ヲ徵シテ之ヲ發シ先ツ千八百三十五年八月二十三日ノ勅令ニ規定セル調査ヲ行フコトヲ要ス公用徵收ノ賠償額ハ千八百三十六年五月二十一日ノ法律第十六條ニ規定セル手續ニ因リテ之ヲ定ム

第十一條 人口二萬以上ノ市町村ニ於ケル住宅ハ本法第一條ニ規定セル衛生規則ニ規定セル衛生上ノ條件ノ具備セルコトヲ其提出セル設計案中ニ證明セル市町村長ノ許可アルニ非サレハ之ヲ建造スルコトヲ得ス

建造許可ノ願書ヲ市町村廳ニ提出セルトキハ市町村廳ハ之ニ對シテ領收書ヲ交附ス其提出後二十日ノ期間内ニ市町村長カ之ヲ決定セサルトキハ其工事ノ着手ヲ許可シタル者ト看做ス
知事ハ市町村長カ其許可ヲ爲サ、ル場合ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

其出願ヲ爲サ、ルカ又ハ衛生規則ノ規定ヲ遵守セサルトキハ其調書ヲ作り衛生規則ノ規定不履行ノ場合ニ於テハ次條ノ規定ニ由リテ之ヲ處分ス

第十二條 公路ニ沿ヘルト否トヲ問ハス且ツ建物ノ存スルト否トヲ論セス總テ不動産カ其占有若クハ隣人ノ健康上之ヲ危險ト認メタル場合ニ於テ市町村長若クハ市町村長ナキトキハ知事ハ本法第二十條ニ規定セル衛生委員會ニ對シテ左ノ事項ニ關シテ其意見ヲ具申スヘキコトヲ命ス

第一 工事ノ有益及ヒ性質

第二 健全ノ狀態除去ニ至ル迄其不動産ノ全部若クハ一部分居住ノ禁止市町村長ノ報告書ハ之ヲ市町村廳ニ備付ケ關係者ノ縦覽ニ供ス

所有者、用益權者若クハ使用權者ハ十五日以前ニ市町村長ノ注意ニ由リ書留郵便ヲ以テ衛生委員會開會

ノ通知ヲ受ケ此期間ニ自己ノ意見ヲ提出スルコトヲ要ス

所有者、用益權者若クハ使用權者ハ自己ノ請求ニ由リ自身若クハ代人ニ由リテ衛生委員會ノ訊問ニ應シ現場ニ於ケル臨檢證明ヲ爲スコトヲ要ス

市町村長ノ提案ニ對シテ反對ノ意見ヲ有スルトキハ其意見ヲ知事ニ移送シ知事ハ之ヲ縣衛生會議ニ附議ス知事ハ十五日以前ニ書留郵便ニ由リ縣衛生會議ノ開會ヲ關係者ニ通知シ之ヲシテ此期間内ニ其意見ヲ提出セシム關係者ハ縣廳ニ提出セル衛生委員會ノ意見ノ通知ヲ受ケ自身若クハ代人ニ由リテ會議ニ出席シ現場ニ於ケル臨檢證明ヲ爲スコトヲ要ス

工事ノ施行期間若クハ其不動産カ全部若クハ一部居住ヲ禁止セラルヘキ期間ハ衛生委員會若クハ衛生會議ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム此期間ハ本法第十三條ニ規定セル關係者ノ上訴期間滿了ノ日若クハ上訴ニ對スル確定裁決通知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

衛生委員會ノ意見ニ對シ市町村長カ異議ヲ有セサルカ又ハ知事カ縣衛生會議ノ意見ヲ通知シタルノ後市町村長カ之ニ對シ異議ヲ有スルトキハ市町村長ハ必要ナル工事ヲ命スルカ若クハ其居住ヲ禁スル決定ヲ爲シ所有者ニ對シテ指定ノ期限内ニ其實行ヲ命ス

居住禁止ノ決定ハ知事ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第十三條 關係者ハ知事ノ決定ニ對シテ決定ノ通知後一箇月ノ期間内ニ縣參事會ニ上訴スルコトヲ得此上

訴ハ停止の者トス

九四

第十四條 市町村長ノ決定ニ對シテ上訴ヲ爲サ、ルカ又ハ決定カ保持セラレタル場合ニ於テ指定ノ期間内ニ必要ナル工事ヲ施行セサル關係者ハ違警罪裁判所ニ召喚セラレ違警罪裁判所ハ市町村長ニ對シ關係者ノ費用負擔ヲ以テ職權ニ由リ其工事ヲ施行セシムルコトヲ許可ス此場合ニ於テハ刑法第四百七十一條第十五項ヲ適用ス

居住禁止ノ場合ニ於テ上訴ノ提起ナキトキハ關係者ニ對シテ十六法以上五百法以下ノ罰金ヲ科シ輕罪裁判所ニ之ヲ召喚シ市町村長ニ對シ關係者ノ費用負擔ヲ以テ其不動産ノ占有者ヲ放逐セシムルコトヲ許可ス

第十五條 工事ノ施行ニ基因セル失費ハ不動産ノ收入ニ對スル先取特權ニ由リテ之ヲ擔保シ其先取特權ハ民法第二百一一條及ヒ第二百三條ニ列舉セル先取特權ノ後ニ其順位ヲ有ス

第十六條 本法ノ規定ニ基キ清潔法實行ノ爲メ設ケタル開口ハ工事竣成後五年間繼續シテ窓戶稅ヲ免ス

第十七條 本法施行ノ結果貸借契約ノ解除ノ生スルトキハ之カ爲メ賃借人ニ對シテ損害賠償ヲ生スルコトナシ

第十八條 不健全ノ事實カ外來的且永久的原因ニ基ケルカ又其原因カ全部ノ工事ニ由ルニ非サレハ除去セラレサル場合ニ於テ其ノ市町村ハ千八百四十一年五月三日ノ法律ニ規定セル手續及ヒ形式ニ由リテ其工

事施行ノ區域内ニ包含セラレタル土地ノ全部ヲ取得スルコトヲ得

清潔法施行後建物新築ノ爲メ決定セル路線外ニ存スヘキ地域ノ部分ハ之ヲ公賣ニ附スルコトヲ得但舊所有者若クハ其承繼人ハ其殘存部分カ健全ナル建物ヲ築造スルコトヲ得ヘキ面積若クハ形狀ヲ有セサル場合ニ於テ千八百四十一年五月三日ノ法律第六十條及ヒ第六十一條ノ適用ヲ求ムルコトヲ得ス

第二編 衛生機關

第十九條 知事カ本法ノ施行ヲ確保センカ爲メ監督機關ヲ設定スヘキ者ト認ムルトキハ其細別及ヒ豫算ヲ規定スヘキ縣會ノ議決ニ由ルニ非レハ之ヲ行フコトヲ得ス

人口二萬以上ノ都市及ヒ人口二千以上ヲ有スル温泉場所在町村ニ於テハ衛生課ノ名稱ヲ以テ市町村長監督ノ下ニ本法ノ規定適用ノ任ニ當ルヘキ市町村ノ一機關ヲ設ク

第二十條 各縣ヲ通シ其縣會ハ縣衛生會議ノ意見ヲ徵シ千八百七十一年八月十日ノ法律第四十八條第五項ニ規定セル條件ニ從ヒ縣衛生課ノ組織就中各々衛生委員會ノ設アル衛生區ニ於ケル縣ノ部分、縣衛生會議及ヒ衛生委員會ノ組織、活動方法、事業ノ公示及ヒ經費ヲ議決ス

縣會ノ議決ナキトキハ行政規則ノ形式ヲ有スル命令ヲ以テ之ヲ定ム

縣衛生會議ハ十名以上十五名以下ノ議員ヲ以テ之ヲ組織シ互選縣會議員二名醫師三名其中一名陸軍々醫若クハ海軍々醫、藥劑師一名土木技監一名建築技師一名及ヒ獸醫一名ヲ以テ之ヲ組織ス

九五

知事ハ議長席ニ着キ議員中ヨリ任期二年ノ副議長一名及ヒ議事録ヲ調製スヘキ官吏一名ヲ任命ス
各衛生區ノ衛生委員會ハ其ノ衛生區ニ於ケル五名以上七名以下ノ議員ヲ以テ之レヲ組織シ互選縣會議
員一名醫師一名建築技師一名若クハ自餘技術家一名及ヒ獸醫一名ヲ以テ之レヲ組織ス千九百六年一月二十九日ノ法律ヲ以テ改正
郡長ハ衛生委員會ノ議長ト爲リ其中ヨリ任期二年ノ副議長一名及ヒ議事録調製ノ任ニ當ルヘキ幹事一名
ヲ任命ス

衛生會議及ヒ衛生委員會議員ハ互選縣會議員ヲ除キ任期四年ニシテ知事之ヲ任命シ二年毎ニ半數ヲ改選
退職シ議員ハ再選セラル、コトヲ得

縣衛生會議及ヒ衛生委員會ハ議員總數三分ノ一以上ノ出席アルニ非レハ本法ノ規則ニ由リ附議セラレタ
ル事項ニ關シテ議決ヲ爲スコトヲ得ス必要ト認メタル場合ニ於テ訓令ヲ發スルコトヲ得

第二十一條 縣衛生會議及ヒ衛生委員會ハ千八百四十八年十二月十八日ノ命令第九條ニ列舉セル飲用水ノ
供給、人口統計及ヒ醫學地理、市町村衛生規則及ヒ概シテ各衛生區ノ範圍内ニ於ケル衛生上ノ問題ニ關
シテ諮問ヲ受ク

第二十二條 第二十三條及第二十四條千九百三年四月七日ノ法律ヲ以テ改正

第二十五條千九百八年十一月二十五日ノ法律ヲ以テ改正

第三編 經費

第二十六條 本法ノ規定ニ由リテ必要ト爲レル經費殊ニ有體動産ノ破毀ニ基因セル經費ハ義務的ノ者トス
其必要ニ關シテ爭ノ生シタルトキハ參事院ノ諮問ヲ經タル命令ヲ以テ之ヲ裁決ス

此經費ハ千八百九十三年七月十五日ノ法律第二十七條第二十八條及ヒ第二十九條ノ規定ニ由リテ市町
村、縣及ヒ政府間ニ之ヲ分擔ス千九百六年六月二十二日ノ法律ヲ以テ補正

然レトモ人口二萬以上ノ都市ニ於ケル消毒費ハ千八百九十三年七月十五日ノ法律附錄甲號表ニ規定セル
比例ヲ以テ都市及ヒ政府之ヲ分擔シ縣ノ消毒費ハ附錄乙號表ニ規定セル比例ヲ以テ縣及ヒ政府之ヲ分擔
ス

都市及ヒ縣カ消毒所及ヒ衛生課ヲ組織シテ本法施行後一年内ニ其活動ヲ確保セサルトキハ行政規則ノ形
式ヲ有スル命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四編 罰則

第二十七條 千八百九十二年十一月三十日ノ法律第二十一條ニ列舉セル場合ノ外本法第一條第二條第五條

第六條第七條及ヒ第十四條ニ規定セル犯則者ハ之ヲ刑法第四百七十一條ニ規定セル刑ニ處ス

市町村長ノ許可ナク住宅ヲ變造シタル者ハ之ヲ十六法以上五百法以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 懈怠若クハ疎虞ニ由リテ飲用水ヲ接受若クハ導引スヘキ公設若クハ市町村有ノ工作物ヲ毀損
シタル者及ヒ懈怠若クハ疎虞ニ由リテ糞便若クハ其他健康上有害ナル物件ヲ水源、噴水、鑿井、貯水場、

水管、水道、公衆ノ引用ニ供スヘキ貯水池ニ投入シタル者ハ刑法第四百七十九條及ヒ第四百八十條ヲ以テ之ヲ論ス

獸屍、屠肉ノ殘滓、肥料、糞便及ヒ概シテ獸畜ノ腐敗性滓渣ヲ斷屑、洞屈、雨水溜若クハ法定ノ坑穴以外ニ投棄シタル者モ亦之ヲ同一ノ刑ニ處ス

故意ヲ以テ之ヲ行ヒタル者ハ之ヲ刑法第二百五十七條ニ規定セル刑ニ處ス

第二十九條 本法適用上市町村及ヒ衛生委員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ之ヲ一百法以上五百法以下ノ罰金ニ處シ其再犯ハ之ニ五百法以上一千法以下ノ罰金ヲ科ス

第三十條 刑法第四百六十三條ハ總テ之ヲ本法ニ規定セル場合ニ適用シ千八百二十二年三月三日ノ法律ニ由リ輕罪ヲ以テ論スヘキ犯行ニ對シテ亦之ヲ適用ス

第五編 雜 則

第二十一條 千八百五十年四月十三日ノ法律及ヒ本法ノ規定ニ牴觸セル從前ノ規定ハ之ヲ廢ス現在ノ縣衛生會議及ヒ郡衛生會議ハ本法ノ適用ニ由リテ組織セラルヘキ縣衛生會議及ヒ區衛生委員會ニ由リテ代換セラル、ニ至ルマテ存續ス

第三十二條 本法ハ之ヲ工場及ヒ製造場ニ適用セス

第三十三條 衛生課及ヒ消毒所ノ組織及ヒ活動條件其他アルヂユリー、マルチニツク、ガドループ及ヒレ

ユニオンノ各種民地ニ於ケル本法ノ適用條件ハ行政規則ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本法ハ頒布後一年ヲ經ルニ非サレハ執行力ヲ有セス

自治消毒所ノ設定上人口二萬以下ノ市町村ニ對スル例外的許可ニ關シ千九百二年二月十五日ノ法律第七條ヲ補正スル千九百十三年七月十六日ノ法律

單條 衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律第七條ハ左ノ如ク之ヲ補正ス

任意ニ衛生課ヲ設ケタル人口二萬以下ノ町村ハ高等衛生會議ノ意見ニ依リ内務大臣ヨリ自治消毒機關ノ設定上例外的許可ヲ受クルコトヲ得

佛國若クハアルヂユリーノ諸港ニ於ケル傳染病ノ豫防ニ關スル千九百七年四月五日ノ命令

第一條 船舶カ佛國若クハアルヂユリーニ入港ノ際其船内ニ熱病ノ存スルトキハ檢疫ヲ行フ其疾患カ千九百二年二月十五日ノ法律第四條ニ列舉セル傳染病ノ一ニ非サル事ヲ認メラル、マテ又ハ千九百二年二月十五日ノ法律第四條ニ列舉セル疾患ノ一ニ該當スルモ傳染ノ豫防上必要ナル措置ノ執行ヲ見ルニ至ルマテ其自由通航ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 檢疫上前條ニ規定セル傳染病ノ眞症若クハ疑似ナル事ヲ發見シタルトキハ一千八百九十六年一月四日ノ海上衛生警察規則ニ由リテ支配セラルヘキ「ペスト」性疾患ヲ除ク衛生官憲ハ旅客及ヒ乗組員其他船體ニ對シ殊ニ上記海上衛生警察規則第二條第五十四條及ヒ第六十九條ニ由リテ臨機ノ措置ヲ執ル

衛生官憲ハ又市町村廳ニ通知シ市町村廳ハ患者ノ運搬及ヒ隔離ヲ確保シ船舶以外ニ千九百二年二月十五日ノ法律ニ由リテ各々其任ニ當レル市町村若クハ縣ノ吏員ニ由リ本法若クハ地方ノ衛生規則ニ由リテ防疫上ノ措置ヲ行フ

第三條 佛國若クハアルヂエリーノ港内ニ碇泊セル船舶ハ其碇泊中海港檢疫所ノ監視ヲ受ク此監視ノ目的ハ船中ニ於ケル傳染病ノ發生ヲ知悉シテ其傳播ヲ豫防スルニ在リ

之カ爲メ船長ハ碇泊中其船内ニ熱病ノ發生セル場合ニ於テ即時之ヲ海港檢疫所ニ届出ツルコトヲ要ス海港檢疫所カ其届出ニ接シタルカ又ハ届出ナキモ如何ナル方法ヲ論セス船内ニ於ケル熱病ノ存在ヲ知悉シタルトキハ直ニ前諸條ニ規定セル條件ニ由リテ行動ス

第四條 船主ハ本令ノ規定ニ由レル措置ノ執行上海港檢疫所ノ指定セル條件ニ因リテ本令ニ規定セル措置ノ執行上協力スルコトヲ要ス

衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律第二十條及ヒ第二十五條ヲ改正スル千九百六年一月二十九日ノ法律

第一條 衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律第二編第二十條第五項ハ左ノ如ク之ヲ改正ス

區ノ衛生委員會ハ區内ヨリ任命セル五名以上九名以下ノ委員ヲ以テ之ヲ組織シ互選縣會議員一名醫師一名以上、藥劑師一名獸醫一名建築技師若クハ專門技術家一名ヲ以テ之ヲ形成スルコトヲ要ス

第二條 第二十五條ハ左ノ如ク之ヲ改正ス千九百八年十一月二十五日ノ法律ヲ以テ改正

衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律及ヒ千九百六年一月二十九日ノ法律第二十五條ヲ改正

スル千九百八年十一月二十五日ノ命令(佛國高等衛生會議ノ組織)

單條 千九百六年一月二十九日ノ法律ヲ以テ改正シタル衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律第二十五條ハ更ニ左ノ如ク之ヲ改正ス

第二十五條 佛國高等衛生會議ハ一切ノ衛生問題、醫師及ヒ藥劑師ノ營業、政府カ諮問セル鑛泉ノ汲取若クハ販賣ノ條件ヲ討議シ人口五千以上ヲ有スル都市ニ於ケル飲用水ノ清淨若クハ導引工事及ヒ危險若クハ不便ナル不健全建物ノ類別ニ關シテ必ス政府ノ諮詢ヲ受ク

佛國高等衛生會議ハ特ニ都市ノ給水上縣ノ境界外ニ於テ占領シタル水源ヲ監視ス

佛國高等衛生會議ノ職權ニ由レル議員ハ左ノ如シ

內務省賑恤衛生局長

內務省地方局長

內務省會計局長

內務省衛生參事官若干名

內務大臣指名內務省技監二名

外務省代表者一名
 商工務省代表者二名
 大藏省代表者一名
 文部省代表者一名
 工部省代表者一名
 勞働備荒省勞働局長
 農務省水利及ヒ農政改良局長
 農務省詐僞懲罰課長
 陸軍衛生會議々々長
 陸軍衛生局長
 海軍高等衛生會議々々長
 佛國地理局長
 巴黎醫科大學々々長
 巴黎高等藥劑學校々々長
 獸醫學校視學官長

巴黎、里昂、ボルドー、リール、ナンシイ、トゥールーズ、モンペリエ醫科大學衛生學教授及ヒ
 軍隊衛生實地學校衛生學及ヒ傳染病學教授
 巴黎商業會議所頭取
 巴黎市中央賑恤局長
 巴黎市賑恤監督會議副議長
 セーヌ縣衛生會議副議長
 巴黎市衛生總監
 巴黎市水勢及ヒ保健技術部長官
 警視廳衛生技監
 佛國高等衛生會議名譽議長
 內務省名譽衛生參事官
 學士院理學部、醫學部、參事院、大審院、佛國高等賑恤會議カ調製推薦セル一箇ノ三名連記名簿ニ
 基キテ主務大臣カ任命セル議員五名
 高等勞働會議カ調製推薦セル二箇ノ三名連記名簿ニ基キテ主務大臣カ任命セル議員二名中一名ハ職
 工他一名ハ工場主

主務大臣カ醫師、衛生學者、土木技師、化學者、法律家等ヨリ指名セル議員十五名佛國高等衛生會議ノ任務、議員補ノ任命及ヒ常設部ノ組織ヲ行政規則ヲ以テ之ヲ定ム

職權ヲ以テ佛國高等衛生會議ノ議員ト爲ルヘキモノ、組織カ各省ノ行政組織ニ關スル變更ニ因リテ其改正ヲ爲スノ必要アルトキハ行政規則ノ形式ニ由レル命令ヲ以テ之ヲ定ム

衛生ニ關スル千九百二年二月十五日ノ法律第二十六條ヲ改正スル千九百六年六月二十二日ノ法律單條 千九百二年二月十六日ノ法律第二十六條第二項ハ左ノ如ク之ヲ補正ス

此分擔ノ基本ヲ定メンカ爲メ豫メ各市町村ノ爲メ年度閉鎖ノ際知事ノ清算ニ基キテ算定セル歲出總額ニ對シ市町村ノ人口ニ比例セル負擔額ヲ定ム但衛生課ノ經費ハ此限ニ在ラス
此清算中ニ含入セサル經費ハ縣ノ負擔トス

○血清等販賣取締規則

一千九百十二年三月廿八日

華盛頓府 大 藏 省

公衆衛生及海軍病院課

軍醫總監 リューバート、マリウ

在華盛頓府

日本大使館

尾崎 洵 盛殿

拜啓陳者貴君昨日當課へ御光來ノ節血清及血清ト類似セル製品ノ輸入ニ關スル法律及規則ヲ御報道可申上様御依頼相成リ候ニ付本日御報道申上候乃チ血清等輸入ニ關スル法律規則ナルモノハ一千九百二年七月一日國會ニ於テ制定セラレタルモノニ有之候今マ此法律規則ノ趣意ニ從ヘハ或ル生活毒、血清、毒素、若クハ此等ノ物品ト類似セル者ヲ米國ニ輸入シテ人ノ疾病ヲ治療シ或ハ豫防スルノ目的ヲ以テ之ヲ販賣シ若クハ交易セント欲スル場合ニハ大藏省ヨリ下付シタル認可證ヲ有スル作業場ニ於テ製造シタルモノナランコトヲ要ス然ラサルモノハ犯罪者トシテ夫々處分セララルヘキモノニ有之候

此法律ニ基キテ編成セラレタル規則アリ今概要ヲ舉レハ左ノ如シ曰ク血清等ヲ製造シ得ヘキ認可證ヲ與ヘ

ラル、ハ製造所ノ視察官タルモノカ此等ノ物品ノ適否ヲ試験シタル後ニ限ラル、モノトス而シテ此等ノ製造所ノ視察ノ任ニ當ルモノハ公衆衛生及海軍病院課ノ役員是レナリ又タ斯ル物品ヲ製造セント欲スルモノハ之カ認可證下付願ヲ大藏省ヘ差シ出サンコトヲ要ス

生活毒、血清、毒素等販賣ニ關スル法律及規則ヲ記載セル一書ハ別ニ差シ上ケ申候

尙ホ此外本件ニ關シテ御承知相成度事有之候ハ、御遠慮ナク仰セ越サレ度左スレハ早速取り調ヘテ御回報申上候 敬白

海 關 稅

一千九百二年七月一日ノ議定ニ基ケル生活毒、血清等ノ輸入ニ關スル件

今期開催亞米利加合衆國々會上下兩院ノ議決ヲ經テ左ノ如キ條例ヲ制定ス、曰ク本條例第四章ニ基キテ定メラレタル規則ノ發布ヨリ起算シテ六ヶ月以後ハ何人ト雖モ左ノ如キ行爲アル者ハ犯罪者トシテ處分セラルヘキモノトス、曰ク人ノ疾病ヲ治療シ若クハ豫防スルニ適セル或ル生活毒、治療的血清、毒素、抗毒素若クハ斯ル物品ヲ或ル外國ヨリ合衆國ヘ輸入シテ販賣シ若クハ交易セント欲スルモノハ、必ラス規定ノ手續ニ從ハサルヘカラス、否ラスンハ犯罪者トシテ處分セラルヘキモノトス、所謂ル規定ノ手續トハ何ンヤ大藏省ヨリ下付セラルタル認可證(一時停止セラル、カ若クハ取り消サレタルモノハ無効トス)ヲ有スル製造所ニ於テ製造サレタルコトヲ證明スルコト是レナリ、又斯ル生活毒、血清、毒素、抗毒素、若クハ斯ル

物品ト類似セル物品ノ各荷造ノ表面ニ其内容物品ノ適當ナル名ヲ明記シ、且ツ其製造者ノ姓名住所及認可證ノ番號、其物品ノ有効期間等ヲモ明カニ記シ置カンコトヲ要ス、否ラスンハ犯罪者トシテ處分セラルヘキモノトス

右ハ一千九百二年七月一日ノ制定ニ係ルモノナリ

規 則

一、認可ヲ得タル製造所ニ於テ製造サレタル生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品カ外國ヨリ輸入サレタル場合ニ於テハ、此等ノ物品ヲ搭載シタル船舶ノ來着セル港ニ於ル稅關ノ官吏カ夫々手續ニ從ツテ之ヲ検査セシメンコトヲ要ス、即チ其検査ノ任ニ當ルモノハ公衆衛生及海軍病院課ノ官吏ニシテ、此等ノ物品ノ純良且ツ有効ナルヤ否ヤヲ検査シ、又タ本條例第一章ニ規定サレタル通り此等ノ物品ノ荷造リノ外面ニ適當ニ表記シアルヤ否ナヲ視察スルカ如キコト是レナリ

二、生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品カ外國ヨリ輸入サレタル時ハ、稅關ノ收稅吏ハ其内ヨリ見本ヲ取りテ之ニ其製造所ノ認可證番號等ヲ添ヘテ、検査ニ付セシメンカ爲メニ華盛頓ナル公衆衛生及海軍病院課ノ軍醫總監ノ手許ヘ回送センコトヲ要ス

三、外國ヨリ輸入シタル生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ニシテ、停止サレス且ツ取り消サレサル認可證ヲ有スル製造所ニ於テ製造サレタルモノニアラサルカ、若クハ其認可證ヲ受クルニ先ンシテ適

當ナル試験ヲ經タルモノニアラストセンカ、斯ル場合ニ於テハ税關ノ徵收吏タランモノハ其輸入ヲ禁止
センコトヲ要ス、且ツ税關ノ收稅吏及其他ノ役員ハ適當ニ認可證ヲ下付サレタル製造所ニ就テ時々注意
助言ヲ與フヘキモノトス

四、生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品トハ左記ノ如キ藥劑及時々大藏大臣ヨリ指定セラレ、調劑
ヲ含有セルモノト知ルヘシ

實布埜利亞血清

破傷風血清

連鎖球菌血清

痲菌血清

肺炎菌血清

赤痢血清

結核血清

「ベスト」血清

連鎖球菌並肺炎菌血清

腦膜炎球菌血清

「ツベルクリン」

結膜菌乳劑

乳酸菌液

室布斯血清

細菌性豫防液

健康馬血清

豫防劑(生活毒ニテ製シタル)

一千九百十二年七月一日制定ノ生活毒、血清等輸入ニ關スル條例ニ就テ尙ホ十分ニ知ラント欲セハ、合衆國
法律書大卷第三十二卷七百二十八頁ヲ參照セヨ

輸入品タル生活毒血清等ニ關スル認可ヲ得タル最近ノ製造所表

一千九百十二年一月六日

大 藏 省

税關ノ徵稅掛及其他ノ役員ヘ

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ一千九百十二年一月一日現在ノ製造所ヲ示スモノ是レナリ、而シテ此等ノ製造所
ニ下付セラレタル認可證ナルモノハ、一千九百十二年七月一日制定セラレタル條例ニ從ツテ大藏省ヨリ發セ

ラレタルモノ是レナリ、且ツ此等ノ條例ハ名ケテ『生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ノ販賣ヲ規定スル法令』ト云フ

今マ左ニ各會社ノ名及此等ノ會社ヘ下付セラレタル認可證ノ號數ヲ記載セン

認可證號數

書記官
フランクリン、マクヅヰーフ
會社名

- 一號 バーク、ダウキス商會
- 二號 エツチ、ケー、マルフホルド商會
- 三號 ドクトル、エツチ、エム、アレキササンダー商會
- 五號 豫防液製造會社
- 八號 削截作業所
- 九號 フレデリツキ、スチールス商會
- 十一號 巴里バスチアー會社
- 十二號 化學的物製品製造所
- 十四號 紐育市衛生局
- 十六號 國家的豫防液及血清製造會社
- ミシガンノデトロイト
- ヒラデルヒア
- ヘンシルヴニアノマリエツタ
- ウ井スコンシンノミルオーキ
- カリフォルニアノバークレー
- ミシガンノデトロイト
- 佛蘭西
- 日耳曼ノ伯林
- 華盛頓府

- 十七號 レベリー血清製造所
- 十八號 ビューロウ、ウエルカム會社
- 十九號 傳染病紀念會社
- 廿一號 瑞西血液及豫防液製造會社
- 廿二號 リヨン細菌學研究所
- 廿三號 細菌學的醫療研究所
- 廿五號 聖伯德斯堡結核病研究會
- 廿七號 リール、バステユアー會社
- 廿八號 細菌學研究所
- 廿九號 ベーリンググウオク會社
- 三十號 ドクトル、デーエツチ、サーマン會社
- 三十一號 イーマーク會社
- 三十二號 カール會社
- 三十三號 米國生物學研究會社
- 三十四號 ベレベツク製造所
- 紐育市
- 英國倫敦
- 志加古
- 瑞西ノベレン
- 佛國ノリヨン
- 北カロリナ
- 露國ノ聖伯斯堡
- 佛國ノリール
- 日耳曼ノドレスデン
- 同上マルブルグ
- ミシガンノデトロイト
- 日耳曼
- 同上バイブリーヒ
- ミツンリーノカンサス市
- 瑞西

三十五號

ドクトルカールスベングラー會社

同上

一一三

生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ノ販賣ニ就テノ規則

一千九百九年五月十一日

華盛頓 大 藏 省

一千九百二年七月一日合衆國々會ニ於テ制定サレタル一ノ條例アリ、名ケテ曰クコロンビア地方ニ於テ生
活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ヲ販賣スルニ就テノ規則ヲ編成シ且ツ上記ノ物品ヲ各州間ニ賣買
スルニ就テノ規則ヲ編成スヘキ條例是レナリ、而シテ今マ當下ニ記載スル官衙カ此條例第四章ノ規定ニ基
キテ、左ニ記載スルカ如キ規則ヲ編成シテ茲ニ之ヲ公布スルモノナリ、既ニ此等ノ規則ノ公布セラレタル
以上ハ、一千九百三年二月廿一日發布サレタル規則及其改正規則モ共ニ是レ廢止セララルヘキモノト知ルヘ
シ

合衆國陸軍々醫總監

チー、エツチ、トーネー

合衆國海軍々醫總監

ビー、エム、リキゼー

公衆衛生及海軍病院課醫務總監

ラルター、ウ井マン

大 藏 大 臣

フランクリン、マクヅユー

認 可 證

第一 認可證ナルモノハ公衆衛生及海軍病院課ノ醫務總長ノ申告ニ基キテ、大藏大臣之ヲ下付シ之ヲ停止
シ及之ヲ取消スヘキモノトス

第二 認可證下付ノ手續ハ左ノ如ク爲サンコトヲ要ス、曰ク爾カ々々ノ物品ヲ製造セント欲スル時ハ、其
製造認可願ヲ其筋ニ差シ出サンコトヲ要ス、而シテ當局者ハ此認可願ニ對シテ先づ其製造所ノ有様ヲ視
察シ又タ其物品ノ良否如何ヲ試験セサルヘカラス、斯ル視察試験ノ結果差シ支ヘナシト見据ヘタル後初
メテ茲ニ認可證ヲ下付スヘキモノトス

第三 右ノ如ク夫レノ規定ニ從ツテ其製造所カ視察サレ其物品カ試験セラレタランニハ、其當事者ヨリ
其視察試験ノ結果ヲ公衆衛生及海軍病院課ヘ差シ出サンコトヲ要ス、而シ該課ハ尙ホ之カ再調査ヲ爲シ
之ニ先キノ當事者ヨリ差シ出シタル報告書ヲ添ヘテ大藏大臣ノ許ヘ送付センコトヲ要ス

第四 認可證ノ様式ハ左ノ如シ

認 可 證

一一三

何々州何所ノ何某ヨリ彼ノ生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ヲコロンビア地方其他各州間ニ販賣致シ度旨ヲ以テ、認可證下付願差シ出シ候ニ付、成規ニ從ツテ其製造所等充分ニ調査ヲ遂ケ候處、更ニ差シ支ヘナキモノト確認ス、因テ茲ニ本證書ヲ下付シテ右ニ掲ケタル物品ノ製造販賣ヲ許可スルモノナリ、但本證書ハ下付ノ當日ヨリ向フ一ケ年間若クハ再調査ヲ爲スノ時期マテ有効ナルモノトス

此認可證ハ右ニ記載シタル條例ニ基キテ編成シタル規則ニ從ツテ下付スルモノナリ、然レトモ不都合ナル事發覺シタル場合ニハ之ヲ停止シ若クハ取リ上クルコトアルヘシ

大藏大臣 某 調印

- 第五 認可證ハ下付ノ當日ヨリ滿一ケ年間(若クハ再調査ノ時期マテ)有効ナルモノトス、彼ノ製造所等再調査ヲ遂ケタル後ニアラスンハ認可證ノ再下付ヲ爲サルモノトス、第三項ノ規定ニ從ツテ視察調査ヲ行ハンハ、少ナクモ年ニ一回ナランコトヲ要ス、而シテ其視察調査ノ結果ノ報告ハ、公衆衛生及海軍病院課ノ衛生部及醫務總長ノ手ヲ通過セシメサルヘカラス
- 第六 右ノ如キ視察調査ノ任ニ當ランモノハ何人ナリヤト云フニ、公衆衛生及海軍病院課ノ醫務總長ノ推薦ニ依リ大藏大臣ノ任命シタル視察官是レナリ

- 第七 此等ノ視察官ハ公衆衛生及海軍病院課ノ醫官若クハ同課ノ衛生部長タルヘキモノトス
- 第八 視察官ノ訪問時期ハ通告セサランコトヲ要ス
- 第九 視察官カ其任務ヲ果サンニハ先ツ第一ニ製造所々長カ若クハ其會社員ヲ訪問シテ其視察ノ目的ヲ通告センコトヲ要ス
- 第十 視察官ノ視察スヘキ條項ハ其製造所ノ全部、之ニ附屬スル厩、小屋、土藏及實際行動セル方法等是レナリ
- 第十一 視察官カ其視察ニ際シテ自カラ必要ナリト思惟シタランニハ、其製造所ノ持主、會社員若クハ雇人ヲシテ宣誓セシメタル上尋問シ得ヘキ權能ヲ有スルモノトス
- 第十二 視察官ハ血清、生活毒、毒素及此等ト類似セル物品ノ材料取扱方、之ヲ貯ヘ置ク事其他製造販賣ニ關スル詳細ナル事實ヲ充分ニ調査センコトヲ要ス
- 第十三 視察官ハ最モ注意ヲ密ニシテ左記ノ事實ヲ視察センコトヲ要ス、曰ク其製造所ノ構造中不完全ナル所アルカ、若クハ其取締上宜シキヲ得サル所アリテ、自ラ其製造品ニ不良ナルモノアラサルカヲ視察スルコト是レナリ、而シテ若シ必要ナリト思惟シタランハ、此等ノ事ニ關シテ特別ナル報告ヲ爲サン事ヲ要ス
- 第十四 視察官タルモノハ時ニ或ハ公開ノ市場ニ於テ此等ノ物品ヲ購入スルカ、若クハ自カラ然カスルヲ

好シト思惟シタランニハ、其製造所ニ就テ之ヲ購入シタル上自カラ其良否ヲ試験スルカ、或ハ之ヲ衛生試験所長ノ方ニ送付シテ試験セシメンコトヲ要ス

第十五 右ノ如ク視察官ノ手ヨリ斯ル物品ノ良否試験ノ爲メ、之ヲ公衆衛生及海軍病院課ノ衛生試験所長ノ許ヘ送付シタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ試験所長ハ其職責トシテ之ヲ快諾シ試験ニ付シテ其結果ヲ先キノ視察官ニ通知センコトヲ要ス、是レ視察官ノ報告ヲシテ一層確實ナラシムルモノト謂ツヘキナリ

生活毒、血清、毒素等ノ試験

第十六 『生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品』ナル語ハ今マ左ニ記載セントスル物品及其他時々大藏大臣ヨリ指定セラル、モノヲ包含スルモノト知ルヘシ、曰ク實布埜里亞血清、破傷風血清、連鎖球菌血清、痲菌血清、葡萄狀菌血清、肺炎菌血清、赤痢血清、結核血清、「ベスト」血清、虎列拉血清、連鎖球菌及肺炎菌血清、腦膜炎球菌血清、丹毒及靈菌毒素、乳酸菌液、室布斯血清、細菌性豫防液、健康馬血清、生活毒豫防液ノ如キ類是レナリ

第十七 認可證ヲ得タル製造所ニ於テ製造サレタル生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品カコロンピア地方若クハ各州間ニ販賣セラル、ノ場合ハ、時ニ或ハ公開ノ市場ヨリ之ヲ購入シテ試験センコトヲ要ス其試験方法等ハ公衆衛生及海軍病院課ノ醫務總長ノ指揮ニ從ツテ此等ノ製藥ノ良否ヲ試験シ及該法律第

一章ノ規定スル如ク表記シアルヤ否ヤヲ視察スルコト是レナリ

第十八 認可證ヲ受ケタル製造所ニ於テ製造シタル生活毒、血清及此等ト類似セル物品ノ外國ヨリ輸入サレタル場合ハ、其來着シタル港ノ税關ノ官吏ノ許ニ之ヲ留メ置キテ、成規ノ試験ニ付センコトヲ要ス、即チ公衆衛生及海軍病院課ノ役員ヲシテ此等ノ製藥ノ良否ヲ試験セシメ、及該法律第一章ノ規定ニ從ツテ適當ニ表記シアルヤ否ヤヲ視察セシメン事ヲ要ス

第十九 右ニ述ヘタルカ如ク生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ノ外國ヨリ輸入シタル場合ハ、以テ上述ヘタル試験ノ外ニ今一回試験ニ付センコトヲ要ス、即チ一旦試験ヲ受ケタル製藥ト同一ナルモノヲ再試験ニ付セシメンカ爲メニ、税關ノ收稅吏ヨリ華盛頓ニ於ケル公衆衛生及海軍病院課ノ醫務總長ノ許ヘ回送センコトヲ要ス

第二十 外國ヨリ輸入サレタル生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品カ、停止サレサル認可證及取リ上ケラレサル認可證ヲ有スル製造所以外ニ於テ製造サレタルモノナランカ、若クハ認可證ヲ受クルニ先ンシテ試験ヲ受ケタルモノニアラストセンカ、斯ル場合ニ於テハ税關ノ收稅吏ハ此等ノ物品ノ輸入ヲ拒絶スヘキモノトス

第二十一 實布埜里亞血清ノ効力ヲ試験シテ差シ支ヘナシトスル標準點ハ公衆衛生及海軍病院課ノ指定シタル所ニ從フヘキモノトス

- 第廿二 破傷風血清ノ効力ヲ試驗シテ差シ支ヘナシトスル標準點ハ左ノ如クナランコトヲ要ス、曰ク茲ニ
 ギユイニー産ノ一ノ豚アリ、試験ノ爲メ公衆衛生及海軍病院課ノ衛生部ニ於テ製造シタル標準毒素三百
 五十「グラム」ヲ與ヘテ後、前ノ血清ノ最少量ヲ注射シテ其豚ノ生命ヲ九十六時間留メ置クコトヲ得ルト
 センカ、此効力ヲ十倍シタルモノヲ以テ差シ支ヘナシトスル標準點ト定ムルコト是レナリ
- 第廿三 血清製造者カ市場ニ於テ數種ノ血清ヲ買集メ「ギブソン」式方法若クハ其他ノ方法ニ從ツテ、普通
 ノ抗毒的血清ト混和シタル場合アランニハ、其混和的血清タルコトヲ表記センコトヲ要ス
- 第廿四 一旦移植シタル血清ヲ動物ヨリ取り去ルコトニ就テハ、先ツ其動物ヲ殺スカ若クハ其他ノ方法ヲ
 以テ痛苦ヲ感セシメサル様爲サンコトヲ要ス
- 第廿五 動物ヨリ生活毒的豫防劑ヲ取り去リタル時ハ、出來得ヘキ丈ケ速カニ剖屍検査ヲ行ヒ、且ツ此剖
 屍検査ニ關スル書類ハ之ヲ永久ニ保存シ置キテ、病理的變化ヲ見ルノ材料ニ供センコトヲ要ス
- 第廿六 豫防劑的材料ヲ供給シタル動物カ傳染性疾病(移植サレタル病原以外ノモノヲ云フ)ニ罹レルカ、
 若クハ傳染病ニ罹レル疑ヒアリトセンカ。斯ル豫防劑的材料ハ皆之ヲ拋棄センコトヲ要ス
- 第廿七 生活毒的豫防劑ヲ製造スル目的ヲ以テ動物ヲ貸借スルコトヲ得ス
- 第廿八 生活毒的豫防劑製造用ニ供セラル、動物ハ、實地此用ニ供セラル、前少ナクモ七日間ハ日々獸醫
 ノ検査ヲ受ケサルヘカラス、且ツ此用ニ供セラル、動物ハ傳染病ニ罹リ居ラサルモノニ限ルヘキモノト

ス

- 第廿九 豫防劑ヲ製造シテ之ヲ各州間ニ販賣センニ、舊式ニ屬スル乾燥「淋巴」様ノモノハ、一千九百十年
 一月一日以降廢止セラルヘキモノトス
- 第三十 生活毒的豫防劑ノ各分量ハ極微ナル病理的有機物ヲ包含シ居ルヤ否ナヲ試験センコトヲ要ス、且
 破傷風毒ノ有無ニ就テハ特別ナル試験ヲ爲サ、ルヘカラス、而シテ此等ノ試験成績ニ關スル書類ハ、斯
 ル豫防劑ヲ製造シタル會社ニ永ク保存シ置カンコトヲ要ス
- 第三十一 豫防劑材料ヲ製造シ或ハ之ヲ市場ニ輸送スルニ要スル所ノ容器、磨碎用及混和用等ニ要スル所
 ノ種々ノ器械類ハ、之ヲ使用スルニ先ンシテ夫々消毒センコトヲ要ス、即チ少ナクモ攝氏百二十度ノ温
 度ニテ三十分以上蒸氣消毒ヲ行フカ若クハ少ナクモ攝氏百六十度ノ温度ニテ一時間以上乾燥消毒ヲ行ハ
 ンコトヲ要ス、若シ此等ノ器械類ニシテ斯ル温度ニ耐ヘサル場合アランニハ、破傷風菌ヲ撲滅スルニ足
 ルヘキ通常知ラレタル消毒法ニ依ランコトヲ要ス
- 第三十二 種々ノ廢棄物若クハ荷造用ノ材料例之ハ枯草、葉、綿ノ類其他出處ノ知レサルモノ等ハ生活毒
 的豫防劑製造用ニ供スル動物ヲ入レ置ク所ニ貯ヘ置クヘカラス
 認可證ノ停止及取消ノ事
- 第三十三 視察官カ此等ノ製造所ヲ巡視スルノ際、其製造準備ノ方法其當ヲ得サルカ、製造所ノ構造其宜

シキヲ得サルカ、事務ノ取扱上不都合ナル點アリト認メタル場合アラシカ、斯ル場合ニ於テハ視察官タランモノハ其製造家ニ就テ注意ヲ促カシ、且ツ之カ報告書ヲ調製シ自分ノ意見ヲモ付シテ醫務總監ノ許ヘ差シ出サンコトヲ要ス

第三十四 試驗所ニ於テ此等ノ製造品ヲ試驗シタル結果其實不良ナルカ其効能不十分ナルコトカ發見セラレタルカ、或ハ其表記其當ヲ得サル場合アラシニハ、其旨醫務總監ノ許ヘ報告センコトヲ要ス

第三十五 右ノ外視察官ノ視察ノ際不都合ナルコトカ見出サル、カ、或ハ衛生部ノ試驗所ニ於テ再試験ノ結果缺點アルコトカ發見セラレ、醫務總監カ容易ナラサル事ト認メタランニハ、醫務總監ヨリ其旨大藏大臣ニ具申シテ斯ル製造所ノ認可證ヲ一時停止セシムコトヲ要ス、而シテ此停止後六十日間以内ニ右ノ缺點不都合カ矯正セラレサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ醫務總監ヨリ認可證取消ノ儀ヲ具申センコトヲ要ス

第三十六 右ノ如ク認可證ヲ一時停止シ若クハ之ヲ取り消シタル場合ニ於テハ、大藏大臣ノ署名調印シタル布告ヲ以テ其顛末ヲ公ニセンコトヲ要ス

生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品ヲコロンビア地方ニ於テ販賣スル事ニ就テ取締規則ヲ設クヘキ條例、及此等ノ物品ヲ各州間ニ於テ販賣スル事ニ就テ取締規則ヲ設クヘキ條例

(一千九百二年七月一日制定ノ條例)

第一章 (生活毒、血清等ヲ各州間等ニ販賣スルニ就テノ規則) 本條例第四章ノ規定ニ從ツテ編成セラレタル規則發布ノ當日ヨリ起算シテ六ヶ月經過以後ハ何人ト難モ左ノ如キ行動ヲ取ルコトヲ得ス、曰ク人ノ疾病ヲ豫防シ或ハ治療スルニ適スル或ル生活毒、治療的血清、毒素、抗毒素若クハ此等ト類似セル物品ヲ販賣セントスル時ハ夫々定メラレタル規則ニ從ハサルヘカラス、濫リニ販賣スルコトヲ許サス、今マ之ヲ左ニ詳言セン、(イ)斯ル生活毒、血清、毒素等カ大藏大臣ヨリ下付シタル認可證(停止サレサル又ハ取消サレサルモノ)ヲ有スル所ノ製造所ニ於テ製造サレタルモノニアラスンハ、決シテ販賣等ヲ爲スコトヲ得ス、即チ斯ル物品ヲコロンビア地方ニ於テ販賣シ若クハ交易シ、或ハ或ル州、地方、コロンビア地方ヨリ他ノ州、地方ヘ携ヘ行キ、或ハ外國ヨリ合衆國ヘ持テ來リ或ハ合衆國ヨリ外國ヘ輸出シテ之ヲ販賣シ、若クハ交易スルコトヲ得ス、又タ(ロ)斯ル生活毒、血清、毒素、抗毒素若クハ此等ト類似セル物品ノ包被ニ其内容ヲ明カニ表記シ、且其製造人ノ姓名住所及其認可證ノ番號ト此等ノ物品ノ有効期限トヲ表記シタルモノニアラスンハ、前記シタル箇所ニ於テ之ヲ販賣シ若クハ交易スルコトヲ得ス、又タ認可證ノ停止若クハ取消ヲ命セラレタルモノハ、無論此等ノ物品ヲ販賣シ若クハ交易スルコトヲ得スト雖モ此停止及取消ノ命令ハ是レヨリ以前ニ溯ホリテ販賣シタルモノニ波及スヘキモノニアラス、但シ斯ル生活毒、血清、毒素、抗毒素若クハ此等ト類似セル物品ノ所有者或ハ保管者カ、大藏大臣ヨリ其發賣等ヲ禁止サレタル場合ハ此限ニアラス

第二章 (詐偽ノ表記等) 何人ト雖モ右ニ述ヘタル或ル生活毒、血清、毒素、抗毒素若クハ此等ト類似セル物品ノ包被ニ詐偽の表記若クハ記號ヲ爲スコトヲ得ス、又タ斯ル表記記號ヲ變更シテ内容ト異ナラシムルカ如キ詐偽の行爲ヲ爲スコトヲ許サス

第三章 (視察ニ關スル事) 製造會社ニ於テ或ル生活毒、血清、毒素、抗毒素若クハ此等ト類似セル物品ヲ製造シテ或ル州、地方、若クハコロンビア地方ヨリ他ノ州、地方等ニ携ヘ行キテ之ヲ販賣シ、或ハ外國ヨリ合衆國ヘ輸入シ又ハ合衆國ヨリ外國ヘ輸出シテ販賣セント欲スル場合ニハ夫々規定ノ視察ヲ遂ケンコトヲ要ス、乃チ斯ル視察ノ任ニ當ルモノハ、大藏省ノ官吏若クハ雇員等ニシテ、大藏大臣ノ指令スル所ニ從ツテ、適當ナル時間ヲ見計ラヒ此等ノ製造會社ノ實況ヲ視察センコトヲ要ス

第四章 (認可證ニ關スル規則ヲ編成スル當局ノ事) 陸軍々醫總監、海軍々醫總監及海軍病院課醫務總長等自カラ主任トナリテ一ノ局ヲ組織シ、大藏大臣ノ承認ヲ得テ左記ノ如キ業務ヲ司トランコトヲ要ス、曰ク人ノ疾病ヲ豫防シ又タ治療スルニ足ルヘキ生活毒、血清、毒素、抗毒素及此等ト類似セル物品ヲ製造スル會社ニ對シテ認可證ヲ與ヘ或ハ之ヲ停止シ或ハ之ヲ取り消スカ如キ處分ヲ爲スニ就テ必要ナル規則ヲ設クルカ如キコト是レナリ、而シテ右ノ如キ生活毒、血清、毒素、抗毒素、及此等ト類似セル物品ハ或ル州、地方若クハコロンビア地方ヨリ他ノ州又ハ地方ヘ輸送シテ販賣シ、或ハ合衆國ヨリ外國ヘ向ケテ輸出シ、或ハ外國ヨリ合衆國ヘ輸入スルモノト知ルヘシ、且ツ外國ニ於ル或ル會社ニシテ或ル生活毒、

血清、毒素、抗毒素若クハ此等ト類似セル物品ヲ製造シテ之ヲ合衆國ニ販賣シ若クハ交易セントスル時ハ、之ニ對シテ認可證ヲ下付スヘキモノトス、但シ斯ル認可證ヲ下付スルニ就テハ左ノ如キ條件ヲ付セシコトヲ要ム、曰ク斯ク認可證ヲ受ケタルモノハ視察官カ本條例第三章ノ規定スル所ニ從ツテ其製造所ヲ視察スルコトアルヲ豫シメ心得置カサルヘカラス

第五章 (規則等ヲ勵行セシムル事) 大藏大臣ハ左記ノ如キ權能ヲ有スルモノトス、曰ク本條例ノ規定及當局者が本條例ニ基キテ編成シタル規則等ヲ勵行セシムヘキ權能、右ニ述ヘタルカ如キ製造所ニ認可證ヲ下附シ或ハ之ヲ停止シ或ハ之ヲ取り消スヘキ權能、大藏省ノ官吏若クハ雇員ニ自カラ必要ト思惟スル職責ヲ與ヘテ事ヲ執ラシムヘキ權能ノ如キ是レナリ

第六章 (官吏ノ職務執行ヲ妨碍スルコトヲ禁ス) 大藏省ノ官吏若クハ雇員等ガ本條例若クハ本條例ニ基キテ當局者ノ編成シタル規則ニ從ツテ其職務ヲ執行スルニ際シテ、何人ト雖モ之ヲ妨碍スルコトヲ得

第七章 (犯則者ノ處罰) 何人ヲ問ハス本條例ノ規定ニ違犯スルカ若クハ違犯幫助ヲ爲シタランモノハ、五百弗以内ノ罰金ニ處セラル、カ、若クハ一ケ年以内ノ禁錮ニ處セラル、カ、或ハ裁判所ノ意見ニ依リテ罰金ト禁錮トヲ併セ課セラル、モノトス

第八章 (條例廢止) 從來發布セラレタル諸條例中及此等ノ條例中ノ或ル部分カ本條例ニ牴觸スル所アラシカ皆ナ是レ廢止セラルヘキモノトス

生活毒、血清等ノ輸入……認可證ヲ受ケタル製造會社ノ表

一千九百十二年一月六日

大藏省

税關ノ收税吏及其他ノ官吏へ

今マ左ニ掲クル所ノ表ハ大藏省ヨリ下付セラレタル認可證ヲ有スル製造會社（一千九百十二年一月一日現在）ヲ示スモノナリ、大藏省カ斯克其認可證ヲ下付スルヤ、一千九百十二年七月合衆國々會ニ於テ制定セラレタル條例ノ規定スル所ニ從ヘルモノ是レナリ、而シテ其條例ハ名ケテ『コロンビア地方ニ於テ生活毒、血清、毒素及此等ト類似セル物品販賣ニ關スル規則ヲ設クヘク、又タ此等ノ物品ヲ各州間ニ販賣スルニ就テノ規則ヲ設クヘキ條例』ト云フ
其他左ノ表中ニハ各製造會社へ下付セラレタル認可證ノ番號、及其認可サレタル製造品ノ名ヲモ併セテ示シタルモノナリ

認可證番號

會社

大藏大臣 フランクリン、マク、ヅ井一
製造品

第一號

ミシガンノパーク、ダウキステット
ロイト

實布埜里亞血清、痲菌血清、結核血清、ツベルクリン、細菌性豫防液、丹毒並靈菌毒素、生活毒的豫防液、健康山羊血清、健康馬血清

第二號

ヒラデルヒアノエツチ、ゲーマルフ
ホルド會社

實布埜里亞血清、赤痢血清、腦膜炎球菌血清、肺炎菌血清、連鎖球菌血清、破傷風血清、ツベルクリン、生活毒的豫防液、健康馬血清、細菌性豫防液、恐水病血清

第三號

マリエツタノドクトル、エツチ、エム、アレキサンダー會社

實布埜里亞血清、恐水病血清、生活毒的豫防液、健康馬血清

第五號

ウ井スコンシン、ミルオーキーノ豫防液製會社

生活毒的豫防液

第八號

カリフホルニア、パーケレーノカッター製造所

實布埜里亞血清、連鎖球菌血清、ツベルクリン、細菌性豫防液

第九號

ミシガン、デットロイトノフレデリックスキスマン會社

實布埜里亞血清、ストレプトリツク血清、肺炎血清

第十一號

巴里ノ巴里バステューア會社

實布埜里亞血清、赤痢血清、腦膜炎球菌血清、ペスト血清、連鎖球菌血清、破傷風血清、ペスト豫防液

第十二號

日耳曼伯林ノ化學物品製造會社

實布埜里亞血清、連鎖球菌血清

第十四號

紐育市ノ衛生局

實布埜里亞血清、破傷風血清、恐水病血清、生活毒的豫防液、ツベルクリン、腦膜炎球菌血清

第十六號

華盛頓府ノ國民的豫防液及抗毒素製造會社

實布埤里亞血清、癩菌豫防液、生活的豫防液、健康馬血清、連鎖球菌豫防液、室布斯豫防液

第十七號

ラデール抗毒素製造所

實布埤里亞血清、連鎖球菌血清、破傷風血清、乳酸菌液、生活毒的豫防液、室布斯豫防液

第十八號

英國倫敦ノバーロー、ウエルカム會社

實布埤里亞血清、癩菌血清、赤痢血清、結腸菌血清、連鎖球菌血清、室布斯血清、ツベルクリン、細菌的豫防液

第十九號

志加古ノ傳染病紀念會社

實布埤里亞血清

第二十號

瑞西ベレンノ瑞西血清及豫防液製造會社

實布埤里亞血清、赤痢血清、腦膜炎球菌血清、肺炎菌血清、ベスト血清、連鎖球菌血清、ツベルクリン、虎列拉豫防液、ベスト豫防液、室布斯豫防液、破傷風血清

第二十一號

佛國昂里ノ細菌學研究所

實布埤里亞血清、健康山羊血清

第二十二號

北カロリナ、アセヅキルノ細菌的治療研究所

ツベルクリン

第二十四號

日耳曼ホーヘストン、メインノフルベウエルケ會社

實布埤里亞血清、赤痢血清、腦膜炎球菌血清、肺炎菌血清、連鎖球菌血清、破傷風血清、ツベルクリン

第二十五號

露西亞、聖伯德斯堡ノ聖伯德堡ツベルクリン會社

ツベルクリン

第二十七號

佛國リールノバヌチユアー會社

「ツエニミウキス」血清

第三十號

ミンガン、デットロイトノドクトルヂー、エツチセフシ會社

細菌性豫防液

第三十一號

日耳曼、ゴームスダットノイー、コーク會社

實布埤里亞血清、腦膜炎球菌血清、肺炎菌血清、連鎖球菌血清、健康馬血清

第三十二號

日耳曼、バイブリツヒノカール會社

ツベルクリン

第三十三號

モンテナ、カンサス市ノ米國生物學會社

恐水病抗毒素

第三十四號

瑞西、ニウチャテルノペラネツク製造所

ツベルクリン

第三十五號

瑞西、ダヴォス、ブラツツノドクトル、カール、ペンクラ！會社

免疫血液

○獨逸ニ於ケル結核豫防ノ現況 (千九百十二年)

一 結核問題ニ對スル理解力ノ普及

國民病タル結核ノ重大ナル意義ノ理解力竝有効ナル結核豫防ノ必要及ヒ該豫防ノ可能ナルコトニ對スル理解力カ國民各社會ノ常ニ進歩シツ、アル文華ト並行シ常ニ進歩ヲ爲シタルコトヲ更メテ報告スルハ喜ハシキコトナリ就中右ノ事實ハ結核ノ不可思議ナル神(技術ヲ司ル神)ノ賜物ニシテ此神カ其ノ出現スル處ニ於テ大ナル興味ヲ見出シ且眞ニ國民ニ教訓ヲ與ヘタリ

此ノ事件ノ爲ニ醫師カ顯ハレ屢々寫眞ヲ用ヒ且通俗的演述ニ依リ神ヲ利用シタルハ感謝スヘキコトナリ相談所及救護所ハ結核豫防ニ對スル理解力ノ普及ニ著シク裨益ヲ與ヘ救護婦ハ辛苦セル小「アルバイト」ニ依リ患者ノ家族ニ結核傳染ノ危険及其ノ防禦ヲ教示ス又通俗的ノ注意書、告示及ヒ他ノ印刷物ハ國民ヲ開化スルニ與リテ力アリ而シテ中央委員會事務所以外ノ數多ノ組合ニ於テハ地方各社會ノ結核豫防ニ對スル興味及理解力ヲ示スヘキ印刷物ヲ發行ス又狼瘡及ヒ其ノ豫防ニ對スル理解力ハ常ニ普及スソハ患者自ラ又ハ市町村役場、牧師、教師等ヨリ狼瘡委員會ニ數多ノ治療扶助ヲ申請セルヲ以テ明ナリ之レ主トシテ、ドクトル、ヒューブナー教授カ狼瘡ニ關スル説明書ヲ著ハシ其ノ十七萬冊ヲ委員會ニテ全獨逸國內ニ無代配布ヲナシタルカ爲メナリ

二 届出義務

明ナル結核病ニ對スル届出義務ハ從來ノ通り通常有効ナル結核豫防特ニ豫防處置ノ根本ト認メラレ多クノ救護所等カ此ノ届出義務ヲ負ハセサル總テ他ノ處置ハ無益ナリト見做ス程度ニ迄切要ナリト思考セラル故ヲ以テ結核ニ對スル届出義務ハ普國及ヒ他ノ二三聯邦國ニ於テ尙未タ死亡ノ場合ニ限ラレ居ルカ遺憾トスル處ナリ届出義務ハ少クトモ患者ノ不幸ナル住宅關係又ハ不適當ノ生活慣習ノ爲ニ四圍ノ人々ニ及ヒ住宅ヲ變更スル患者ニ危険ヲ及ホスヘキ疾病ノ場合ニ擴張適用セラル、事ヲ要ス治療所又ハ病院ニ結核患者ノ移住ハ住宅ノ變更ト見做ス之ニ付キ「バイエルン」國ニ於テハ千九百十一年五月五日發布ノ省令ニ依リ死亡ノ場合ノ外明ナリ肺結核及咽喉結核病ニ對シ、且住地及ヒ住宅ノ變更ニ際シ竝救護所及養育所ニ於ケル結核病ニ對シ届出義務ヲ負ハシメタリ又該省令ニハ右疾病ニ對スル逐次消毒及終局消毒ノ方法ヲ規定ス其ノ他行政機關ハ此ノ省令ニ依リ患者ノ接近者カ不充分ナル住宅關係ノ爲メ危険ナルトキハ届出ヲ命スルノ權利ヲ取得ス

市事務官醫學士「アー、ゴットスタイン」氏ハ「シャーロットンブルヒ」市ノ委任ニ依リ記錄(肺結核及咽喉結核患者ニ對スル届出義務施行ニ關スルモノ)ニ作リ普國ニ於ケル市會ヲシテ肺結核及ヒ咽喉結核患者ノ届出義務ノ施行ヲ卒先セシムルニ至ラシメタリ

吾人ノ強求スル處ノモノハ法律上規定セラレタル届出義務之レナリ之レ強チ徒爾ニ非サルヘシ普國政府ハ

此ノ届出義務ヲ死亡ノ場合ノミナラス明ナル肺結核病及咽喉結核病ニモ負ハシメントシテ普國傳染病豫防法案中ニ加フヘク動議ヲ提出シタルモ地方議會ハ之ヲ拒絕シタルハ明ナル事實ナリ此ニ於テ普國諸縣カ此ノ拒絕ヲ以テ如何ニモ甚シキ不都合ナリト知覺シタル事實ハ「アルチン、キルヒネル」氏カ著シタル「獨逸帝國ニ於ケル傳染病豫防ニ關スル法律ノ淵源」テフ書籍ニ於ケル演述中ニ明ナリ

帝國議會ニ於テ内務省ノ豫算討議ニ際シ本年三月十九日ヨリ二十三日ニ至ル開會中各種ノ公衆衛生ニ關スル問題特ニ衛生局ノ豫算ニ付審理セラレタリ

結核豫防ニ關スル國民自由黨ノ決議ハ代議士「カイメート」氏ノ述ヘタル簡單ナル理由ノ下ニ一致承認セラレタリ而シテ同氏ハ結核病豫防ニ大ナル氣勢ヲ持タシメ且豫防ハ尙家庭自ラニ於テ勵行セラレサルヘカラスト云ヘリ然ルニ家族ノ全部カ結核患者ナルコト屢々アリ之レ正當ナル時期ニ於テ傳染ヲ防禦セサルカ爲ナリ豫防盛ナルトキハ傳染ハ常ニ實際上防止セラル、ナリ

法律又ハ警察規則ニ依リ届出義務ヲ規定シタル二三ノ聯邦ヨリ死亡ニ對シテノミ届出義務ヲ定メタル處ニテハ消毒カ生殘者ヲ全然保護セス又ハ保護スルモ時機既ニ遅キ有様ニテ該規定ヲ勵行セス又ハ規定ノ施行カ緩慢ナリシトノ報告ヲ得ルハ遺憾トスル所ナリ斯ル場合ハ容赦ナク罰セサルヘカラス

相談所及ヒ救護所(結核患者ニ於ケル健康被害者又ハ感染者ノ搜索ヲ以テ主タル業務トス)ノ行動ハ一部結核病ニ對スル届出義務ノ缺點ヲ補充シ得ヘシ該救護所ハ家族調査ニ依リ結核性危險人物又ハ結核感染者ヲ

發見シ又一方ニ於テハ身分取扱官廳(ハムニッツ、アシャツフエンブルヒ市等ニ於ケル)疾病基金事務所、保險所ヨリ又ハ他ノ方法ニ依リ通知ヲ受ク「ヘムニッツ」市ニ於ケル區學務局ハ校醫ノ注意ニ依リ結核又ハ結核ノ嫌疑アル通學中ノ小學兒童ノ總テヲ引取り其ノ救護ヲ受ケシムル様結核豫防組合ニ通知シ以テ學校ヲ管理スルノ處置ヲ取レリ

之ヲ以テ學校醫ヲ増加セハ結核ニ感染シタル兒童ヲ正當ナル時期ニ搜出シ且適當ナル救護ヲ與フルニ一層容易ナラン結核患者死亡ニ對スル届出義務ヲ履行セサルトキハ責任ノ大部ハ醫師ノ義務的檢死ヲ缺キタルニ歸ス檢死セラレサル又ハ普通人ニ依リ檢死セラル、處ニテハ結核患者ノ死亡ニ付官廳ノ知ラサルコト多シ之ヲ以テ結核ノ蔓延ヲ防禦スルノ處置ヲ取ルヲ得ス數多ノ家族ハ尙常ニ其ノ一員カ結核ニ罹リ又ハ死亡シタルコトヲ懺悔スルヲ厭ヒ或ハ故意ニ或ハ愚昧ニモ虛偽ノ届出ヲナス又多クノ地方ニ於テハ結核患者ノ最終月ニ至ルモ全然醫師ニ相談セス之レカ爲醫師ノ檢死カ義務的ニ爲サル、様切望スルニ至ル但檢死ハ警察規則ニ依リ益々大小管區内ニ執行セラレツ、アリ然レトモ此ノ檢死ノ不平等ハ國民カ全然同等ノ條件ノ下ニ生活スル隣區ヨリ報告セラレタル結核死亡數ニ於ケル説明シ難キ差異ヲ生スル原因ナリ故ニ結核豫防ニ關與セザル理事者ハ各聯邦ニ於テ醫師ノ檢死ヲ平等ニ施行シ且結核死亡及ヒ明ナル結核病ニ對シ義務上ノ届出ヲ爲サシムル様努力セサルヘカラス

英國ニ於テハ千九百十二年一月以降結核ニ對スル届出義務ヲ定メ而シテ届出ヲナシタル醫師ニ對シ謝金ヲ

支拂フコト、シ以テ確實ナル材料ヲ得ントセル市ノ衛生行政廳ハ届出アリタル結核患者ノ詳細ナル目錄ヲ備ヘ而シテ該目錄ニハ患者ニ對シ不利ナル記事ハ毫モ掲載セス且第三者ニ對シ極メテ秘密ニス英國政府ハ必要ナル場合ハ患者ヲ留置スルカ如ク結核ノ蔓延ヲ防止センカ爲患者ヲ抑留スルノ特別ナル處置ヲ取ラントセリ

三 肺病患者ニ對スル相談所及救護所

報告年中相談所及ヒ救護所ハ實際ニ増加シタリ而シテ尙引續キ増加シツ、アリテ當時約七百二十ヶ所トナレリ其他「バーデン」ノ結核委員會百三十七個及ヒ「チューリッゲン」ノ結核委員會百四十一個アリ故ニ其ノ數ヲ詳細ニ掲載スルヲ得ス何トナレハ數多ノ救護所ハ數多ノ補助所及支所ヲ有スレハナリ肺病患者ニ對スル相談所及ヒ救護所ノ行動カ近世ニ於ケル結核豫防ノ出立點及ヒ中心點ヲ形成セサルヘカラサルコト及ヒ救護ノ動作カ大體家族及ヒ住宅ニ於ケル救護ニ及フヘキコトヲ認識スルコト深クハ從テ益々永久ニ救護所ハ其ノ數ヲ増加スヘシ特ニ結核救護ノ擴張カ地方ニ其ノ立脚地ヲ得タルハ喜ハシキコトナリ結核ハ概ネ工業界及ヒ大都市ノ疾病ニシテ地方ニ毫モナシトノ意見ハ國民開化ノ増進スルニ從ヒ消失シ地方ニ相談所及ヒ救護所ニ依ル系統的結核豫防ノ絶對ニ必要ナルコトヲ知ラシメタリ

大都市ニ於テハ從來普通ノ組織カ好果ヲ實證シタリ然レトモ地方ニ於テハ各區域ニ於ケル状態ニ差異アルヲ以テ別ニ組織カ形成セラレサルヲ得サリシナリ而シテ組織ハ場所ノ關係ニ應シ救護ノ行動ノ擔當者ノ支

配ヲ受ケ設備セラレサルヲ得ス地方ニ於ケル救護ノ行動ハ既ニ「ハンノーバート」州ニ於テ發達シ此處ニ國民福利組合ニヨリ組織セラレタルモノアリ又「ライン」州ニテハ地方保險所カ自ラ相談所及ヒ救護所ヲ地方ニ普及センコトヲ獎勵シ且進捗シタリ東普國ニテハ祖國ノ婦人團カ組織ヲ引受ケ「シュレジア」ニテハ結核豫防「シュレジア」地方組合カ祖國ノ婦人團ノ扶助ヲ得テ組織ヲ形成セリ

「バイエルン」及ヒ「ザクセン」ノ二王國ニ於テハ政府カ省令ヲ以テ相談所及ヒ救護所ノ設立方ヲ全地方ニ獎勵シ從テ之カ進捗ヲ見タリ「ウニルテンベルヒ」ニテハ右ト同様ニ政府ノ誘引ニ依リ中央慈善管理部カ全地方ニ存在セル縣慈善團ノ幫助ヲ以テ結核救護ヲ開始シタリ「バーデン」大公國ニテハ結核豫防運動ノ開始以降「バーデン」婦人團ノ組織ニ依リテ場所結核會及ヒ縣結核會カ成立セラレタルハ世人ノ知ル所ナリ「ヘッセン」大公國ハ相談所及ヒ救護所ノ完全ナルモノヲ有ス「ビルゲンフェルト」侯國ニテハ肺病患者ニ對スル救護所ノ行動ヲ爲ス町村看護所ノ多數カ設置サレアリ「ワルデック」及ヒ「ビルモント」ノ兩侯國及「ザクセン」アルテンブルヒ「公國」ハ「バーデン」大公國ニ倣ヒ系統的結核救護所ヲ組織シタリ其他多クノ地方ニテハ地方ニ相談所及ヒ救護所ヲ施設セント計畫シタリ

肺病患者ニ對スル相談所及ヒ救護所ノ數カ増加スルニ從ヒ同所ノ理事者ハ各々異ナリ地方ニ於ケル組織カ都市ノソレヨリ離ル、コト遠クハ從テ中央部ヲ設置スルノ必要ヲ生ス同部ニテハ各救護所ニ於テ蒐集シタル經驗ヲ經メ且意見ノ交換ヲ爲シ又相談ノ結果ヲ報告スルモノトス之レカ爲メ中央委員會ノ幹部ハ既ニ

先年ノ報告書ニ記載シタル「獨逸國ニ於ケル相談所及ヒ救護所ノ改良委員會」ナルモノヲ設ケタリ而シテ同會ノ主トシテ爲スヘキ業務ハ次ノ如シ

- 一、救護所制度ノ改良ヲ促シ且材料ヲ内外國ヨリ蒐集スルコト
- 二、救護所相互、又ハ救護所ト他ノ結核豫防ニ關スル施設トノ密接ナル連結ヲ誘致スルコト
- 三、諸地方ノ各救護所ニ於テ爲サレタル實驗ノ交換ヲ媒介スルコト
- 四、獨逸國ニ於ケル結核病傳播ニ付單純ナル原則ヲ作ル爲發見及ヒ實驗ノ學問的利用ヲ促スコト之レカ爲報告ノ統一ヲ圖ルコトヲ要ス各地方ニ於ケル結核ノ出現ニ付夥多ノ報告ヲ獎勵シ且之ニ加工スルヲ要ス

五、救護所ノ行動範圍ヨリ學問的「アルバイト」ヲ獎勵シ且促進スルコト

此ノ委員會ハ會長樞密高等醫事々務官ドクトル、ガッフキ教授ノ下ニ千九百十一年五月四日創立總會ヲ開催シタリ同總會開催ニ關スル報告ハ救護所ノ總テニ到達シタリ委員ノ動議ニ依リ中央委員會ノ幹部ハ肺病患者ニ對スル相談所及ヒ救護所ノ總テヲ同年六月十五日開催ノ第一回救護所會議ニ招待スヘク決定シタリ面シテ此會議ニ於テ研究セラルヘキ問題ハ一、住宅ニ於ケル結核患者ノ隔離ニ、結核患者ノ居所ニ於ケル排泄物ノ處置及ヒ其ノ洗濯消毒ニ、相談所及ヒ救護所ノ「アルバイト」ヨリ得タル經驗ノ交換ナリ現在ノ相談所及ヒ救護所ハ一般ニ其ノ職務ヲ會得シ國民側ノ盛ナル鼓舞的言辭ト寵愛ヲ受ケ喜ヒツ、アリ救護所ニ

シテ正當ニ其ノ職務ヲ盡サス且國民ヨリ訪問ヲ受ケサルハ主トシテ大都市ハ模範的ニ救護所ヲ組織シ而シテ小都市ハ之ニ模倣セルコト及ヒ豫メ開業醫師ヲ共働（醫師ノ共働ナクハ有益ナル行動ヲ取ルコト不可能ナリ）ノ爲メ正當ナル方法ヲ以テ招致セサリシコトノ缺點ニ起因ス故ニ地方ニ救護所ヲ設立スルモ之ヲ訪問スルモノナカラン之レ此ノ救護所ノ存在カ地方人民ヨリ知ラレサルカ或ハ人民ノ愚鈍ニシテ無頓着ナル結果之ヲ不用ニシテ且不便ナル施設ナリト認ムレハナリ

地方ニテハ何人ト雖結核嫌疑者カ救護所ニ來ルヲ待ツヘカラス尙進ンテ一般ノ傳染病豫防ノ原則ニ依リ結核嫌疑者ヲ住宅内ニ搜索シ且傳染病發生所ヲ剷滅セサルヘカラス

結核嫌疑者ノ發見ハ地方ニ於テハ主トシテ宗教師及ヒ教師ノ幫助ヲ請求シ得ヘキ市町村看護所ノ爲ス所ナリ而シテ嫌疑者ノ診斷及ヒ其ノ住宅ノ消毒ヲ行フトキハ醫師ノ共助ニ待タサルヘカラス

肺病患者ニ對スル相談所及ヒ救護所ヲ諸地方ニテ組織スヘク様ナシタル獎勵ハ概シテ好果ヲ奏シツ、アリ故ニ結核豫防ハ結核ニ對スル届出義務ナキ間ハ何等効ナシ又組織ハ不可能ナリ何トナレハ之ニ要スル資金ナケレハナリ又結核ハ地方ニ於テハ稀ニ發生ス結核ニ對スル干渉カ餘計ナリト云ヘル反對論ヲ聞クコト稀ナリ第一ノ反對論ニ對シテハ進歩シツ、アル國民ノ開化ニ依リ解決セラレ且正當ニ管理セラレタル救護所ノ行動ハ届出義務ヲ或ル程度ニ到ル迄償フコトヲ得ヘシ資金ニ關シテハ結核病豫防ノ根本ハ國民ノ開化及ヒ教訓トナラサルヘカラスト云ハサルヘカラス此ノ教訓ハ地方又ハ患家ニ於テ救護婦ノ爲サ、ルヘカラス

ル所ナリ此ノ教訓ヲ實例ニ付家族特ニ婦人ニ與ヘサルヘカラス即チ如何ニセハ小サキ不幸ナル住宅ヲ清潔ニシ且良好ニ之ヲ保持シ得ルカ又衛生上有害ナラサル住宅ト爲シ得ヘキカヲ教ヘサルヘカラス
 確カニ救護婦ノ教訓ハ半ハ何タル好果ヲモ奏セサルナラン然レトモ熟練シタル優秀ナル勢力主義ノ救護婦ハ充分ナル忍耐方ト持久方トヲ以テ結核豫防ニ際シ住宅手入ノ必要及ヒ其ノ實行シ得ヘキコトニ付人々ヲ納得セシメ得ヘキコトヲ知リ得タリ然レトモ右ノ方法ニ依レル國民智識ノ開拓ニハ全然又ハ殆ト金錢ヲ要セス而シテ救護所ノ施設ニ必要ナル資金ヲ持タスシテ右ノ方法ニ依リ人智ヲ開發セントスルハ切ニ希望スル所ナリ又救護所ハ何ヲ以テ目的トナスカ如何ニ行動スヘキカカ示サラル、トキハ將來救護所ノ必要カ全ク自然ニ生シ且又資金ノ必要ヲ生スルコト明ナリ大都市ニテハ大資金ヲ要スルハ勿論ナリ之レ後ニ掲載スヘキ千九百十年「ライン」州地方保險所ノ報告四十八頁ヨリ引用セル題目ノ下ニ示ス處ナリ
 各邦保險所カ肺病患者ニ對スル相談所及救護所及ヒ結核患者ニ對シ相當ノ救護ヲ引受クヘキ町村看護所ニ繼續シテ經濟上ノ扶助ヲ與ヘツ、アルコトハ記載セサルヘカラス
 小都市及ヒ地方ニ於テハ救護所ノ管理者カ公私ノ助長行政ニ從事セル所有當局者ト結合スルトキハ比較的小資金ニテ充分ナルコト勿論ナリ地方ニハ結核患者ナシトノ第三ノ反對論ハ破壊的意見ナリト看做サレ得ヘン之レ世人カ活目シテ各地到ル處ヲ注意セハ判明シ得ヘキコトナリ
 救護婦ハ救護ノ行動ニ付特ニ教育ヲ受ケ且管理宜シキ相談所及ヒ救護所ニテ實地ノ勤務ヲ全力ヲ注キテ學

ハサルヘカラス此ノ點ニ於テハ「シユレジエン」州結核豫防組合カ優秀ナルコトヲ證ス即チ全州ノ救護婦ハ其ノ首府「ブレスラウ」ニ於ケル貧窮肺病患者ノ救護組合ニ屬スル救護所ニ於テ全州ノ救護婦ニ對スル十日間ノ教育課程ヲ終ヘタリ二名ノ救護醫師ハ結核ノ本體及ヒ豫防ニ付演述シテ外國ノ救護婦ハ救護ヲ爲ス爲メニ前記救護所ノ婦人ヲ二名宛伴ヒタリト附言セリ其他外國救護婦ハ「ブレスラウ」ニ於ケル結核治療院ヲ視察シタリ又「ブレスラウ」ニ於ケル救護婦ニ對スル教育課程ノ設置ハ毎年存置セラルヘク好果アリタリ

救護所所在地

種別	千九百九年救護所ノ豫算	
	入	出
救護醫師ノ行動	九,一五〇	九,一五〇
入所人員	一,〇二六	一,〇二六
醫師ノ診斷數	九,九〇	一,〇〇八
結核未發見數	九四	三〇七
略痰検査度數	四〇五	一八八
相談回数數	九九七	九九七
テユツセルフ	四,六七六	一,九三五
コンユール	六,九四〇	六,九四〇
エルベルフエ	八,四一四	五,八二一
エクレフ	四,七六八	四,四八五
エムゲ	一〇,五二八	一〇,五二八
レムシ	一,〇五二	八,〇〇六
ボン	八,〇五〇	一,一五〇
エツセ	一,一五〇	一,一五〇
ライト	二,三〇〇	二,三〇〇

茲ニ尙救護所ノ報告中ヨリ二三ノ記事ヲ掲ケントス「ライムシャイド」ニ於ケル疾病勞働者ニ對スル救護團ノ發行セル千九百十一年々報中ニ左ノ如ク記載セリ

千九百十一年ニ於テ救護婦ハ其ノ任務ニ就ケリ彼等ハ被看護者ノ家族ヲ屢々訪問シタルヲ以テ家族ヨリナス救助ニ關スル請願カ非常ニ増加シタリ之レカ爲世人ハ救護婦カ其ノ僞善ヲ食事牛乳又ハ生活必需品ニ分配シ且斯ル申請ヲ承認セムカ爲訪問セルナリト思考スルニ至レリ吾人ハ豫メ不正ノ請願ノ多數ヲ拒絶シ以テ此ノ僞善ノ承認ニ對抗セサルヘカラサリシナリ但シ救護婦ハ不幸ナル經濟的關係及ヒ住宅關係ヲ輕減スヘシ然レトモ財政上ノ扶助ハ特別ノ困難カ現在スルトキニ限り付與セラルヘキナリ救護婦ハ家族ヲ親切ニ教化シ且指導スルコトヲ以テ其行動ノ重心ト爲シ居レリ

吾人ノ救護ヲ受ケツ、アル家族ノ大半ハ自己ノ利得ヨリ必要ナル生活費ヲ支出(特ニ不幸ナル境遇ニ非サレハ)シ得ルコト疑ナシ扶助ヲ要スヘキ家族ハ救護婦ノ救助ヲ得困難ナル境遇ニ於テ自己ヲ處スヘキコトヲ學フヘシ慈善ヲ行ヒ否寧ロ慈善ヲ與ヘ必要ナルトキハ救助シ人ヲシテ其ノ大ナル無頓着ヨリ覺醒セシメ彼等ノ家族及ヒ一般ニ對スル責任感ヲ強メシムルハ救護婦ノ主要務タリ

相談所及ヒ救護所ノ行動ニ付他ノ報告(ミュールハウゼンエルザス)ハ左ノ如ク表示セリ

其ノ他救護所ノ行動ヲ統計ニ依リ評價シ得サル且記述中序記ニセラルヘキモノ二三アリ例ヘハ豫診時間

中ニ爲シタル衛生上ノ勸告ノ教育トナルヘキ影響、早期ノ診斷ニ際シ治療醫ニ與ヘタル救助、最も多クノ家族カ虛禮ト認ムヘキ慰藉、愛情ヲ以テ家族ヲ世話シ且家族ヲ最モ善ク指導スルコト之レナリ吾人ハ屢々前記ノ行動ニヨリ最大ノ感謝及ヒ最多ノ愛着ヲ得タリ而シテ右ノ感情ハ大ニ獎勵スヘキコトナリ

「ゴニールリッツ」ノ結核委員會ハ其ノ相談所及ヒ救護所ニ付左記ノ報告ヲ爲セリ
重病患者ノ數ハ前年ヨリモ著シク減少シ又自己及ヒ其ノ子カ結核ノ嫌アリト思考シ之カ爲肺臟ノ狀態ニ付保證ヲ得ント欲スル者ノ増加シタルハ注意スヘキ價値アリ

二三ノ地方ニ於テハ適當ナル救護婦ナキ爲メ相談所及ヒ救護所ノ設立ニ困難シツ、アリ此ノ不幸ヲ除却セシカ爲メ數年來「パールメン」ニ於ケル「ライン」婦人救濟組合及ヒ「アーレンベルヒ」ニ於ケル慈善組合カ場所ニ於ケル救急方便トシテ常職ノ看護婦ヲ招致セスシテ素人ノ訪問婦人及ヒ救助婦人ヲ招致スヘク引受ケタル又他ノ地方ニテハ此ニ模倣シ特ニ結核患者ニ對スル救護ノ職務ニ付教育ヲ受ケタル救助婦人ヲ任用シツ、アリ

學問上ノ目的タル大都市ノ救護所ノ材料カ如何ナル方法ニ於テ利用セラレ得ヘキヤハドクトル、ブルック氏及ヒ「ドクトル、スタインベルヒ氏」ノ「プレスラウ」人ノ家族、住宅及工場ニ於ケル肺結核ノ蔓延テフ「アルバイト」(千九百十二年發行衛生及傳染病雜誌第七十一卷ニ在リ)ニ示セリ

地方ニ於ケル結核病救護ノ組織ニ對スル模範ハ附録十二頁ニ在リ

前年ノ報告中ニ伯林ニ於ケル各邦保險所ハ結核所ヲ設立シ保險所ノ被保險人ニ對スル結核救護ヲ引受ケタル記事アリ此ノ結核所ニテ爲シタル實驗ハ千九百十年發行ノ管理報告八十五頁乃至八十六頁ニ左ノ如ク記載セリ

各邦保險所ノ結核所ニ於テ結核救護ヲ引受ケテ爲シタル實驗ハ報告年度中ハ好果ヲ示シタリ該結核所ハ疾病者ヲ救護スル爲健康者ノ保護ニ必要ナル處置ヲ特ニ有効ニ實行スルカ如キ位置ニ在ルコトヲ示セリ此ノ利益アル結果ヲ得タルハ一面ニ於テ症候ノ最初ノ出現ニ際シ多數ノ初期患者ニ施ス治療處分ヲ各邦保險所ニ申請セラルルニ依リ結核所好機會ニ結核家族ノ回復ヲ圖ルコトヲ得又一面ニテハ保險所カ自己ノ金錢ヲ以テ順次救護處置ヲ執行シ得ルニ歸ス

左ニ掲クル事項ハ此ノ救護處置ニ屬ス

- 一、傳染性結核患者ハ其ノ家族ヨリ隔離スルコト但生業能力ノ回復シタル模様アル迄トス斯ル患者ハ收容條件ノ擴張ニ依リ「ペーリッツ」ニ於ケル肺病治療所ニ收容セラレ且此處ニテ六ヶ月未滿ニ渡ル治療ヲ受クヘシ
 - 二、結核患者ノ爲メ其ノ家族及ヒ同居者ニ著シキ危險カ生スル場合ハ之ニ増加借家料ヲ付與シテ結核患者ノ住宅狀態ヲ改善スルコト
- 報告年度内ニ家族百二十七ニ對シ増加借家料總計金六千六十麻克ヲ付與シタリ

三、住宅消毒ハ特ニ此ノ目的ニ對シ教育ヲ受ケタル消毒者ニ依リ執行セラレヘキコト

此ノ種ノ消毒ハ傳染性結核患者カ「ペーリッツ」ニ於ケル肺病治療所又ハ或ル病院ニ委託セラレ又ハ該患者カ其ノ住宅ヲ變更スルトキ其ノ行先所ニ於テ施行セラル結核患者ニシテ其ノ住宅ニ留ルヘキ程度ニ病勢ノ進行シタル者ニハ根本的「フォルマリン」ノ消毒ヲ行ヒ以テ疾病中住宅内ニ貯藏シタル傳染素ヲ除却シ而シテ後疾病ノ狀況ニ從ヒ疾病中消毒ヲ行フモノトス報告年度ニ於テ行ヒタル「フォルマリン」ノ消毒回数ハ三百六十九回ニシテ所謂小消毒ノ回数ハ百十回ナリキ

四、家族調査ノ際結核患者ト認メラルヘキ被保險人ニハ直チニ治療處分ヲ行フコト

以上ハ未タ治療看護ノ申請ヲ爲サス且又普通自己ノ疾病ニ付毫モ知ラサリシ者ニ關スル事項ナリ此ノ場合ニ於テ家族調査ニ依リ治療處分ヲ正當ナル時ニ行フコトヲ得タリ

結核嫌疑者ニシテ被保險人ナルトキハ「リヒテンベルヒ」ニ於ケル結核所ニ觀察ノ爲メ委託（報告年度中二十四名）ス

五、赤十字ノ國民治療所組合ト合意ノ上結核所ニ約八千日ノ看護ヲ指圖スル森林保養所ニ直接適當ナル患者ヲ委託スルコト

之レカ爲メ結核所ノ直接行動能力ハ比較的伸張シ該所ハ伯林ニ於ケル保險義務者ノ結核蔓延ヲ防禦センカ爲メ遲滯ナク必要ナル救護處置ヲ取ルヘキ位置ニ在リ

報告年度ニ於テ結核所ノ行動範圍ハ擴大セラレタリ即チ千九百九年ニ於テ其行動範圍ハ市ノ中央區及ヒ南東區ニ限ラレシモ千九百十年ニ於テ南西區及ヒ東區ニ延長セラレタリ而シテ南區及ヒ南西區ニ對スル結核所ハ千九百十年二月一日東區ニ對スルモノハ千九百十年十月一日開所セラレタリ

今個人個人ニ於ケル救護處分ノ結果ヲ見ルニ第一第二結核所ニ於テハ總計六千三百四十二名ノ診斷ヲ行ヒタリ右ノ内二千六百九十一名ハ結核患者ニシテ其ノ内七百五十八名ハ傳染性ノモノナルコトヲ發見シタリ

第一第二結核所ノ觀察中ニ屬スル患者中ニ百八十三名ノ死亡者ヲ出シタリ

報告年度中ニ救護婦ノ訪問數ハ八千五十三回ナリキ此ノ訪問ニ際シ救護婦ハ患者並其ノ家族ニ適當ナル方法ニ於テ必要ナル防止處分ヲナスノ使命ヲ帶フ殊ニ排泄物ノ除却ニ關シ然リトス

患者カ自己獨有ノ唾壺ヲ有セサルトキハ珪瑯質ヲ以テ覆ヘル「ブリキ」製ノ唾壺(内容物アリ)ヲ無償ニテ交付セラル(報告年度中ニ場合百七個アリタリ)

其他救護婦ハ患者ノ洗濯物ノ取扱、室内ノ通風、塵埃ノ除去、住宅ノ清淨等ニ付患者ノ家族ニ示教スルノ職務ヲ有ス

救護婦ハ患者又ハ其ノ家族ニ他ノ方法ニテ爲シタル室ノ設備臥床ノ調製等ニ付建言スルノ必要ヲ生スルコト屢々アリ

實驗ハ救護婦ノ訪問カ實際上住宅維持ノ改善ヲ行フニ力アルモノナルコトヲ示シタリ救護婦ハ普通少クトモ一ヶ月一回訪問セラルヘキ重症者ニ特ニ注意ヲ拂フコトヲ要ス該婦人ハ一般ニ好シテ家族ヲ訪問ス而シテ獨身者ニシテ轉貸家屋ニ住スルモノニ限り困難ニ遇着ス此ノ場合ニ於テハ時々患者ニ請フテ訪問ヲ見合スコトアリ何トナレハ之レカ爲メ家屋貸主ハ彼等ノ疾病ニ付注意深クナリ且之ヲ救護婦ニ通知スルコトアレハナリ右ノ場合ニ於ケル處置ヲナスハ多ク氣轉及ヒ熟練ヲ要ス

結核所ノ實行シタル他ノ救護處置トシテハ患者カ他ノ人ト臥床ヲ共ニシ之レカ爲メ後者ニ危險ノ及フコト明ナルトキハ直チニ患者ニ臥床ヲ供給スルコト之ナリ報告年度ニ於テハ臥床總計百七個(第一第二結核所)ヲ患者ニ給與シタリ而シテ此ノ臥床ハ患者ニ貸與スルニアリテ救護婦ハ臥床ヲ供給スルノ當然ナルヤ否ヤヲ検査シ而シテ貸與ノ處置ヲ取ルナリ臥床使用ノ許可ヲ與ヘタル患者カ死亡シタルトキハ之ヲ返還ス此ノ返付セラレタル臥床ハ市消毒所ニテ消毒セラレ而シテ後再ヒ供給セラル又「シート」等ハ其ノ貸與前消毒洗濯セラル、モノトス

傳染病ノ蔓延ヲ防止スル爲メ患者ヲシテ一人一室ニ就寢セシムル様實驗セラレタリ夜間患者ヲ隔離スルコト不可能ナルトキハ臥床蓋ヲ貸與シ以テ少クトモ患者ノ一部の隔離ヲ行フナリ此ノ臥床蓋ハ白色ニ塗リタル鐵葉ヲ以テ製シ三重ニ疊得ヘク而シテ患者ニ一樣ニ貸與セラルヘキモノナリ報告年度ニ於テ臥床蓋二十二個ヲ貸出シタリ

結核所ハ單ニ被保險人ノミニ救護ヲ與フルニ非スシテ其ノ家族ニモ與フルモノナリ被保險人ハ令狀ニ依リ呼出サレ醫師ノ診斷ヲ受ケ而シテ結核ノ疑アルトキハ尙續テ後診ヲ受ク呼出ノ方法ハ結核患者ニ爲シタル手續ト異ナリ患者ニ出頭ノ自由ヲ與ヘ暫時ニシテ歸宅セシム而シテ結核所ノ醫師ノ手ヲ離レ以テ結核ノ傳播カ防止セラル、ナリ其他患者ハ何時ニテモ届出ツルノ自由ヲ有ス家族カ保險ニ加入セス而シテ立法ノ精神上各邦保險所ヨリ直接實行セラレ得サル救護處置ヲ必要トスルトキハ之ヲ結核所ニ於テ引受クルコト、ナリ居レリ茲ニ就中疑問トスヘキハ救貧管理ノ爲メ且財團法人トシテ設立セラレタル治療所及ヒ保養所ニ於ケル小兒ノ庇護之ナリ先年中結核所カ小兒八十八名ニ對シ治療所ノ庇護ヲ建言シ又大人二百二十一名ニ對シ市治療所ノ庇護カ申請セラレタリ病症進行シタル患者ニ對シ醫師カ入院治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ出來得ル限り之ヲ公立病院ニ赴カシムルナリ

左記一覽表ハ結核所ノ行動範圍ヲ示ス

診察ヲ受ケタル者……………六九九一人

 内 譯

 大人……………五六八九

 小 兒……………一四二三

右受診者中結核性ノ者……………三〇〇三

右受診者中傳染的ノ者……………九〇一

其他看護ヲ受ケタル年金受領者及ヒ「ペーリッツ」ヲ立退キタル被看護者……………一二九九

右ノ内傳染性ノ者……………五六四

死亡數……………二二二

救護婦ノ訪問數……………九〇四六

救護處置

 a. 「フォルマリン」消毒……………三六九

 b. 小消毒(根本的清淨)……………一一三

 c. 貸與臥床……………七七

 d. 貸與臥床蓋……………二三

 e. 交付睡壺……………一一〇

 f. 「ペーリッツ」ヘノ送致患者……………二三四

 g. 「リヒテンベルヒ」ヘ送致セル觀察患者……………一四

 h. 「ターゲスバチエント」トシテ「リヒテンベルヒ」ヘ送致シタル者……………三

 i. 大人ノ入所申請數……………三

治療所.....	二五七
森林保養所.....	四三
其他.....	一〇
k. 小兒ノ入所申請數	
治療所.....	九一
森林保養所.....	九
其他.....	二
賃借扶助	
一月.....	三四 ^人
二月.....	三七
三月.....	四九
四月.....	四八
五月.....	四七
六月.....	四八
七月.....	四四
八月.....	四七
九月.....	四七
十月.....	七五
十一月.....	八四
十二月.....	八七

一月.....	三二二 ^旅 、五〇
二月.....	三五七、五〇
三月.....	四六九、五〇
四月.....	四四八、〇〇
五月.....	四四八、五〇
六月.....	四六二、五〇
七月.....	四一八、五〇

八月.....	四四四、五〇
九月.....	四五五、五〇
十月.....	六八八、〇〇
十一月.....	七六五、〇〇
十二月.....	七八八、〇〇

「ザクセン」王國內務省ハ千九百十二年二月十五日付ヲ以テ最モ興味アル重要ナル省令ヲ發布シタリ「ザクセン」ニ於ケル救護所制度ノ發達ニ付同國高等官吏ヨリ示シタル報告ニ依レハ右省令中ニ相談所及ヒ救護所ノ施設及行動ノ合目的方法ニ付停止點ヲ示シ之カ爲メ結核豫防ノ行動範圍ヲ壓迫スルコトナク此ノ範圍ニ於テ十分ニ其行動ヲ進捗シ得ヘシ該省令ハ六月十五日伯林ニ於テ開催ノ第一救護所會議ニ於テ審議ノ結果複寫スルコト、ナレリ

四 其ノ他ノ撰擇ノ機會、觀察所

治療所ニ入所スヘク確定シタル患者ハ前篇ニ記載セル相談所及救護所其他獨逸國ニ存在スル四十四箇ノ外來患者病院(醫科大學研究所ノ外來患者臨床講義室ヲ除ク)ノ一ヲ撰擇スルコトヲ得而シテ外來患者病院ト救護所トノ差異ハ概ネ前者カ後者ノ拒絕スル患者ノ治療ヲ引受クルニアリ故ニ前者ノ二三ノモノハ治療所ニ收容シ得ヘキヤ疑ハシキ患者ヲ觀察スヘキ臥床ヲ備付居レリ

學校醫ト教師トカ就學兒童ノ結核ノ早期診斷ニ付キ共働シタルハ喜ハシキコトナリ獨逸ニ於ケル學校醫ノ數ハ益々増加シ現今約千二百乃至千五百名トナリ校醫ト教師トノ共働ハ益々密接トナリ吾人ニ幸福ヲ與ヘツ、アリ人口少ナキ場所及ヒ地方ニ於テハ郡ノ醫師ニ町村學校醫又ハ郡町村醫ノ職能ヲ委任シテ以テ學校醫ノ缺乏ヲ補ハント屢々試ミタリ此ノ事實ハ著シク進歩シタルモノト認メラルヘキモ學校醫ノ任用ハ切ニ要求セラレサルヘカラス而シテ校醫ノ行動ハ小學校ノミニ限ラス高等ノ學校及ヒ補習學校ニモ及ハサルヘカラズ

文事行政廳ニ肺結核ニ罹レル軍人軍屬ノ送致ハ昨年中増加シ且好果ヲ得タリ今獨逸軍醫雜誌第四十卷第九號三百二十八頁ニ軍醫ドクトル、ヘッテ、氏カ千九百十一年普王國陸軍第十二及十九軍團(ザクセン王國第一第二軍團)ノ範圍ニ於テ軍醫ノ診斷ニ依リ治療處分ヲナスノ必要アリト確定セラレタル人々ニ關シ掲記シタル立證ヲ舉クレハ左ノ如シ

氣管肢及肺ノ結核 骨及關節ノ結核 皮膚結核(狼瘡ヲ含ム)	徵兵検査ノ際發見シタルモノ		其他軍醫ノ診斷ニ際シ發見シタルモノ(兵役免除等)		總計	
	絕對數	總兵數ニ對スル「プロセント」	絕對數	總兵數ニ對スル「プロセント」	絕對數	總兵數ニ對スル「プロセント」
氣管肢及肺ノ結核	一一三六	一五・五	一六六	二六・七	一三〇二	一六・四〇
骨及關節ノ結核	二〇	〇・二七	三	〇・四八	二三	〇・二九
皮膚結核(狼瘡ヲ含ム)	三〇	〇・四一	四	〇・六四	三四	〇・四三

其ノ他ノ器官ノ結核	五	四	〇・六四	九	〇・一一
計	一一六一	一七七	一三六八		

肺病治療所ノ大多數ハ之ニ入所前進行性結核カ現存セサルニ入所後ニ於テ現出スルカ如キ患者又ハ生産能力カ回復セラレサル程度ニ迄疾病ノ進歩シタル患者ヲ送致サル、ヲ以テ惱ミツ、アリ此等ノ患者カ治療スヘキ結核性患者トシテ長期間入所シ居ラサルヘカラサルトキハ治療所理事ニ斯ル患者ヲ其ノ治療所ヨリ退所セシムルコトニ付思考セサルヘカラス之ヲ以テ保險所ハ特ニ收容スヘク必要アリヤ又ハ之ヲ收容スルハ目的ニ適スルヤ疑ハシキ患者ノ爲特ニ治療所以外ニ觀察所及ヒ經過觀察所ヲ設立シタリ即チ該所ハ一部ヲ救護所(「レムシャイド」ニ於ケルカ如シ)ニ又ハ外來患者病院内(伯林大學外來患者臨床講義室ニ於ケルカ如シ)ニ又ハ病院(トリール)及ヒ「シュレジエン」ニ於ケルカ如シ)ニ附屬シテ設置セラレシナリ

「ハンザ」同盟ニ加ハリタル都市伯林「シュレジエン」ニ於ケル二三ノ各邦保險所ノ如キハ病院内ニ觀察所ヲ設クルト共ニ又獨立ノ觀察所ヲ設立シタリ今「シュレジエン」ニ於ケル各邦保險所ノ爲シタル報告ヲ記載セハ左ノ如シ

千九百十一年中肺病治療志願者ニ對シ同州各邦保險所ノ觀察所二十四ヶ所ニ於テ七百五十六名ノ被保險人ヲ觀察シタリ而シテ此ノ觀察ニ依リ四百六十九名ヲ治療スヘク引受ケ百八十四名ヲ拒絕セサルヘカラ

サルニ至レリ之レ疾病カ己ニ治療シ能ハサル程度ニ進行シ居リシヲ以テナリ又八十名ハ殆ト疾病ナキ爲二十三名ハ他ノ事由ニ依リ拒絶セサルヘカラサルニ至レリ

其ノ他「シュレジエン」州ニ於ケル各邦保險所屬ノ「ブレスラウ」病院ノ結核所ニ於テ千九百十一年中肺病治療ニ關シ被保險人總數七百七十四名カ觀察セラレタルニ内四百七十六名ハ治療處置ヲ引受ケラレ百四十二名ハ之ヲ拒絶セラレサルヘカラサルニ至レリ之レ疾病カ治療ヲ施ス能ハサル程度ニ迄進行シ居リシヲ以テナリ又百二十六名ハ殆ント疾病ナキ爲三十名ハ他ノ事由ニ依リ拒絶セラレサルヘカラサリシナリ千九百十一年中「シュレジエン」ニ於ケル各邦保險所ノ診察所（被保險人タル「ブレスラウ」人ノ肺患者ノ爲メニ設ケラレタルモノ）ニ於テ總數九百七十五名カ巡回的ニ觀察セラレタリ此ノ巡回的觀察ニ依リ六百七十四名カ治療ヲ引受ケラレ三百一名ハ拒絶セラル、ノ止ムナキニ至レリ

千九百十年ニ於ケル「ブラレデンブルヒ」ノ各邦保險所ノ管理報告書ノ五十頁ニ左ノ如キ記事アリ
男患者ハ以前ノ通り報告年度中第二醫科大學病院ニ於テ女患者ハ王ノ慈善ニ依リ支持セラレタル肺病院ニ於テ診察セラレタリ而シテ此ノ病院ニ於ケル診察並沐浴等ニ對シ出費ヲ要セス又患者ハ各々一時の看護ヲ與ヘラルヘシ之ニ由リ保險所カ治療所ニ於ケル患者ノ觀察ニ依リ生スヘキ多大ノ費用ヲ節約シ得ルトキハ從來ノ通り前記肺病院ニ千五百麻克第二醫科大學病院ニ千九百十年ニ於テ三百麻克ノ補助ヲ付與シタリ然レトモ近時變更ヲ來シ男女患者ハ共ニ慈善病院ニ於テ診斷ト觀察トヲ受クルコト、ナリ尙同病

院ハ二千麻克ノ補助ヲ付與セラル、コト、ナレリ

伯林ニ於ケル各邦保險所ノ管理報告中ニ「リヒテンベルヒ」ニ於ケル觀察所ニ付キ次ノ如ク記載ス

千九百十年一月一日ヨリ同年十二月三十一日ニ至ル迄總計五百三十名ノ男子ヲ觀察所ニ收容シ内五百十七名ヲ退所セシメタリ而シテ此ノ五百十七名ノ内二百四十名ハ治療ヲ要スヘキ程度ノ結核性患者タルコト確定シ之レカ爲「ペーリッツ」ノ肺病治療所ニ引渡スコト、ナリ二百五十八名ハ治療處置ノ必要ナク十七名ハ他ノ疾病ノ爲又ハ肺疾ノ非常ニ進行シタル爲治療處置ヲ取ルヲ得サリシナリ即チ豫診ニ當リ癆疾ニ屬スヘキモノト認メラレタレハナリ患者中ノ四十五名ハ結核菌ノ存在ヲ示シタリ滞在期間ハ平均十一日ニシテ體量ノ増加ハ平均二基瓦ナリキ觀察ハ前年ト同法ニ於テ施行セラレ治療ノ結果短時日ナルニ拘ラス好成绩ヲ擧ケタリ即チ新鮮ナル空氣ヲ吸入シ得ル靜閑ナル場所ニ滞在シ且充分ノ營養ヲ攝取シタルヲ以テ一般ノ状態及ヒ體力ハ其ノ度ヲ高メ營養不良ノ状態ナリシモ比較的短時日ニ於テ著シク體量ヲ増加スルニ至レリ治療所ノ治療ヲ拒絶セラレタルモノハ通常六ヶ月ノ期限内ニ「ツベルクリン」注射所ニ於テ後診セラレタリ

「リヒテンベルヒ」ニ於ケル「ツベルクリン」注射所ニ關スル報告左ノ如シ

報告年度中「ペーリッツ」ノ肺病治療所ニ收容シ得ヘキヤ否ヤニ付豫診セラレタルモノハ八千八百九十五名ナリキ「リヒテンベルヒ」ニ於ケル結核所ニテ治療ヲ要スヘキ程度ニ於ケル結核患者アリヤ否ヤヲ確定

スヘク觀察スル爲ニ送致セラレタル男患者五百三十名アリキ其内二百四十四名ハ治療ノ必要ナキモノト認メラレ二百三十四名ハ肺治療所ニ引渡サレタル豫診ニ依リ直接肺治療所ニ引渡サレタル者總計三千百七十名ニシテ内千七百九十七名ハ男子ニシテ千三百七十三名ハ女子ナリ送致ノ原則ハ前年ノ夫レト同シ經驗上癩疾者トスヘカラサル初期患者ノ外又第二、三期ノ患者(特ニ有利ノ狀態ニ在レハ)ト雖診察醫ノ證明ニ依リ持久的生業能力ヲ回復シ得ル(多分)見込アラハ治療ヲ受クルコトヲ許サルヘシ又「ツベルクリン」注射所ニ收容ノ遲滞ニ由リ疾病ニ緊急ノ危險ヲ生スル場合ハ入所希望者ハ其ノ順位ニ拘ラス撰拔シテ「ペーリッツ」ノ肺病治療所ニ招致セラレタリ

効驗期間ヲ検査スル爲メ病勢ノ進行シタル患者ニ對シ正規ノ後診ヲ行ヘリ此ノ檢診ニ際シ治愈ノ結果ヲ確定スル爲メ再治療ノ必要ヲ生スルトキハ通例「リヒテンベルヒ」ニ於テ或ハ事情ニ依リ「ペーリッツ」ニ於テ特種ノ方法ヲ用ヒテ治療ヲ施サル、モノトス

ザクセン公國ニ於ケル各邦保險所ノ事業報告(千九百十一年)中ニ肺患者ノ觀察所ニ付左ノ如ク記載ス

當地ニ於ケル病院内ニ千九百九年設立シタル肺患者(治療處置ノ引受方ヲ申請セル)ニ對スル觀察所ハ其ノ効力ヲ示シタリ即チ千九百十年中男子百六十八名女子七十八名カ觀察セラレ内男子百四十名女子五十七名カ肺病治療所ニ於テ治療セラレ、事トナリ残り四十九名ハ同所ニ入所セシムルニ不適當トシテ排斥セラレタリ看護日數三千二百九十一日ニ對スル保險所ノ費用ハ八千七百麻克ヲ要シタリ肺病治療所ニ於

テ治療ヲナスノ不適當ナリト認メラレタル男患者ハ肺結核ニ非サリシヲ以テ概ネ「ロードベルヒ」ノ保養所ニ送致セラレタリ

當地ノ病院ハ一般ニ多忙ナルヲ以テ吾人ハ常ニ該病院内ニ六個ノ臥床ヲ用意スヘキ義務及ヒ之ヲ用意シ能ハサル場合ハ病院ノ管理費補填ノ爲メ毎日一麻克三十布ヲ支拂フヘキ義務ヲ負ハサルヘカラサリシナリ然レトモ吾人ノ管理セル場所ノ一カ空虚ナルコト稀ニシテ通例觀察ノ爲メ引渡サレタル患者ノ數ハ著シク増加シタリキ

「ライン」州ノ各邦保險所ハ患者ノ待合期間カ經過觀察所ノ増設ニ依リ短縮セラレサリト報告セリ而シテ「ゾンネンベルヒ」ニ於ケル治療所ニ對スル經過觀察所ハ「ウイットリッヒ」ノ慈善兄弟病院内ニ「ホルト」ニ於ケル治療所ニ對スルモノハ「コーブレンツ」ニ於ケル慈善兄弟病院内ニ「ホルト」ニ於ケル肺病治療所ニ對スルモノハ「エム、グラードバツハ」ニ於ケル加特力病院内ニ在リ千九百十年「ロスバツハ」ノ治療所ニ對シ「ホイエル」ニ於ケル「サンクト、ヨゼフ」病院及ヒ「コニルン」ニ於ケル「サンクト、アントニエース」病院内ニ「ワルドブライトバツハ」治療所(婦人用)ニ對シ「アンデルナッハ」ニ於ケル「サンカト、ヨゼフ」病院内ニ又「ホルステルハウゼン」治療所ニ對シ「テツセルドルフ」ニ於ケル一般病院内ニ經過觀察所カ設置セラレタリ「ライン」州ノ各邦保險所カ經過觀察所ヲ如何ニ重大視スルカハ該保險所ノ動議ニ依リ千九百十一年中央委員會ノ委員會議ニ於テ經過觀察所ノ設置問題ニ付商議セラレタルヲ以テ明ナリ

終ニ臨ミ醫學臨床講義ノ附録(千九百十二年發行第五號)中ニ記載セル「ロンスドルフ」治療所醫長ドクトル、グラウ氏ノ「國民治療所ノ撰擇」テフ「アルバイト」ヲ示サントス彼ノ「アルバイト」ノ結論トシテ「引喻的説明ナキ各場合ハ單獨ノ事件ニ依リ判斷セラレサルヘカラスト雖第一疾病ノ場合ハ治療所ニ於ケル治療ヲ必要トスルコト第二請求セラレタル好果ヲ約束スルコトヲ以テ最上ノ原則トスルコトヲ要ス」ト云ヘリ

五 診斷確定ノ方法

物理學上ノ診斷ハ從來ノ通り診斷確定ニ際シ根底トシテ認メラレサルヘカラスト此ノ關係ニ付テハ尙前報告中ニ記載シタルドクトル、リッテル氏ノ「肺結核ノ診斷及豫後ノ注意」テフ演述ニ示ス所ナリ
 嫌疑アル場合即チ初期ニ於テハ物理學上ノ診斷ヲ新方法ニ依リ完全ニ行フコトヲ得ヘシト雖ドモ就中「エッキス」光線(熟練シタル診察者カ診斷ヲ確定スルニ裨益スル處多キ)ヲ物理學上ノ診斷カ未タ確實ナル成績ヲ擧ケサル處ニ用ユルハ懸念スヘキ所ナリ特ニ氣管枝腺結核ニ於テ然リトス
 「ツベルクリン」ヲ診斷上ニ用ユル事ニ付テハ大體前報告ニ示シタリ結核治療醫ノ或ル者ハ診斷ノ爲ニ「ツベルクリン」ノ使用ヲ避ケントシ他ノ多數ハ此ノ藥劑ヲ各患者ニ使用セントス後者ハ不働結核ノ場合ハ「ツベルクリン」ニ反應ヲ呈スルコトヲ明ニ知ルト雖診斷ノ確定ニ對シ局部ノ反應ト思惟ス既ニ述ヘタル如ク小兒ニ「ビルクエ」ヲ施シタル後皮膚ノ反應ハ一般ニ確實ニ認メラル、モ成人ノ後ハ感覺鋭敏ナルヲ以テ之ヲ行フコト能ハス咯痰ノ検査(「アンチフォルミン」ノ處置ニ依リ實際ニ容易ニ且確實ニ行ハル)ハ從來ノ通

リ傳染性肺結核ノ診斷ヲナスニ必要ナル方法ナリ

ドクトル、エンゲル氏ハ「幼時ニ於ケル結核診斷學補遺」(千九百十一年發行ノ獨逸醫事週報第三十六號千六百三十七頁)テフ「アルバイト」ニ特ニ内部反應ヲ説明セリ

動物試験ニ依リ結核證明ノ新方法ハ「フランクフルト、アママイン」市立婦人科病院ノドクトル、オッペレハイマー氏ヨリ唱道セラレタリ同氏ハ此ノ方法ヲ以テ可成速ニ確實ニ且簡單ニ結核ノ證明ヲ得ンカ爲メ結核性物質ヲモルモットニ接種シ其ノ目的ヲ達シタリ該方法ヲ實行セントセハ千九百十一年發行ノ「ミニオン」醫事週報第四十一號ニ記載セル同人ノ演述ヲ一讀スヘシ

結核ニ付テノ論示

普國ニ於テ毎年死亡數ノ約八分ヲ占メツ、アル結核ハ傳染病ノ一ニシテ其ノ初期ハ治癒シ得ヘキモ遲期ニ於テハ通常該患者ヲシテ永キ癆衰ノ後死ニ至ラシム
 結核ノ傳染ハ千八百八十二年「コッホ」氏ノ發見シタル結核菌ニ依リ媒介セラル此結核菌ハ生體ニ於テノミ繁殖シ身體ヨリノ排泄ニ依リ轉移ス而シテ咳嗽ノ際病メル肺臟ヨリ出ツル多量ノ咯痰ニ混シテ排出セラル、モノナリ結核菌ハ乾燥シ粉飛シタル咯痰ニ依リ著シク蔓延シ身體ノ外部ニ附着シ乾燥状態ニ於テ數ヶ月間其ノ生命及ヒ傳染力ヲ保持スルトキハ一層危險ナリ
 各結核患者カ其周圍ニ與フル所ノ危險ハ左記ノ處置ニ依リ除却シ又ハ大ニ制限セラルヘシ

一、咳嗽ヲ爲スモノハ總テ自己ノ咯痰ヲ遠慮シテ他人ト交際セサルヘカラス何トナレハ何人モ其ノ咳嗽カ結核ノ疑アリヤ否ヤヲ知ラサレハナリ咳嗽ヲ爲スモノ床上ニ咯痰シ又ハ咯痰ヲ手巾ニ執ルコトヲ禁ス之レ咯痰カ床上又ハ手巾内ニテ乾固シ且粉末トナリ而シテ床上ニ飛散スル塵埃ト共ニ結核菌ヲ空氣中ニテ他人ニ傳ヘ且手巾ノ轉用ニ依リ又患者ト其ノ近衆トノ呼吸方法ニ依リ空氣ノ媒介ヲ以テ結核菌ヲ傳フレハナリ尙咳嗽ヲ爲スモノハ一部水ヲ容レタル唾壺内ニ咯痰セサルヘカラス此ノ唾壺ノ内容物ハ便所又ハ下水ニ流シ込ミ且容器ハ注意シテ清淨ニスルコトヲ要ス唾壺ニ砂又ハ之ト類似物ヲ充實スルコトハ排斥スヘキコトナリ何トナレハ之レカ爲咯痰粉化ヲ容易ナラシムレハナリ

二、常ニ多人數カ交通シ又ハ止宿スル廣濶ナル家屋例ヘハ旅人宿、舞踏場、普通病院、疫病院、貧育院、孤兒院、各種ノ工場ノ如キハ一部水ヲ充セル唾壺ヲ充分ニ備ヘ付ケ之ヲ乾溜セシムルコトナク尙濕布ヲ以テ之ヲ清潔ニシ且充分ニ大氣ニ曝スコトヲ要ス

三、結核患者ノ使用シタル病室ハ特ニ注意シテ正規ノ濕的清淨及ヒ充分ノ通風ヲ要ス

但結核患者ノ退去シ又ハ死亡シタル後病室ハ清淨ニナスノミナラス根本的ニ消毒スルヲ要ス寢臺ニ近キ壁及ヒ床ハ特ニ注意スルコトヲ要ス

四、結核患者ノ使用物(衣服、洗濯物、寢臺等)ハ之ヲ使用スルニ先チ充分ニ消毒スルコトヲ要ス

五、營養品及ヒ嗜好品ノ販賣人トシテ結核患者ヲ使用セサルコトヲ要ス又住室寢室ハ決シテ商品ノ置場

トシテ兼テ利用スヘカラス

六、又結核牛ノ乳汁ヲ用キテ結核カ傳播スルコトアリ故ニ正ニ健康ナラサル牛ノ乳汁ハ結核菌ヲ撲滅スヘキ調理ノ後味フコトヲ要ス

郡長

演述ヲ補助センカ爲メ中央委員會ハ寫眞蒐集ヲ持續シ居リタリ此ノ寫眞ハ從來ノ通り無償ニテ貸付セラレ又「ライン」州並「バイエルン」國地方組合及ヒ其他ノ保險所ハ無償ニテ借り得ラルヘキ寫眞集ヲ備付ケ居リ

幼時ニ於ケル結核豫防

少クトモ結核傳染ノ大部分ハ既ニ幼時ニ於テ胚胎ストノ新シキ研究ニ基キ數年以降既ニ傳染病ニ對スル豫防上ノ處置ヲ出來得ル丈早ク幼時ニ於テ執ルヘク一般ノ要求アリタリ保險所及疾病救助基金ハ法律上其ノ金錢ヲ小兒結核ニ對スル豫防處置ノ爲メニ使用スルノ義務ナク又帝國及各邦ハ現今ノ財政狀態ニテハ此ノ目的ノ爲メ多額ヲ消費スルノ境遇ニ在ラサルヲ以テ通常町村及地方團體ヨリ豫防費カ求メラルコト、ナリ居レリ之レ豫防處置ニ依リ將來町村等ノ貧民管理上ノ豫算ニ大ナル節約ヲ生スレハナリ之ヲ理解シ居ルヲ以テ町村ハ實ニ益々幼時ニ於ケル結核豫防ヲ引受ケ而シテ多額ノ費用ヲ支出シツ、アリ

幼時ニ於ケル結核豫防ノ爲メ學校醫ヲ設クルハ如何ニ重大ナル任務ナルヤハ明了ナリ右ニ付テハ既ニ此一

報告書及ヒ前報告書ニ記載セリ茲ニ尙郡醫ドクトル、「ドールン」氏(ハンノーフェル)カ諸郡ニ於ケル個人的衛生ノ範圍ニ於テ福利的施設ニ付キ爲シタル演述(地方經濟及地方政策雜誌ニ掲載シタルモノ)ヲ再ヒ左ニ掲載セン

地方ニ於ケル衛生状態ヲ高メ且尙一層民力ノ富メル資本ヲ管理スルノ最善方法ハ就學兒童ニ毎年醫師ノ診斷(既ニ數年以降都市ニ於テ行ヒツ、アリ)ヲ受ケサシムルニアリ地方人ハ醫師ノ注意ニ付テハ數歩ニテ近隣ノ醫師ニ至リ又ハ一布タモ費サスシテ最善ノ外來患者臨床講議室ヲ訪問スル市民ヨリモ寧ロ甚タ劣レルナリ之ヲ以テ校醫ノ最初ノ診斷ニ際シ隠レタル疾病状態カ發見セラル、ハ怪ムニ足ラサルナリ斯クシテ余ハ未タ曾テ醫師ノ診斷ヲ受ケサル口蓋破裂(流動食物ノ一部ハ鼻ヨリ流出ス)ノ小兒ヲ發見シタリ又小兒ニシテ學校ニ於テ殆ト授業ヲ受クル能ハサル程度ノ近視眼、重聽、言語及ヒ聽官ニ重大ナル障礙ヲ來シタル未治ノ扁桃腺ノ膨大、危險ナル盲目、肺加答兒等ニ罹レルモノアリ之等ヲ救助スルハ實ニ感謝スヘキ事業ニシテ後世ニ於ケル家族、市町村及國家ノ負擔ヲ減却シ國民ノ健康及ヒ一般ノ國防力ニ利益ヲ與フルヤ疑ナシ

就學兒童ノ診斷ニ依リ多少後世ノ人々ハ年々健康トナリ而シテ健康ニシテ合理的ノ渡世ヲ爲シ得ヘキ國家カ建設セラル、ニ至ル常ニ兒童カ清淨、齒牙ノ手當、合理的營養等ノ有益ナルコトヲ示教セラレ且具體的ニ衛生上ノ過失ヲ紹介セラル、ノトキハ此ノ倦マサル教訓ハ漸次衛生上ノ「レベル」ヲ高上スルニ裨

益スル處アラサルヘカラス

吾人ハ地方ニ於テ清淨ナル空氣及ヒヨリ善キ食物ヲ攝取スト雖都市ニ於ケルヨリハ寧ロ徐々ニ減却セル結核ヲ地上ヨリ除去スル爲絕對的ニ學校醫ノ診斷ヲ要ス口蓋破裂ノ爲ニ口ヲ開キテ馳セ廻ハリ且不注意ニモ寒冷ニシテ塵埃ヲ含メル空氣ヲ吸入スル兒童ハ漸次慢性氣管支加答兒ニ罹リ後結核菌ノ移植ニ好機會ヲ與ヘサルヘカラサルニ至リ食物缺乏ノ爲メ貧血シ且營養不良トナリ爲メニ危險ナル敵ニ對シ充分ナル抵抗力ヲ有セサル兒童モ亦同シ此等ノ兒童カ轉地療養ニ依リ治癒シ且之レカ爲メニ永久利益ヲ得ルヲ見ルハ喜ハシキ事ナリ

ドクトル「ウォルフガング、エルンスト」氏ハ「キール」ニ於ケル市助手醫ノ行動及學校醫ノ勤務テフ報告中ニ兒童ノ診斷ニ付テ次ノ如ク述ヘタリ

呼吸膨張(深呼吸ニ際シ量リタル胸圍ノ差)欄記載ノ數ハ尙説明ヲ要ス此ノ胸圍ノ差ハ三、六乃至六、五「センチメートル」ノ間ヲ動搖シ平均五「センチメートル」ニシテ胸圍ニ依リ量リタル胸廓ノ最大膨張ハ三、六「センチメートル」以上ヲ以テ普通トセサルヘカラス然レトモ診斷ヲ受ケタル總人員ノ一二、七「プロセント」ハ胸圍ノ差三「センチメートル」ニ達セサルコトヲ確定シタリ此ノ數字ハ吾人ノ最モ必要トスヘキ器官ノ一タル肺臟カ九ケ年間ノ通學ノ後即チ男兒カ生業ニ就クノ時及ヒ結核カ彼等ニ多數ノ犠牲ヲ要求スル時代ニ於テ如何ニ發育シ且練習シタルヤノ尺度ヲ示スコトヲ理解スル人ヲシテ同意セシメサル

ヘカラス又學校カ明ニ小兒ノ多數ニ對シ體操及ヒ就中十分間ノ練習(系統的呼吸體操ニ依リ成長セル幼年者ヲシテ其ノ生業能力及生命ニ恐怖スヘキ結果ヲ來スヘキ敵即チ結核ニ對シ抵抗能力ヲ有セシム)ヲ課スヘキ任務ヲ實行セサリシコトハ何人モ明言スル處ナラサルヘカラス

十五名ノ學生ニ付肺臟ノ診斷ヲナセルニ其ノ一、七「プロセント」ハ殆ト肺炎ニ變化ヲ來シ且打診短縮ニ依リ呼吸音ノ變化ヲ特表シタリ其他確ニ三度濁音ヲ聽キタリ

結核ノ主タル感染ハ既ニ幼時ニ於テ生ステフ新シキ而モ常ニ多クノ同志者ノ唱フル意見ニ關シ興味アル文章ヲ以テ表示セルモノニ「三アリ即チ「ミュンヘン」醫事週報(千九百十一年發行第三十八號二千二十四頁)ニ於ケル報告中ニ「ルードルフ、ボラック」氏(維納)カ「結核性媒間體ニ於ケル小兒」テフ題下ニ左記ノ見地ヲ代表シ居レリ

數多ノ臨床的實驗ニ基キ「ボラック」氏ハ小兒(十四才未滿)ノ結核ニ付左ノ如ク結論ス

媒間體(此ノ内ニハ結核感染者アリ)ニテ生存スル兒童ノ殆ト總テハ「ツベルクリン」ニ積極的反應ヲ呈ス第一年齡期(約四歳未滿)中ニ結核病ニ感染スル小兒ハ多ク臨床上一明ニ結核病ニ罹レリ第一年齡期ヲ越ヘタル小兒ハ結核病ニ感染後普通何等明ナル徵候ヲ示サス而シテ感染ノ爲メ通常其ノ發達ヲ障礙セラル、コトナシ結核性素因ハ殆ト第一年齡期ニ於テ感染シタル小兒ノミニ存ス第一年齡期ヲ越ヘタル小兒ノ結核ノ表現ハ殆ト第一年齡期ニ於ケル感染ノ再發ト見做ス第一年齡期ヲ超過シタル小兒ハ外見上ニ年齡ト

共ニ増進スヘキ確實ナル結核病タルコトヲ示ス故ニ結核豫防ニ於ケル處置ハ第一年齡期ニ於ケル小兒ヲ結核病ニ感染セシメサルニアリ

市事務官醫學士「アー、ゴットスタイン」氏ハ其ノ屢々引用シタル記録中ニ左ノ如ク述ヘタリ

結核病ハ幼時ニ胚胎ス一度腺内ニ入りタル結核菌ハ骨内及腺内ニ分域シ留マルモノナリ故ヲ以テ小兒時代ニ於テ著シク傳播シタルモ比較的徐々ニ蔓延スヘキ且生命ニハ危險ナキ(明ニ結核トナルハ稀ナリ)疾病ハ生業能力ヲ有スル時代ニ再發ス之レ職業ノ關係上傳染ノ危險アル感染者ヲ追放セス且既ニ感染シタル身體ニ更ニ傳染セシメサル様爲サ、リシヲ以テナリ兎ニ角生業能力ヲ有スル時代ノ進行性結核病ハ幼時ニ於テ得タル局部ニ靜止セル結核ノ存續ニ過キス

幼時ノ結核ハ病理解剖ノ研究及診斷的「ツベルクリン」ノ接種ノ最近方法カ證明シタル如ク大都市及數縣ノ中流社會ニ於ケル國民ニ恐ロシク蔓延シ居レリ小兒ノ年齢ノ増加ト共ニ感染者ノ數ハ五十乃至八十「プロセント」以上ニ達セリ

又此等ノ幼年者カ何處ヨリ傳染素ヲ吸收シタルヤト問フモノアラハ余ハ共同生活ヲナセル周圍ノ人ヨリ直接ニ吸收シタリト答ヘン幼年時代ノ結核病ハ確ニ轉徒的疾疾ニシテ主トシテ狹隘ナル場所ニ詰込マルタル家族ノ小兒ニ存在シテ明ニ結核病ニ罹レルナリ

ドクトル、「ユーリエース、チトロン」氏(伯林)ハ「免疫研究ノ現今ノ狀況ニ伴フ結核病ニ對スル抵抗力ノ増

加ニ付テ」テフ「アルバイト」ニ於テ幼時結核ニ感染シタル小兒ノ處置ニ關シ第三條乃至第五條ノ結果ヲ得タリ

第三條 結核ニ感染シタル有機體ノ治療ハ「ツベルクリン」特ニ新「ツベルクリン」BEヲ用ヒテ何等臨床上變化ヲ來サスト雖強度ノ解毒體ノ產出及ヒ結核感染ニ對スル抵抗力ノ増加ヲ來ス

第四條 結核ノ感染ハ多クノ場合幼時ニ生シ而シテ四歳乃至十四歳ノ間ニ始メテ診斷上確認セラレハ抵抗力ヲ増加センカ爲ニ施ス新「ツベルクリン」ノ治療ハ「ビルクエト」反應カ先ツ積極ヲ示シ臨床上ノ健康カ尙完全ナル時ニ開始セラレサルヘカラス

第五條 明ニ結核病ニ罹リタル家族ノ小兒ハ總テ其ノ抵抗力ヲ増加セサルヘカラス
勿論嬰兒及ヒ小兒ノ營養良好、母ノ哺乳及ヒ敎訓ニ關スル所有努力ハ間接ニ結核ノ豫防ヲ補助スルモノナリ之ニ關シ特ニ近來小兒ノ食物トシ山羊乳ヲ用ユヘシテフ唱道ニ付記載スヘシ良好ニシテ賞賛スヘキ牛乳ヲ調達スルコト困難ナレハ從テ喜ンテ山羊乳(各種ノ方法ヲ以テ獎勵セラル、トキハ)ヲ歡迎スヘシ小兒科ノ醫師ハ既ニ山羊乳ハ嬰兒ノミニ最善ナル營養物ナルノミナラス小兒ニ對シテモ同様ナリトシ之ヲ推舉シ居レリ前者ニ對シテハ實ニ母乳ノ補充トシテ最善ナルモノナリト云ヘリ然レトモ國民ノ多數ハ山羊乳ニ對シ甚シク嫌惡シ居レリ之レ内國產ノ山羊種ノ乳汁ハ厭味ヲ有スルト山羊ノ飼養及其ノ厩舎ノ手入宜シカラサルトニ起因ス而シテ瑞西種ノ山羊ヲ飼養シ之ヲ常ニ厩舎ニ繋留セス出來得ル丈解放シ運動セシムレハ右

ノ厭味ヲ全然除去シ得ヘキコトヲ知ルモノナシ飼料ノ撰擇ハ乳味ニ關係スルコト勿論ナリ又山羊ハ厩舎ノミニ繋留セシテ戶外又ハ清潔ナル室ニテ搾乳セラレサルヘカラス之レ乳汁カ周圍ノ臭氣ヲ吸收スレハナリ其他山羊ハ通常結核ニ罹ルコトナク又飼料ヲ與ヘ且養育スルニ面倒ナラサルヲ以テ貧人ト雖容易ニ之ヲ飼養スルコトヲ得ヘシ右ノ事實ハ乳汁搾取業ノ増加ノ爲メ小兒ノ著シキ營養不良ヲ不愉快ニ感スル地方ニ於テハ特ニ價值アルナリ之レ斯ル乳汁搾取所ノ多キ土地ノ小兒ハ安價ナル乳汁ヲ以テ養ハル、コトヲ得レハナリ營養不良ノ小兒カ幼稚ナレハ幼稚ナル程結核病ニ感染シ易キハ明ナル事實ナリ
右ノ故ヲ以テ數多ノ郡特ニ工業地ニ於テ其ノ郡長ハ家畜飼養組合ヲ創設シ且成績優等ナル飼養者ヲ賞與スル等ニ依リ山羊飼養ヲ獎勵シタリ斯ル努力ヲ出來得ル丈國家ヨリ扶助セラレ且獎勵セラレンコトヲ切ニ希望ス又聰明ナル農夫及ヒ乳汁生産者ハ善良ナル乳汁ヲ得ルニ最モ困難トセル大都市ノ秩序的扶助ヲ受ケテ右ノ實驗ヲナスコト切要ナリ斯クノ如クニシテ始メテ幼時ニ於ケル結核病ノ發生ヲ豫防スルノ新法カ發見セララル、コト、ナラン

學校ニ於ケル結核豫防ニ必要ナル處置ハ本年三月「セーネベルヒ」市ノ市會カ爲シタル「明ニ肺結核、咽喉結核ニ感染シタル敎師ハ如何ナル場合ニテモ敎授セシメス」テフ決議ニ依リ執行セラレタリ而シテ敎師ノ疾病カ正ニ結核ト確定スル迄ハ恩給ヲ付與セララル、コト、ナレリ

先年ノ報告書ニ記載セラレタル學校ニ於ケル間時體操及ヒ呼吸練習ノ豫防的處置ニ關シテハ尙敎師ト醫師

トノ間ニ意見ヲ異ニセリコハ主トシテ教師カ合同的方法ニ付キ充分教授セス且此ノ方法ヲ學校ニ於テ系統的ニ應用セサルニ歸因スドクトル、ペー、シヨルネル氏(ドレスデン)及ヒドレスデン市第四十區學校ノ教師「フリードリッヒ、リヒター」氏ハ「體操及ヒ唱歌ノ授業及十分間體操ニ於ケル深呼吸練習」ト稱スル書ヲ著シ以テ前記ノ必要ヲ述ヘタリ著者ハ其ノ方法ヲ千九百十一年六月開催ノドレスデン市教師團及ヒ體操教師團聯合會ノ會議ニ於テ演述シ且實驗シタリ此ノ著書ハ小冊子ニシテ一覽圖ヲ添付ス又ドレスデン市エルネマン商會ハ呼吸練習ヲ活動寫眞ニ仕組ミ之ヲ貸與シ居レリ

森林學校及ヒ森林保養所ハ今尙小兒ノ結核豫防ニ大ナル好果アルモ後者ハ前記報告ヲ否認スルコトアリ前者ニ付テハ左記ノ報告ヲ掲ケン「エルベフェルダ」公安團ハ「ブルグホルツ」ニ於ケル森林學校ニ付次ノ如ク報告(千九百十一年)セリ

森林學校ハ二百二日間開校シ第三、四、五學年ニ於ケル少女九十八名男兒八十二名ヲ收容シ此等總人員ノ養育日數ハ一萬八千六百八十七日ナリキ而シテ右ノ小兒六十二名ハ夏期中學校寄宿舎ニ起臥シタリ其ノ内三十四名ハ完全ニ其健康ヲ回復シタルヲ以テ該學校ハ好果アルモノト稱セラル、ニ至リタル或ル小兒ハ體量十七「ポント」ヲ増加セリ同校ハ千九百七年開校以來總計八百十四名ノ小兒ヲ收容シタリ而シテ市參事會ヨリ五千麻克匿名寄贈者ヨリ一萬麻克消費組合「フライウング」ヨリ五百麻克、音樂協會「アルマニア」ノ合奏會ノ收入ヨリ六百五十麻克ノ寄附及ヒ其他施與ヲ受ケタリ又同校ハ増築セラレタルヲ以

テ從來二十四人ヲ收容シタリシモ今年ニ至リ四十八名ヲ收容シ夜間森林中ノ空氣ヲ吸入セシメ得ルコト、ナレリ同校ハ千九百十一年中同校關係者ヨリ訪問ヲ受ケ又樞密醫事々務官ドクトル、ポールントレーガー氏(デュッセルドルフ)ノ案内ニテ「デュッセルドルフ」ノ郡醫ヨリ「エルベルフェルド」ニ於ケル幼年看護會議ノ關與者ヨリ中央國民幸福所ヨリ縣事務官學務官「ライネルト」氏ヨリ又「ハンブルヒ」市ノ委任ヲ受ケタル同地ノ國民教育監督官「マイエル」氏ヨリ訪問ヲ受ケタリ「マイエル」氏ハ其著書中ニ明ニ「獨逸森林學校」ト記載シ居レリ

高等教育ヲ授クヘキ生徒ノ爲メニ設ケラレタル「シャトロットンブルヒ」ノ森林學校ニ付テ同市學校醫ドクトル、ノイフェルト氏ハ伯林ノ學校衛生組合會ノ席上ニ於テ左ノ如ク述ヘタリ

貧血、神經病、肺臟、虛弱ノ小兒ハ精勵シテ授業ヲ受クルモ醫師ノ勸告ニ依リ屢々退學セサルヘカラサルニ至ル富家ノ小兒ハ家庭教師ヲ伴ヒ海邊又ハ山中ニ又ハ適當ノ私立病院ニ赴キ小兒ノ爲メニ多額ノ費用ヲ支出シ能ハサル兩親ヲ有スル中流社會ノ小兒ハ半箇年乃至一箇年間學校ニ留マル千九百四年ニ於テ開校シタル「シャトロットンブルヒ」ノ森林學校ハ多クノ困難(教育方法教授案教科書等ノ差異ノ如キ)アリシニモ拘ラス其成績良好ナリシヲ以テ先年又高等教育程度ノ虛弱兒童ノ爲メニ森林學校カ建設セラレタリ同校ハ六學級ニ分レ男兒及ヒ女兒ヲ合併シテ教授シ而モ好果ヲ得タリ而シテ教授案ヲ短縮シ八時ヨリ十時迄十一時半ヨリ一時迄半時間宛ノ教授ヲ施シ小兒ノ一半ヲ教授スル間他ノ一半ハ宿題ヲ爲スコト、

セリ教授ハ郊外又ハ假舎ニ於テ行ヒ雨天ニ際シテハ「バラック」内ニ於テ行ヘリ小兒ハ午前八時ニ教師ニ引卒セラレ市街鐵道ノ便ニ依リ學校ニ來リ戶外ニテ朝食晝食添飯(ヤツ)及晩食ヲナシ午後六時教師ニ引卒セラレ各々歸宅ス之ヲ以テ小兒ハ其ノ兩親ト疎遠ナラス水曜日ノ午後並日曜日ハ全然自由ナリ斯クシテ小兒ハ全部健康回復シ元學級ニ歸リ多クハ良好ニ進行シタリ然レトモ二三ノ小兒ハ冬期ニ於テ再ヒ森林學校ニ來ルコト、ナリ爲メニ同校カ年中開校セラル、ヲ欲スル者アルニ至レリ又下等社會ノ爲ニ森林學校ノ増築ヲ計畫シ且之ヲ小兒ノ兩親ノ申請ニ依リ速ニ開校セント希望スル者アリ

就學中小兒ノ爲ニ幾分カ注意ヲ拂ヒタルトキハ學校ヨリ退校ヲ命セラレタル後治療所ノ治療ヲ受ケタル小兒ニ對スル保護ニ不足ヲ生スルコト必然ナリ結核ニ罹リ易キ境遇ニアル小兒ニ對スル職業ノ撰擇カ重要ナルコトハ既ニ述ヘタリ然レトモ治療所ニ在リタル小兒ハ衛生上全然有害ナラサル職業ヲ得ルコトヲ得ス故ニ赤十字ノ國民治療所組合ハ其ノ治療所ニ於テ健康トナリ解放スヘキ且就學義務ヲ有セサル小兒ノ爲メ工業學校ヲ治療所ニ附設スヘク計畫シタリ之ヲ以テ男兒及女兒ハ此處ニテ彼等ノ健康ニ害ナキ數種ノ職業教育ヲ受ケ得ヘシ

彼等ハ此處ニテ幾分カ不健康ナル工場ノ下ニ普通ノ業務ヲ修業セシメラレ且各種ノ健康上有害ナル副業ヲ以テ負擔セシメラル、徒弟時代ヲ衛生上有害ナラサル條件ノ下ニ赦免セラレ且其際如何ニセハ自己ノ職業ヲ未來ニ於テ健康ニ害ナク遂行シ得ヘキヤヲ教示セラルヘシ女兒ハ調理及ヒ家内勞働ニ付根本的ニ教育ヲ受ケ得ヘシ

施サルヘキ家政學校ヲ卒業シ後其ノ才能能力ニ從ヒ精美ナル刺繡粗末ナル刺繡又ハ裁縫ノ教育ヲ受ケ而シテ女兒ノ多數ハ數年間治療所ニ滞在スルノ義務ヲ負ヘリ男兒ニ對シテハ農業上ノ業務及ヒ園丁的業務カ多クノ機會ヲ與フヘキ園丁職ノミニ關スル教育カ豫メ施サル、ナリ然レトモ亦他ノ勞働的職業カ與ヘラル、コトアリ

都市ノ就學兒童ヲ夜間危險ナル周圍ノ患者ヨリ隔離シ且祖國ノ婦人團カ設立セル治療所ノ庭園地ニ於ケル衛生上有害ナラサル寢室内ニ寄宿セシムルテフ市醫ノ實驗ハ好果ヲ奏シタリ

兒童ノ救護ハ概シテ良好ナル進歩ヲ爲スモ尙必要ナルモノハ地方ニ於テ兒童ノ結核感染ノ傳播ニ付系統的診斷ヲナスコト及其ノ豫防處置之ナリ

退校セル幼年者ニ對スル救護主タル看護及身體ノ練習

從來結核豫防ハ主トシテ小兒ノ在學時代ニ限ラレ退校後ヨリ保險義務ヲ負フヘキ年齢ニ至ル間全然懸念セラレサリキ然レトモ此ノ期間ハ殊ニ救護ヲ必要トス何トナレハ此ノ時期ノ青年ハ兩親ノ膝下ヲ辭シ職業ニ就クノ時ナレハナリ既ニ發達年齢期ニ達スレハ肉體上ノ強求ヲ増進スルハ實際ナリ特ニ少女ニ於テ然リトス即チ新シク撰擇シタル職業ニ於ケル勞働給付ノ増加、更新セル養育條件及ヒ生活條件ノ満足ヲ強求シ且幼年者カ大人ト交際シ大ニ風俗上ノ危險ヲ生スルニ至ル是レカ爲メ精神風氣及肉體上ニ於テ幼年看護ヲ獎勵センカ爲メ就中肉體上ノ訓育及強壯ヲ目的トセル所有努力ハ爲サレタリ結核患者ニ接近セル者及ヒ結核

嫌疑者ニ對スル幼年救護ニ關シ「セーネベルヒ」市ニ於ケル「アウグステ、ビクトリア」病院ノ解剖學助教「カール、ハルト」氏ハ「結核豫防上ヨリ見タル退校幼年者ノ肉體教育」ヲフ小冊子ニ極力微證シ居レリ同氏ハ先ツ肺結核ノ發生ニ對スル解剖學上ノ原則ヲ述ヘ且幼時ニ於テ適用シタル豫防上ノ處置ヲ特ニ胸廓及肺臟ニ及ホシテ善良ナル發達ヲ爲サシムルコト及ヒ此ノ處置ヲ退校幼年者ニ及ホシ且成年者ノ學校ニ適用スルノミナラス又體操遊藝ニ依リ身體看護ノ練習カ高齡ニ達スルモ尙行ハル、様極力注意ヲ促セリ

結核豫防ニ對スル勞働園ノ意義其ノ擴張ニ付テハ先年既ニ報告セラレタリ又勞働者ノ結核ヲ防禦スルニ適當ナル特種ノ改革及ヒ「スワットガルト」ノ勞働組合カ設立シタル「勞働者森林院」ニ付「社會衛生及ヒ實踐醫學」(第十二卷七號)ニ左ノ如キ報告アリ

「スワットガルト」ノ森林院ハ其ノ初メ小規模ナリシモ其ノ後發達シタリ同院ハ千九百九年四月ノ創立ニ係リ其當時ニ於ケル敷地ハ二百平方「メートル」ノ草地(内ニ若干ノ果樹ヲ有ス)ニシテ一二ノ粗末ナル木製ノ机、腰掛及ヒ粗末ナル露店カ營造物ヲ形成シ居リシカ現今ニ至リテハ其ノ面積一萬八千平方「メートル」トナリ其ノ内五十平方「メートル」ハ大森林ナリ又同面積ノ水草地アリ二個ノ大館ハ天候不良ノ際入院者一千名以上ヲ保護スルニ足ル運動場ニハ「ブランコ」攀登木等ヲ備ヘ成長シツ、アル幼年者ノ爲メニ横架横木其ノ他運動具ヲ準備ス其他「クリケット」拳闘、銀廻シ、舞蹈等ノ遊戯ハ勝手ニ行フコトヲ得夏期ハ劇場ヲ設ケ幼年團ハ通俗喜劇ヲ演ス其ノ間小兒ハ適當ナル伴侶ノ指揮ニ從ヒ「アドケ」ナキ演戲ヲ

ナス食物ハ主トシテ携帯スヘキコト、ナリ居ルモ之ヲ携帯セサルモノハ同院ヨリ極メテ廉價ニテ之ヲ購入スルコトヲ得ヘシ組合ハ主トシテ「ハンブルヒ」製ノ肉製食物ヲ仕入レ居レリ食事ハ自費ヲ以テ處辨ス麥酒「スワービアン」酒「リモナーデ」等飲料ノ價格ハ甚タ低廉ニシテ消費ノ強制ハ禁セラル

森林院ノ管理者ハ名譽職ニシテ會計部長財産部長及運動部長ハ上級監督者ナリ各組合員ハ理事ノ請求ニ依リ共働スヘキ義務ヲ負フ日曜日ニ於ケル同院訪問者ノ數ハ通常五千名ヲ超過ス同院ニ於ケル諸設備ノ損害ハ私人經營ノ夫レヨリハ甚タ少ナシ

賃借料、負債償却金、租税ノ支出ハ一ケ年入院券ノ代金ヲ以テ填補セラル而シテ十八歳未満ノ小兒ヲ有スル家族ノ一ケ年入院券ノ代金ハ二十布トス該券ハ主トシテ組合員タルコトヲ證明ス先年ニ於テハ該券一萬二千枚ヲ組合員ニ交付シタリ

權利能力ヲ取得スル爲ニ森林院ハ登録ヲ受ケタル組合ノ形式ヲ取ルニ至レリ同院ノ收益カ支出ヲ填補セナルトキハ社團的組合ノ増加費用ハ其組合員ノ數ニ應シ分賦スルヲ要ス先年中森林院ハ而モ夏期半ケ年間ノ日曜祭日ニ於テ三萬麻克ノ商業ヲ營メリ

「スワットガルト」市ノ勞働者カ森林院ノ創造ヲ以テ誇リトスルハ當然ナリ

交通制度ニ於ケル處置

交通制度ニ於テ記載スヘキ新事實ナシ鐵道廳ニテハ常ニ客車ノ掃除及清淨保持ニ大ナル注意ヲ拂ヒ特ニ眞

空装置ヲ適用ス

一七二

列車中ノ客車ニ置キタル唾壺ハ再ヒ除却セラルル此唾壺ヲ置クハ過失ナルコトヲ證シ且車窓ニ倚リテ坐セル旅行者ハ之ヲ以テ煩ハシトナシタリ之レカ爲メ客車内ニ噴唾禁止ノ揭示板ヲ掲ケタリ
勞働者保護ノ處置、食物ニ依レル結核傳播ニ對スル處置並結核ト酒精亂用トノ關係ニ付テハ記載スヘキ新事實ナシ之レ既ニ前報告書ニ示ス處ナレハナリ

中流社會ニ於ケル結核豫防ニ就テ(演述)

「ヘツセン」大公國地方保險所理事長

樞密事務官　ドクトル、ヂーツ氏

客年一月五日内務省ニ於テ討論ノ結果結核病豫防ニ付テ特ニ努力セラレツ、アル人々ニ招待狀ヲ發シタリ此ノ討論ニ諸種ノ營業組合ノ代表者ハ關與シタリシナリ而シテ該討論ノ目的ハ如何ニセハ從來特ニ被保險人ニ好果アリタル治療所ニ於ケル治療カ中流社會ニ迄及ホサルヘキヤノ方法ヲ研究スルニアリキ事務官ドクトル、ベルグマン氏ハ先ツ報告シテ總テノ方面ヨリ疑問ヲ明ニシ而シテ中流社會ノ全部ハ一致シテ總テ特種ノ努力ヲ度外視シ自衛事業ニ協力セサルヘカラサルノ結論ヲ與ヘタリ今協力スヘキモノヲ指命セハ救護團、福利院、獨逸生命保險所組合、商業營業工業ノ諸團體同業組合、農業教師及官吏ノ組合、婦人團等ナリ

全問題ヲ解決スル爲メニ組織參事會ノ成立ヲ見タリ而シテ同會ノ職務ハ數多ノ組合團ニ結核病及ヒ其豫防ニ就テ知ラシメ且中流社會ノ合同カ爲シタル或ハ爲スヘキ處置ヲ統括スルニアリ特ニ扶助及ヒ保護ヲ附與シ或ハ中流社會治療所ヲ建設スルニ要スル共同基金ヲ設クニアリ此ノ金錢ノ調達ニ付テ動議アリテ直チニ中流社會治療所ヲ建設セント云フニ至レリ

右ノ準備ニ關シテハ事務執行參事會ニ委任シタリ而シテ既ニ一月二十五日ニ於テ赤十字ノ國民治療所團ノ第十四部ハ「ミツテルスタンドライメ」ノ名稱ヲ以テ創立セラレタリ當部ハ「ホーエンリーヘン」ニ於ケル既設病院ノ附屬トシテ危險性結核病ニ罹レル中流社會ノ所屬員保護ノ爲メ及ヒ婦人小兒ニ對スル模範治療所建設ノ代リニ設ケラレタリ而シテ組織參事會ハ獨逸結核豫防中央委員會ヘノ加入ヲ求メ且治療所建設ノ爲メ獨逸ニ於ケル所屬ノ諸團體ト連絡ヲ取ルノ職務ヲ有ス

準備的行動ニ關スル前陳述ハ如何ナル熱心ヲ以テ始メヨリ結核ニ對スル防戰計畫ヲ採用シ問題ヲ速ニ解決セントシタルヤヲ示スコトヲ得ヘシ獨逸結核病豫防中央委員會ハ勞働階級ノ結核病ヲ豫防スルノミヲ以テ満足セス獨逸帝國ノ領土ニ於ケル國民症タル結核病ノ豫防ニ對シ適當ナル處置ヲ獎勵シ且進捗セシメントノ目的ヲ有ス殊ニ無財產及ヒ僅少ノ財產ヲ有スル肺患者ノ爲メ治療所ヲ設立セントシ或ハ必要ナル場合ニ設立費ニ追増金ヲ付與シテカ、ル治療所ノ設立ヲ扶助スルヲ以テ目的トス又各邦各州各地方ノ團體ハ結核病豫防ニ關シ前同様ノ目的ヲ有ス

一七三

千八百九十九年伯林ニ於テ開催セラレタル萬國結核會議ニ於テ「アムハウススタイン」ノ「サナトリウム」ノ院長タル休職少佐ドクトル、ホーエ氏ハ中流社會ノ爲ニ氣焔ヲ吐キテ「從來救助ハ我國民ノ勞働階級ニノミ及ヒ國民ノ大多數ヲ占ムル中流社會ハ何等ノ保護救助ヲ受ケス」ト云ヘリ同氏ハ尙同會議ニ結核豫防上如何ナル方法ニ依レハ中流社會ヲ救助スルニ有効ナルヤノ問題ヲ研究セント提議シタリ斯ノ如キ警醒ノ叫喚ハ我祖國ノ各所ニ於テ時々高マリシナリ余ハ千九百三年ノ年報ニ於ケル「ライボールヅグリュン」ノ宮中顧問官「ドクトル、ウォルフ」氏ノ報告ヲ非難シ而シテ「ッセン大公國ニ於ケル某醫師カ千九百八年ニ與ヘタル警告ニ同意セン同氏ハ中流社會ノ疾病ヲ詳細ニ説明シ而シテ切ニ官廳、官吏、市町村、工業者、商業者、技術者及ヒ著作者ニ中流社會ノ「サナトリウム」ノ建設ニ要スル費用ノ義捐ヲ請ヘリ然レトモ警告ハ何等ノ注當ヲ與ヘサリキ之レ數年前國民治療所ノ爲メ金錢ノ徵收アリシヲ以テナリ

然レトモ世上一般ハ中流社會ヲ全然度外視セスシテ之ヲ救濟センカ爲前述べノ目的ヲ以テ數個ノ治療所ハ設置セラレ直チニ被保險人ノ多少ヲ收容シタリ尙ホ之ヲ以テ満足セス進ンテ被保險人ヲ充分ニ收容スルニ勉メサルヘカラス之中流社會ノ人士ハ多ク治療所ニ收容方ヲ申出サレハナリ然レトモ治療所ハ同目的ノ理由ニ依リ空虚トナラサリシナリ各邦保險所ノ優勢ナル干涉ニ依リ獨逸ニ於ケル結核病ニ對スル鬭爭ハ全然特別ノ方向ヲ取ルニ至レリ曩ニ救護ハ先ツ被保險人ニ配分のニ與ヘラレ而シテ後保險所ノ金錢ニ依リ治療所ノ治療ヲ受ケタリ其後治療所カ爲シ得ヘキ事項カ指示セラレタリ又他方面ニ於テ世人ハ治療所ニ於ケル治

療ヲ以テ満足セス結核豫防ヲ有効ナラシムルニハ救護所重症者用隔離所等尙多クヲ要スルコトヲ認ムルニ至レリ

次ニ余カ中流社會ノ下ニ生スヘキ問題ヲ提出スレハ結核豫防ニ關スル感念カ出來得ル限り廣ク會得セラレサルヘカラサルト及ヒ高價ナル私立養生園ニ入園シ得ヘキ境遇ニ非サル人々ヲ中流社會ニ計上セサルヘカラサルコト之ナリ故ニ下級及中級ノ官公吏下等、中等ノ收入アル商工藝產業ノ從業者僅少ノ資本ヲ有スル手工、商人、農民而已ナラス專門學校卒業者ノ多數即チ法律家僧侶醫師及官吏ノ一部（私有財産ヲ處分セサル）ハ皆中流社會ニ屬ス此等ノ一部ニハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テ治療費カ調達セラレサル而已ナラス補充力ハ停止セラレ爲メニ二倍ノ費用ヲ支出スルコト、ナルモノアリ

廣義ニ於ケル中流社會カ結核病ノ爲メ如何ナル程度迄苦ミタルカニ付テハ今日ニ到ル迄信賴スヘキ根據ナシ然レトモ既ニ各國ニ於テハ職業別ニ依リ死亡數ヲ示セリ之數ヲ實用ニ供セシモ殆ト好果ナシ吾人ハ中流社會ニ於ケル結核病ノ出來事ニ付テ毫モ數的證明ヲ要セス吾人ハ自己ノ視察及經驗ニ依リ結核病ノ現狀ハ毫モ用捨スヘカラサルコト加之結核病ハ中流社會ノ個々ノ集團中ニ最モ多ク生スルコトヲ知ル

中流社會ノ一部ニハ既ニ注意ヲ拂ハレタリ即チ癩疾保險法ニ依リ保險義務ヲ有スルモノアリ帝國保險規則ニ依リ保險義務ヲ有スルアリ運輸事務員、職工長及ヒ之ト同等ノ地位ヲ有スル他ノ從業者（彼等ノ業務カ）其（本務トセハ）他商業補佐人及商業徒弟藥舗ニ於ケル補佐人及徒弟、俳優及囃方、教師及教育者、船乘業者ニシテ定規ノ

年勤勞收得二千麻克ヲ超過セサルモノ皆然リ而シテ獨逸各邦保險所ハ彼等ニ對シ其ノ責ニ任シ又帝國保險規則ニ依リ被保險人ノ寡婦ニ對シ其責ニ任ス其他被保險人ノ範圍ハ使用人保險法ニ依リ出來得ル丈急速ニ擴張セラレ前記ノ者ト雖其年勤勞收得五千麻克ニ達セサルトキハ右ノ範圍ニ包括セラレヘシ使用人保險法ニ依リ治療法ハ帝國保險規則ニ依レルカ如キ同等ノ條件ノ下ニ引受ラル、コトヲ得而シテ新設ノ帝國保險所カ從來獨逸各邦保險所カ爲セル如ク同等ノ範圍ニ於テ治療處置引受ノ權利ヲ行使スヘキコトヲ期待スヘシ諸君ハ既ニ知ル如ク正規ノ年收入二千麻克ニ達セサルトキハ之ニ關係スヘキ人々ハ既ニ保險義務ヲ有シタリキ而シテ彼等ハ尙使用人保險法ニ依ル保險ヲ繼續ス然レトモ二千麻克未滿ノ年收アル私人ノ使用人百四十萬人ヨリ九十萬麻克又ハ年收入ノ三分ノ二ヲ私人ノ女性使用人四十萬人ヨリ其年收約三十萬麻克ヲ保險金トシテ徵收セリ又諸君ハ使用人ノ大多數ニ對シ既ニ注意ヲ拂ハレタルコトヲ見シテ續テ生スヘキハ如何ニシテ帝國保險所及ヒ各邦保險所ハ重複セル被保險人ニ對シ治療處置ノ費用ヲ分配スルヤノ疑問ナリ

中流社會ノ保險問題ニ關シ帝國保險規則ニ依リ前記ノ者カ其ノ年收二千麻克ニ達セサルトキハ保險ヲ繼續シ得ルコト又彼等カ其年收二千麻克以上三千麻克以内ナルトキハ保險加入ハ任意タルコト及聯邦參議院ノ決議ニ依リ小營業者ハ保險義務ヲ負フヘク宣言セラレ且一定ノ條件ノ下ニ任意ニ保險ニ加入シ得ヘキコトヲ注意スルヲ要ス聯邦參議院ハ今日迄保險義務ノ擴張ヲ圖ラサリシヲ以テ此ノ種ノ者ハ全然個々ニ任意ニ

保險ニ加入シタリ此ノ範圍ニ於テ爲シタル經驗ニ因リ法律上ノ強制ニ基キ手工者ノ保險加入カ誘致セラレ得ルノ故ヲ以テ營業者社會ニ保險加入ヲ勸誘スルコトヲ得タリ而シテ獨逸營業團體ノ組合ハ既ニ數年來手工者全體ニ保險義務ヲ擴張セシメンカ爲メ無益ニ爭鬭シタリ然レトモ自己ノ保險ニ依リ常ニ小企業者ハ是迄治療處置ヲ受ケ得タリ而シテ之カ爲メ二三ノ者ハ困難ヲ避クルコトヲ得タリ

中流社會ニ對シ保險所カ注意セサリシ間同社會ハ事實上自己ニ於テ處決シタリ帝國衛生局最近ノ告示ハ是迄中流社會ノ幾部カ治療所ニ於テ治療ヲ受ケタリシヤノ要點ヲ可ナリ表明ス、事務官ドクトル、ハーメル氏ノ「アルバイト」ニ依レハ千九百二年ヨリ千九百四年ニ亘リ獨逸國ニ於ケル治療所ニ結核患者五萬人ヲ收容シタルコトヲ認メタリ又國民治療所ニ於ケル入院患者四萬六千四百三十五人ノ内男子六、八「プロセント」女子一、二「プロセント」ハ自己又ハ家族ノ費用ニテ收容セラレタリ然レトモ保險所ノ費用ヲ以テ入院セル被保險人ノ一部カ中流社會ニ算入セラルヘキコトヲ注意スルヲ要ス之ニ反シ私設治療所ニ於ケル入院患者二千九百三十五名ノ内男子九、九「プロセント」女子九、三「プロセント」ハ自己ノ負擔ヲ以テ治療ヲ受ケ居レリ余ハ自ラ百三十五個ノ治療所ニ付取調タルニ千九百十一年六十二個ノ治療所ニ六千六百三名ノ中流社會ノ患者ヲ收容セルコトヲ知リタリ此ノ數カ全然信ヲ措クニ足ラスト雖トモ中流社會ノ一部カ既ニ治療所ノ治療ヲ受ケタルハ何人モ認ムル處ナリ

中流社會ニ對シ尙治療所ノ擴張カ必要ナリヤ現在ノ治療所ニテハ充分ナラサルヤトノ問題ヲ擡ヘ來ラハ余

ハ斷固タル見解ヲ以テ吾人ハ獨逸國ニ於テ先ツ治療ヲ渴望スヘキ人々ニ治療所ノ治療ヲ果スヘシト云ハン帝國保險局ノ統計表及帝國衛生局最新ノ告示ニ依レハ治療所ノ治療ノ價値ハ吾人ニ疑ノ餘地ヲ與ヘス國民治療所及適宜ノ報酬ニ依リ入院ヲ許可スヘキ私設治療所ノ小部分ハ前問題ヲ解決スルニ事實上關係ス今吾人カ殆ント國民治療所ニノミ關係セル各邦保險所ノ統計及ヒ治療所ノ報告ニ依リ認ムルカ如ク客年夏期中治療所ハ常ニ滿員ニシテ入院ヲ求メタル人々ノ大部ハ永ク待タサルヘカラサリキ之ニ反シ冬期ハ入院患者ナカリシナリ千九百十一年ニ於テ發展シタル治療所ノ内今年ハ四十九個所カ滿員ニシテ二十四ヶ所ハ年中二百二十四個ノ空床ヲ生シタルコトハ余ノ疑問タリ此等ノ事實カ信ナリトセハ吾人ハ歸着點ニ達シタルナリ余ハ「ヘッセン」大公國ニ付テ報告セン千九百十年ニ於テ肺疾患患者千二百七十八名ヲ治療シタルモ千九百十一年ニ於テハ千五百一十一名即チ前年ヨリハ百二十七名ノ減少ヲ見タリ千九百十一年ニ於テハ結核治療ノ爲メニ前年ヨリハ支出額ニ於テ四萬三千麻克ノ減少ヲ見タリ又同年六月一日迄ニ於ケル治療處置申請數ハ千九百十一年ノ其レヨリモ七十四件減少シタリ又男子治療所ハ一ヶ年以上ニ至ルモ唯數日間ノミ滿員タリ「バーデン」及「ウエルテンベルヒ」モ亦之ト同様ノ報告ヲナシタリ「バーデン」國治療所「フリードリッヒハイム」ニ於テハ昨冬五十二個ニ至ル迄空床ヲ生シタリ余ハ種々ノ方面ヨリ注意シテ治療所ノ患者ノ減退スルハ恐ラク醫師カ「ツベルクリン」ヲ多量ニ用ヒ之カ爲メニ入所ヲ求ムルモノ、減少シタルニ起因スルモノナリト推定セリ然レトモ或ハ他ニ理由ノ存スルナランモ「ヘッセン」大公國ニ於テハ斯ルコトナシ余ハ入

院患者ノ減退スル原因ノ少クトモ一部ハ十五ヶ年以來實施セラレタル有勢ノ豫防ニ歸スヘキモノナリトノ見解ヲ有ス而シテ余カ見解ハ從來多數ナリシ結核重症患者カ殆ント入院セサルニ至リタル吾國大市ニ於ケル病院ノ監督醫師ノ報告ニ依リ確證セラル諸君ハ千九百十一年ニ於テ千人ニ對シ 一三、八ヲ示セル死亡數ノ減退ハサテ置キ結核ニ對スル爭鬪ハ既ニ他ノ果實ヲ成熟セシメタルコトヲ見ン

數日前建設セラレタル結核豫防ニ關スル「バイエルン」國地方組合ノ碑銘ニ左ノ意味ヲ以テ書セラレタリ

「冬期間(自十月至三月)男子肺疾患患者ニ對スル治療所ニ於テ病床ノ大部分カ空虚トナルハ男子用治療所ノ數カ少クトモ充分ナルコトヲ證明ス」

治療所擴張ニ付同所醫師ノ意見分レ七十八箇所ノ内四十六箇所ヲ擴張シ三十二箇所ヲ其儘トスヘシト云フモノアリタリ

婦人及ヒ小兒ニ對シテハ從來男子ノ如ク注意ヲ拂ハレサリキ之レ主トシテ治療所ノ治療(僅少ノ費用ヲ要シ或ハ全然之ヲ要セスト雖)ヲ受ケシムル様勸誘スルコト殆ト困難ナルニ起因ス

治療所擴張ノ問題ト聊カ關聯シテ生スルモノハ中流社會ノ人士ヲ勞働者ト共ニ一治療所ニ收容シ得ヘキヤ若シ一緒ニ收容ストセハ之カ分離ヲ生セシムルノミニテ僅少タモ利益ナキヤノ問題ナリ結核病ニハ人類階級ノ差別ナシ又治療ハ平等ナルヘシトノ見地ヨリ見ハ諸階級カ一治療所ニ合同スルハ本來ナラン此ノ合同ハ稱譽スヘキ事ナリ何トナレハ各種ノ階級カ長ク共同生活ヲ爲サハ互ニ其特質ヲ知り善事ヲ學ヒ相互間ニ

教育的注入ヲ爲セハナリ此ノ點ニ付試驗ノ爲メ吾人ハ二個ノ治療所ニ私費患者ヲ收容シタリ而シテ今日ニ到ル迄特ニ不都合トテナカリキ然レトモ余ハ患者カ健康ヲ回復セントノ唯一ノ思慮ヨリ行動スルヲ以テ共同生活ハ可能ナルコト、受領スヘキ權利ナキ物ヲ購入セサルヘカラサルコトヲ開カサルヲ得サリキ婦人ノ共同生活ハ一般ノ視察及ヒ余ノ實驗ニ依レハ良好ナリ之レ婦人用治療所ニ於テハ何タル政策モ行ハレサルヲ以テナリ前記疑問トナリタル治療所ノ内四十一個ハ階級ヲ分離シ三十二個ハ共同的ニ居住セシムヘシトノ意見アリタリ之ニ付テハ各々觀察ノ異ナレルハ諸君ノ知ラル、處ナリ余ノ意見ニテハ大體疑問ニ對シ確實ナル回答ヲ與フルヲ得ス抑モ健康回復ヲ危險ニナシテ迄モ人ノ本性ヲ強制スルコト能ハサルナリ若シ患者カ意志ニ反シスル治療所ニ赴キ意志ニ反シ食卓(彼等ハ恐ラク何物ヲモ食シ能ハサラン)ニ就カサルヘカラサルコト、ナラハ治療ノ結果ハ疑問トナルナラン故ニ實際上階級ヲ分離セシムル事ヲ宜シトス數多ノ治療所ハ既ニ主トシテ財政上ノ都合ニ依リ各種階級ノ患者ヲ有ス之被保險人ヲ收容セサレハ治療所ハ存立シ能ハサレハナリ既ニ一部ノ治療所ハ之ヲ實行シタリ而シテ或ル治療所ニ於テ下等室ノ患者ハ排斥セラレタルヲ感シ彼等ノ怨嗟ハ惹起セラレタリ善美ナル和合ニハ取扱醫師ノ人格カ大ナル影響ヲ與フルハ明白ナリ然レトモ善美ナル和合ハ尙種々ノ他ノ事情ニモ關係スヘシ兎ニ角各種ノ部ニ分離スルコトハ實行シ得ヘク治療所ノ分離ハ就中宜シトス

中流社會ノ治療所ニ國民治療所ヲ變更センカ爲メニ爲ス大ナル模様替ハ必要ナラサラン之レ獨逸國ニ於ケ

ル現在ノ國民治療所ハ中流人士ノ要求ニ満足ヲ與フレハナリ然レトモ國民治療所ハ屢々餘リ贅澤ニ建設セラレタリトノ非難ヲ受ケタリ此ノ必要ナリト稱スル建築模様替ハ現在ノ大寢室ニ境界壁ヲ設ケ豫定ノ如ク小室ニ區分スルニアルナラン此事タルヤ建築方ニ依リ單獨ノ治療所ニ於テハ容易ニ實行セシメ得ヘキモ他ノ治療所ニ於テハ困難ナリ

余ハ曩ニ結核病ニ對シ治療所ノ治療ノミヲ以テ爭鬪セシテ「ローベルト、ゴッホ」氏ノ當ニ云ヘルカ如ク「ゴッセル」氏カ最近羅馬ニ於テ結核會議ノ席上絶叫シタルカ如ク人類間ノ傳染ヲ豫防セサルヘカラサル事ヲ説示シタリ此ノ傳染ヲ防キ且之ヲ禁制スル爲ニ中流社會ハ協力セサルヘカラス而シテ此中流社會ハ労働社會ヨリ之ヲ爲スニ都合ヨキ境遇ニアリ之レ前者ハ後者ヨリヨリ善キ住所ヲ有シ且必要ナル處置ヲ遂行スルニ容易ナレハナリ

治療所ノ擴張及治療所ノ治療其他諸般ノ處置ヲ實行スルニハ金錢ヲ要ス金錢ニ待タサルヘカラス而シテ如何ニセハ此ノ大ナル争鬪ニ必要ナル金錢ヲ調達シ得ルヤ之ニ付テハ後刻吾人ニ建議セラルヘシ此ノ金錢ノ調達ヲナサントセハ政府、市町村、私人ニ多クノ要求ヲナスニアリ之レ容易ノ業ニ非ス然レトモ任意ノ給付ニ依リ尙幾分ノ目的ヲ達シ得ヘシ之レ商人養生園ノ建設ニ依リ證明セラルヘシ就中中流社會ハ自ら一層多ク給付セサルヘカラス此ノ社會ハ任意保險ニ依リ治療處置ヲ受クヘキモ從來毫モ之ヲ利用セス其ノ多數ハ今日ニ到ルモ尙利益ヲ無視シテ殆ント結核病豫防合同ニ關係セサル而已ナラス該社會ハ内地ニ於テ比較

的廉價ニテ治療所ニ入所シ得ヘク外國ニ赴キ治療ヲ受クルノ要ナキヲ知ラサルモノ、如シ諸君ハ余ノ陳述ニ依リ推定シタル如ク余ハ治療所ノ擴張ニ關シ根本的反對ヲナス者ニ非ス擴張ノ必要ヲ生シ且資力ヲ有スルトキハ設立ニ同意スト雖大ナル注意ヲ以テ前進セサルヘカラスト信ス先ツ現在ノ各國民治療所ノ全部又ハ一部ニ中流社會ノ肺疾患者ヲ留保シ必要ナル場合ハ適當ノ準備ヲナス様實驗セシメヨ

其他現在ノ私設治療所ニ於テ中流社會ノ人士ニ對シ其ノ入所料ヲ適度トナスコトニ努力セヨ

余ハ扶助基金及施療基金ヲ設クルヲ以テ最モ緊要ナリトス然レトモ扶助ハ出來得ル限り患者ニ扶助ヲ受ケ居ルトノ感ヲ全然惹起セシメサル様與ヘラレサルヘカラスト又治療所ノ新設ハ豫メ資本金ノ利息カ全然必要ナラストノ前提ノ下ニ熟考セラレサルヘカラスト

何ハトモアレ中流社會ニ於ケル結核病豫防ニ關スル強力ノ運動ハ喜ハシキ事ナリ故ニ獨逸中央委員會ハ此運動ヲ各方面ニ向テ扶助スヘシ之レ樞密高等醫事々務官ドクトル、キルヒナー教授カ獨逸學校衛生協會ノ總會ニ際シ陳述シタルカ如ク中流社會ノ爲メニ此ク爲スハ獨逸國民ノ榮譽タルヘキ義務ナレハナリ

討 論

事務官 ドクトル、ベルグマン氏(ステッテン市)

余ハ報告者諸君ノ報告ニ依リ左記二項ヲ確定セサルヲ得ス

一、結核病ハ保險義務者ノ結核豫防ニ不結果ヲ來ス迄中流社會ニ侵入ス

二、帝國保險規則及使用人保險法ハ一般ノ社會ニ結核病救護ノ請求權ヲ付與スト雖尙中流社會ノ大部分ハ此ノ保護ヲ缺ク

既ニ報告者カ報告シタル如ク以上ノ事實ハ二ヶ年來中流社會ニ於ケル結核病救護ノ爲メ運動ヲ惹起シタリ而シテ此運動ハ千九百二十二年一月五日內務局ニ於ケル會議ニ於テ中流社會ノ救護ヲ目的トセル委員會ノ設立ヲ產出スルニ至リ又此ノ會議ニ於テ中流社會ニ於ケル結核病救護カ自衛上根本的必要ナルコトヲ認メ同時ニ結核病豫防ニハ左記三種ノ方法ヲ採用スヘキコトヲ定メタリ

a 中流社會ノ諸團體及諸組合ハ獨逸全國ノ救護委員會ニ合同スルコト

b 既設ノ結核病豫防上ノ諸施設ヲ接近セシムルコト

c 獨逸國各地ニ於ケル中流社會ノ保險義務者ト保險義務ナキモノノ爲ニ必要ト認メラル、トキハ既設ノ治療所ヲ有益ナラシメ且治療所ノ新設ヲ獎勵スルコト治療所ノ建設ニハ委員會ノ決議ヲ要ス此ノ理由ヲ以テ差當リ中流社會ノ婦人及兒童ノ爲メニ模範治療所ヲ「ホーエンリーヘン」ニ設立セル赤十字ノ國民治療所團體ノ第十四部「ミッテルスタンドライメ」ハ委託セラレタリ

委員會ハ獨逸中央委員會ニ直接ニ結合スルヲ以テ其職務ヲ最善ニ實行シ得ヘキモノト認メ同會ニ加入方ヲ請願シタリ

四月二十七日ニ於ケル理事ノ決議ニ依リ加入ヲ許可セラレ而シテ從來存在セル委員會ニ代リ大臣「ボード・ピールスキ」閣下ヲ推戴セル「中流社會ニ於ケル結核病救護委員會」ナルモノ出現シタリ本會ハ其ノ職務範圍ニ於テ獨立シ其他ハ獨逸中央委員會ト共同ノ活動ヲナス

中流社會ニハ人民ノ多數ヲ網羅スヘキハ報告者諸氏ト意見ヲ同シクスル所ナリ即チ勞働者ノ階級及富者ノ階級ニ屬セスシテ下ハ手工業者下級官吏ヨリ上ハ高級官吏及重要ナル商工業者及ヒ之ト類似ノ職業ヲ有スル者ハ之レ皆中流社會ノ分子ナリ

此ノ中流社會ニ於ケル救護ノ擴張ハ千九百十二年二月七日帝國議會開會ニ際シ陛下ヨリ下シ賜ヘル「所有階級ニ於ル國民ノ幸福ヲ保護スルハ余ノ目的トスル所ナリ既ニ一世紀前ヨリ社會的救護ハ帝國ノ立法部ニ於テ著シキ地步ヲ占メ尙昨年ニ於ケル最後ノ會期ニ於テ國民ノ廣キ範圍ニ及ホス保險ノ幸福ヲテフ議題ニ付研究セラレタリ此議題ヲ產生シタル社會的精神ハ又將來統御セサルヘカラス何トナレハ此精神ノ發展ハ停止スルコトナケレハナリ」テフ勅宣ノ御希望ニ適ス三月二十二日帝國議會ハ中流社會ノ結核病豫防ニ付商議シタリ而シテ吾人ノ爲シタル決議即チ聯邦政府ニ請願シ國民ノ救護ヲ受ケ居ラサル範圍モ亦恩典ニ浴スル様結核病豫防ノ好果ヲ保證スヘキ法案ヲ速ニ議會ニ提出スルコトハ承認セラレタリ云々

ドクトル、ホッフ教授(伯林)

前兩氏ノ演述ハ中流社會ニ於ケル結核病豫防問題カ如何ニ重要ナルカ又如何ニ至難ナルカヲ明ニ示サレタ

リ結核病豫防法ハ大體救護的豫防ト個人的治療ノ二個ニ區分ス吾人カ今日拜聽シタル事實ハ個人的治療ニ關係シ救護的豫防ハ可ナリ會得シ得ヘキ理由ニ依リ除外セラレタリ好意ヲ以テ患者ニ對立セル人ニハ治療ハ最モ重要ナルカノ如シ治療義務ハ患者ニ重要ニシテ又患者ハ如何ナル場合ニテモ治療ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

治療ニ依ル結核病豫防ハ結核病ヲ抑壓センカ爲ニ努力スヘキ結核病豫防ノ一部ヲ形成ス然レトモ該豫防ハ現今實際上多大ノ費用ヲ要ス此費用ノ支出ハ又今日ニ至ル迄中流社會ニ對スル救護上ノ努力ヲ水泡ニ歸セシムルニ至レリ諸君ハ各所ニ中流社會ニ對スル治療所カ創立セラレタルコトヲ記憶セン當時警醒家ハ伯林「ブランデンブルヒ」ノ治療所團體ノ「フォン、ライデン」及「ベ、フレンケル」兩教授ノ指揮ニ從ヒ特ニ中流社會ノ爲ニ治療所ノ救護ヲ爲サ、ルヘカラスト絶叫シタリ而シテ之レカ爲メニ治療所ハ建設セラレタリト雖事實上患者ヲ此處ニ寄宿セシムヘキ資力ヲ缺キシナリ

只今多額ノ金錢ヲ準備センカ爲メ新シキ建議案カ提出セラレタリ新シキ私官吏保險ニ加入スル中流社會ニ對シテハ該保險ノ爲金錢カ免除セララル、コトハ全然疑ヲ容レス然レトモ中流社會ノ所屬員ニ對シ如何ナル範圍ニ於テ前同等ニ爲シ得ヘキカハ正ニ疑問ナリ

樞密顧問官「デ、トツ」氏ハ多數ノ中流社會ノ所屬員ハ廢疾保險ニ任意ニ加入スルコトヲ得ト公正ニ述ヘラレタリ而シテ縣事務官「ベルグマン」氏ハ今年一月五日開催ノ會議ニ於ケル報告中ニ私的保險ノ方法ニ依リ

金錢調達カ恐ラクハ出來得ヘケント指示シタリ吾獨逸國ノ各生命保險會社ハ從來結核病豫防ニ從事シ諸般ノ獎勵ヲ停止シタリ然レトモ該保險會社カ其ノ意見ヲ變更シ組織的方法ヲ以テ中流社會ニ於ケル結核患者ノ救護ニ着手スルハ可能ノコトナラン私設保險會社ニシテ保險料附加ニ對シ治療所ノ治療ニ要スル金錢ヲ被保險患者ニ付與シ以テ結核病救護ヲナス二三ノ模範トスヘキモノアリ今之レカ例ヲ示サン

「トリグ」ト稱スル瑞典國ノ國民保險會社ニ於テハ被保險人カ其年齡ニ從ヒ每週五乃至十五「エーレ」宛ノ特別保險料ヲ同會社ニ支拂フレハ金額五百「クローネン」又ハ其レ以上ノ國民保險ト關聯シテ結核病保險ノ契約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ此ノ保險契約期間ハ醫師ノ診斷ヲ受ケタルトキハ一ケ年之ヲ受ケサルトキハ二ケ年トス被保險人結核病ニ罹リタルトキハ現金二百五十「クローネン」又ハ會社ノ費用ニテハ二百五十「クローネン」ニ對スル病院ノ看護ヲ受ケ其他發病ノ時ヨリ回復ニ至ル迄保險料ノ支拂ヲ免除セラル而シテ前記二百五十「クローネン」ハ保險證券額ノ前拂ト見做サル之ト同様ノ方法ヲ取リタルハ和蘭國生命疾病保險會社「ラードバンシヨナル、ヨリアン、ド、ウイット」ニシテ被保險人カ附加保險料ヲ支拂フレハ疾病ニ罹リタルトキニ於テ病院ノ治療ヲ受ケ即チ年齡三十歲未滿ノ被保險人ハ二、五〇「グルデン」年齡三十歲以上ノ被保險人ハ一、五〇「グルデン」ノ特別保險料ヲ支拂フレハ同會社ヨリ結核病給養金トシテ百「グルデン」ヲ受ク但シ保險金額三百乃至千「グルデン」ナルトキハ百五十「グルデン」ヲ又保險金額千「グルデン」以上ナルトキハ二百五十「グルデン」ヲ超過スルヲ得ス此ノ會社ノ支拂金ハ保險證券額ノ前拂金ト見做サレ被保險人

カ保險終期ヲ超過シ生存スルトキハ半減セラル、コト、ナリ居レリ

此種ノ保險形式ハ別トシテ吾カ獨逸國ニ於テ自衛上右ト類似ノ事業カ可能的ナルコトヲ實驗シタル模範アリ即チ「ニールンベルヒ」ニ於ケル精神病患者扶助團之ナリ同團ハ二十五年以來ノ創設ニ係リ各團員ハ年賦金二麻克ヲ納付シ疾病ニ罹リタルトキハ精神病院ニテ三等ノ看護(無料)ヲ受ク又夫婦同時ニ團員トナルトキハ毎年四麻克ヲ納メ而シテ兩者ノ間ニ生シタル兒童ハ之ニ依リ總テ二十一歲ニ至ル迄兩親ト同等ノ請求權ヲ收得ス年賦金五麻克乃至十麻克ヲ納付セハ二等ノ看護ヲ受ク三等ニ對スル納付額ニ二麻克ヲ二等ニ對スル納付額ニ五麻克ヲ追納スルトキハ其ノ兒童カ未成年中ニ精神病ニ罹リタルトキ二十一歲以上ニ達スルモ看護ヲ受クル事トナリ居レリ此ノ團體ハ二十五年以降九千四百名ノ團員ヲ得其財產二十四萬二千麻克ニ達セリ而シテ該團體ハ其成立後看護費十六萬麻克ヲ支出シタリ而モ團員三十四名カ精神病院ニ收容セラレタルニ過キス精神病患者ト結核患者トハ素ヨリ共ニ平行スヘキモノニ非ス前者ハ長ク數年間病院ニ止マリ其數ニ於テモ亦後者ヨリ非常ニ少ナシ後者ハ唯數ヶ月間病院ニ止マリ其數甚タ多シ然レトモ吾人カ新ニ組織セラレタル委員會ニ依リ各種ノ中流社會ノ合同ト關係ヲ結フトキハ此ノ委員會ニ依リ順次中流社會ノ合同ニ前記精神病患者看護團ト類似ノ結核病患者救護ニ對スル組織カ形成セラレサルヘカラス然レトモ本來ハ救護所ニ委托サレサルヘカラサル豫防的救護ノ重要ナル部分カ常ニ尙殘存ス吾人ハ先キニ調達スヘキ基金ヲ以テ救護所ヲ設クルハ熟考スヘキコトナリト聞ケリ然レトモ余ハ該基金ハ本來個人救護